

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
現代と教育	3	前期	選択	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は興味関心によるものと単位のためのものが半々であった。ただし、授業は歴史的事例の検討が中心となるため、いかに興味を持ってもらうかが授業準備段階のねらいであった。 そのために、導入部分に学生の体験を結びつける現代的な遊びの特徴を設置した。男の子の遊び、女の子の遊びを比較しながらその特徴をとらえ、共通点と相違点から見える現代の遊びの様相を大まかに理解させる教材を工夫した。今期は「妖怪ウォッチ」のような大ヒットした遊びがないため、ポスト妖怪ウォッチについて新しいテクノロジーとの関連から紹介し、学生の遊び体験とどのような点が変化してきたかに興味を持たせ、その後の過去に遡った遊び文化の歴史的展開への土台作りを心がけた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全学科平均76.7、学科平均78.1。秀3(37.5%)優1(12.5%)良2(25.0%)可2(25.0%)不可0。昨年度は秀1、優1。知識理解は十分満足できるレベルである。思考力を要求される設問にも答えることができた。本年度は出席状況も問題なく、満足できる結果であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	例年の傾向からすると受講動機の側面からいえば、単位のために受講しているところから出発している。しかし、学科の位置づけからすると、社会/文化/歴史に触れることは不可欠である。また、教職課程在籍者も含まれるため、教職教養としての意味も大きい。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	前年度と同様、今回の好成績の要因として、受講動機の半分が興味関心にある点が挙げられる。欠席回数が多いことが問題であったが、テストの得点には影響していない。 今回の授業改善のポイントとして、出題する問題形式の形で授業内容の理解を促すよう促した点にある。授業を行った内容について、例えばこのような問われ方をするというまとめプリントを配布した。このやり方は例年も行っているが、今回はまとめプリントを記憶しても役に立たず、プリント内容をこの程度まで理解していれば問題文が変わっても対応できるし、そのような理解の仕方が必要だという解説を行った。 具体的イメージにくい箇所については例年通り、以下の様な取り組みを行った。 (1)江戸時代の解説という高校の教科書的な補足ではなく、テーマと関連して理解すべき時代の特徴を代表するエピソードなどを通じて理解を深める教材を準備する。(2)画像、動画、実物教材など、見て聞いて触れる学習機会を増やす。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本年度の授業達成は満足できるものであったと考える。次年度以降は看護学科で本授業は開講されない。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	吉武 由彩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
現代社会と家族	3	前期	必修	いいえ	113

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機を見ると、必修科目であるが97.8%である。現代社会と家族について社会学の観点から学ぶ本講義は、看護学科の学生にとってはなじみがないものと思われ、実際に授業中に全体に尋ねたところ、これまでに社会学の講義の受講経験がある学生はいなかった。そのため、3年生の授業ではあるが、初学者向けとして、社会学の基礎的な知識から丁寧に確認することを心がけた。また、現代社会と家族に関する社会学の観点からの授業がどのように看護という現場につながるのかを折に触れて言及するように心がけた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の期末試験の結果を確認すると、大多数の学生がSあるいはA評価であり、授業内容について理解していた。加えて、授業評価アンケートの到達度自己評価においても、各項目の平均値が3.7～3.9であり、受講生は授業内容をある程度理解していると自己評価していた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機を見ると、必修科目であるが97.8%であり、ほとんどが必修科目として位置づけられているからとの理由で受講していた。現代社会と家族について社会学の観点から学ぶ本講義は、看護学科の学生にとってはなじみがないものと思われる。そのため、本授業がどのように看護という現場につながるのかを折に触れて言及するように心がけ、その結果、多くの学生は授業内容をある程度理解していると自己評価していた。しかし、自由記述をみると、一部の学生においては、本授業がどのように看護と関連するのかかわからず、なぜ必修科目として位置づけられているかわからないという意見がみられた。必修科目としての位置づけは、非常勤講師である担当者が決定したものではないので、仮に変更の必要があるならば、学科で検討してほしい。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	到達度自己評価、授業の質評価とも、平均値3.7～4.0に位置し、全体としてはおおそ良好な評価であると受け止めている。一部自由記述において学生からの意見がみられた。受講内容が簡単と感じた学生もいたようだが、これは、受講生の大多数が社会学の授業を初めて受講していたからである。授業中に学生に意見を板書してもらう機会を設けたのも、初学者向け授業におけるイントロダクションとして、互いの現時点での理解度を確認し、社会学の理解を深めるためである。本授業が看護にどう関連しているのかわからないという点については、関連性は折に触れて説明してきた。しかし、必修であるにも関わらず関連性が薄いという不満であるならば、担当者は非常勤講師であるので、学科側に要望してほしい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生は授業内容についておおそ理解していた。到達度自己評価、授業の質評価も良好であった。なお、来年度は本講義は担当しない予定である。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	小野 正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
小児看護学演習	3	前期	必修	いいえ	113

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機をみると、100%が「必須科目である」ため、関心のある内容と考えている学生は、12.1%であった。これらは毎年の傾向であるため、より積極的に関心を持って参加出来ることを期待し少人数(3～4人)のグループを組むことを今年も実施した。本科目は、3年後期から始まる臨地実習に向けて看護実践のための知識・技術・態度の準備状況を整えるための科目である。これまでの知識を統合して患児家族の状態を判断し、看護計画をたてられるように、臨床場面を想定したペーパーベシメントを使って、グループワークを中心に学習を進めていくようにしている。今年度も病棟で学生たちが受け持つ可能性が高く国家試験にもよく出題されるような疾患で小児の各発達段階を考慮した事例展開を行った。また、昨年度課題としていた事前学習の内容や各回の到達目標の提示、提出物の内容、期限等についてもわかりやすくなるように一覧表を作成し、授業初日に配布し、進行状況や学習の予定を把握しやすいよう工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均点は、81.5点(秀13名、優57名、良40名、可3名)であった。また技術テストの再試(80%未満)該当者は8名だったが全員合格している。目標別にみると、思考判断76.9%、関心意欲74.4%、態度94.3%、技能表現91.7%と概ね達成状況にあると考えられる。思考判断は7割台となっており、さらなる目標達成に向けて根拠に基づいた思考・判断ができるよう授業内容の工夫が必要と考えられる。技術演習については、今年度も4年生の看護総合演習で小児看護学を選択した学生7人にティーチングアシスタントを依頼し効果を得ている。 学生の自己評価では、各項目でまあまあそうだと思うからかなりそうだと思うまでを含めると全員が肯定的な評価をしている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は、専門教育科目の中の看護実践の応用・展開に当たる教科で、看護を学ぶための基礎、看護実践の基本や小児の看護過程を展開するための基盤となる小児看護学概論、小児看護方法論を踏まえ、健康障害を持った小児看護の展開を学ぶための科目である。必須科目であり、関心を持って選択したのは2名であるが、一定の成績を修めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみた内容的妥当性 思考判断、意欲関心、態度、技能表現ともに70%～90%以上であり、ある程度の目標は達成されており、妥当であったと考える。ただし、DPの中でも思考判断が70%と低いため、改善に向けての課題を残している。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には、問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	グループワークを通して看護過程の展開を理解していく方法を主としている。この方法は他人の考え方を知って視点を広げ学ぶというメリットもあるが、一方でグループメンバーに任せっぱなしになってしまい、自分ではよくわかっていなくても、グループとしては看護過程が出来上がっているという状況もみられるため、個人の理解度を明確に把握できない欠点もある。これについては、グループごとに自分たちで協力するにはどうしたらいいか、公平な分担をどのように確保するか工夫をしながら進めてもらい、ピア評価を取り入れて多少貢献度の修正をしている。また、学生からの意見で、3人が少なすぎるという意見もあるが、ちょうどいいという意見もあり、学年の特徴を考慮しつつ今後も検討を重ねていきたい。事例展開の方法は去年と同様の方法で、できるだけ時間内にグループワークを行い、いくつかのグループに発表をしてもらいながら、1つ1つ段階を踏んで理解を進めていけるようにした。その後模範解答を提示し、各自内容を確認できるように配慮した。更にきめ細かな指導を考えていきたい。授業評価アンケートのなかで、看護技術の講義が1回(2コマ)で教科書1冊が終わるのは、短時間で覚えられないし意味がないとの意見があった。15コマの演習の中で看護過程の展開や実技の習得を含めるのはかなり厳しい状況で学生の自己努力も求められる科目で、このように感じる学生もいると思われる。したがって小児の看護技術では基礎や成人の看護技術を基盤とした上で小児に特徴的なところを中心に講義をし、重要なところは授業中に強調し、イメージしにくいものはDVD等で理解を深めてもらっている。また学内での技術演習・テスト(4コマ)で補強・確認を行っている。それでも進行が早くついていけない学生がいるのも確かで、時間的な限界もあり、今後はe-learningなどの自己学習教材の活用も検討をしていきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	・本科目は、専門教育科目の中の看護実践の応用・展開に当たる教科で、看護を学ぶための基礎、看護実践の基本や小児の看護過程を展開するための基盤となる小児看護学概論、小児看護方法論を踏まえ、健康障害を持った小児看護の展開を学ぶための科目である。目標は、全般的に一定の達成度を得たが、思考・判断領域に関しては引き続き課題を残している。毎年試行錯誤ではあるが、学生のつまづきを早期に見つけ、個別またはグループでの指導方法を取り混ぜながら自分で考えていくための方法を習得できるよう教員間での情報共有も積極的に行いたい。 ・技術テストに関しては、実施内容・方法の再検討や、練習時間の確保等、引き続き改善を図りたい。さらに講義、演習内容の理解を助けるためにe-learningなどの自己学習教材の活用を検討していきたい。 ・グループワークを進める際に、理解が困難な内容については、引き続きより分かりやすい言葉や、具体例などを用い学生の理解を促していきたい。また、引き続き提出物の内容・期限については、一覧表にして授業開始時に配布するようにしたい。 ・グループワークの時間配分や進め方についても、学生と教員間で積極的な質問・意見交換が出来るような工夫など取り入れたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	古賀 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
母性看護学演習	3	前期	必修	いいえ	113

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、母性看護方法論に引き続き、母性看護学実習に必要な母性看護技術や看護過程の方法を習得することを意図して技術演習と看護過程演習の演習を計画した。看護過程演習については、例年と同じく、ウエルネス診断を用いた看護過程の方法を解説し、事例について情報収集から看護計画の立案まで演習を計画した。その中で、今年度は、配布資料にアセスメントを考えるうえで押さえてほしいポイントを追加し、解説することで学生の理解を図った。 また、学生が事前に行った課題について学生間で各々の内容を確認しあう時間を設け、新たな思考や不足な知識の発見につながることを意図した。そのうえで、学生の発表をもとにアセスメントの考え方について解説を行うこととした。講義時間内は、学生を4グループに分け学生からの質問に迅速に対応し、理解が図れるよう各グループに担当教員を配置した。 技術演習については、沐浴などの母子に必要な支援技術を実施した。他領域の教員も加え、できる限り全員が技術演習を経験でき正確な技術を経験できるよう努めた。沐浴については、技術試験にそなえ学生が講義内で練習し、不明な点を教員に確認できるよう担当教員を配置し、技術の習得に努めた。さらに、今年度は演習における学びを技術レポートにまとめることで根拠の理解を図った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は82点であり、再試対象者は0名であった。最終的に全員が標準レベルに達した。さらに、72%が理想的レベル(概ね80点以上として作成)に達していた。 DP別にみると、知識理解に関しては80%、思考判断に関しては80%、関心意欲に関しては90%、技能表現に関しては90%であった。 全ての目的において数値的には目標達成できていると思われるが(中央値は4.0点)、個々をみると個人差が大きく、授業の質においては「そうでないと思う」と回答する学生がみられたことから、授業の内容について検討が必要である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、「看護実践の応用・展開」に属し、周産期に属する対象者に必要なケアを提供する能力を育成するための必須科目でる。学生は一定の成績をおさめていることから内容的妥当性は問題ないと考ええる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	今回は、事例による看護過程のアセスメント資料の内容を見直したことが学生の理解につながった考える。一部からは、「説明が理解しやすいものではなかった」「グループワークが効果的でなかった」という意見もあったため、更に個々の理解につながるための方法を検討していく必要がある。 技術演習については、ほぼ全員が目標達成できているため、方法については妥当であったと考える。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	全体的には目標達成できていると思われるが、個人差もみられることから、今後は受講者全員が満足した講義であるように、授業内容や進行方法について学生の意見を取り入れて改善していきたい。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	高橋 甲枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
リハビリテーション看護学	3	前期	必修	いいえ	115

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①「リハビリテーション看護学」は、既習の形態機能学、疾病学、成人急性期看護方法論、成人慢性期看護方法論、老年看護学などに関連する科目で、急性期疾患だけではなく慢性期疾患におけるリハビリテーション看護について構成している。また、理学療法士、摂食・嚥下認定看護師、さらに皮膚排泄の認定看護師を外部講師として招き、技術演習を取り入れた。 ②受講動機をみると、「必修科目である」99.0%と最も多く、次いで「資格取得に必要である」6.0%、「関心のある内容である」1.0%と低かった。本科目は必修科目であり、3年次後期からの実習に向けて取得不可欠な科目であるため、致し方ないと思う。 ③3年次前期は、他の科目でグループワーク等が多く、課題も多い。オリエンテーション時に他の科目との調整を行いながら学習していくことを伝えていたが、33%がシラバスを参考にしておらず、67%が計画を立てていなかった。 ④リハビリテーション看護の実技演習は、後期からの実習で実践できるような内容を取り入れているため、学生の学びに繋がったと考える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①総合評価の平均値は73点(SD6.8点)、最高89点、最低55点だった。80点以上が9名で7.8%、70点以上80点未満が、67名で58.3%、60点以上70点未満が25名で21.7%、60点未満が5名で4.3%であったが再試験で合格とした。 ②DP観点別の成績は、DP1-2(知識・理解)は、48.8点/65点、(得点率75.1%)。DP2-1(思考・判断)は、19.5点/30点、(得点率65.1%)、DP3-1(意欲・関心)は4.7点/5点(得点率94.4%)であった。 ③学生の到達度自己評価の平均値は、4.0(4.1-3.8)で、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」4.1で、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が3.8であった。 ④授業の質評価の平均値は、4.0(4.1-4.0)で、「期間内で行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」4.1であった。 ⑤学生の学習量評価は、1回30分以上の予習・復習をした学生が、78.3%・98.1%で、4回以上した学生が22.6%・24.5%であった。課題以外の学習に取り組んだ学生は、56.6%と多く、自由記述をみると他科目の「課題が多くて」、「時間がなかったから」と回答していた。一方、課題以外の取り組みとして、「分からない単語を調べた」「本を読んだ」、「調べ学習」をしたと回答していた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」で、看護師国家試験に関連する科目で必修である。定期試験の平均点から考え、内容的には妥当であると思う。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から、「思考判断」の達成度が低かった。定期試験において、国家試験レベルの状況設定問題で「思考判断」を評価したが、基本的な理解の不足のために解答できなかった可能性がある。応用する力を付けるために講義の工夫を行っていきたい。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題はない。本科目はカリキュラムの改定により来年度より開講されないため、他科目にて知識の定着を行う必要がある。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①学習達成度、到達度自己評価、授業の質評価の結果は良好で、理学療法士、摂食・嚥下認定看護師、皮膚・排泄認定看護師とともに演習を構成したことは、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」と学生の学習への関心・意欲に繋がっていたと考える。 ②「期間内で行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」と評価しており、昨年度を踏まえて構成を変更した効果と考える。 ③図書館等の利用は、「図書館の図書・雑誌を利用した」53.8%、「CiNiiなど図書館から利用できる学術データベースを検索し、利用した」34.0%、「インターネットのホームページを検索し、利用した」52.8%であり、文献を使用した課題の検討も必要である。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	①概ね目標は達成できたと考える。昨年度よりも平均値も高い傾向がみられた。例年ではあるが、基礎的な知識をもとに応用する力が低く、それは基本的な知識の定着がなされていないためと考えられる。思考判断については今後の課題となった。 ②演習では、様々な体験を意図的にさせるために、項目立てを行うなど工夫を行ったことで、主体的に学ぶ姿勢がみられた。 ③本科目は、急性期から慢性期そして維持期にかけて、患者の障害に対応した看護と演習を取り入れてきた。次年度から新しいカリキュラムに改定されるため、これらの内容を他科目でどのように構成するかを検討していく必要がある。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	大嶋 満須美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
成人・老年看護学演習	3	前期	必修	いいえ	113

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は専門基礎科目、看護基礎科目、成人・老年看護方法論など既習の知識を総合的に活用する応用科目である。演習内容は看護過程と関連技術の修得を含み学生にはスケジュールの確認を行いながらシラバスを十分に説明後、計画性を持つことを促した。看護過程演習では、毎回、個人が取り組む事前課題をベースにグループで討議し、看護過程の展開が出来るようグループ担当の教員が指導に携わった。グループワークを通してお互いの意見交換をすることにより、理解を深めること、協力し合う関係性を向上できることを目指した。また、技術演習では、成人・老年看護学の基礎的な技術修得に向けた演習を組み、エビデンスに基づいた看護援助が行えるよう解説し、確認テストを実施した。演習後、教員間で情報共有と進め方について協議し、検討を重ねている。学生評価の自由記載には教員の対応が違うことや課題が多いことの記述があり、状況の確認とともに演習指導についても次年度に向け継続的に検討をする。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	平均点は72.2点であった。再試験者対象者はいなかったが標準的レベル(70～80点)に及ばない学生が39名(34.5%)であった。理想とする到達レベル(80点以上)に達した学生は18名(15.9%)いた。到達度は昨年より低いものの概ね教育目標は達成できた。目標別にみると「思考・判断」については達成度が63.4%とやや低く、標準的レベル(70～80点)に到達できなかった学生は「知識・思考・判断」の項目が低い。理解をするための知識の活用や判断・根拠に導くための思考の整理が課題と言える。教員が個別に関わることで、論理的に「思考・判断」が幾分でき始めている。今後、臨地実習において学内演習の成果として事例展開ができることが課題である。 「関心・意欲」については83%程度達成できた。また、グループワークではグループメンバーを4～5名程度の少人数にすることで、空き時間を利用するなど、全員が真面目に取り組む姿勢が見受けられた。事例に対する質問をはじめ、実践への関心と意欲がわきつつあること、そして後期の実習に向け、今回の演習の柱である看護過程を展開し、直接ケアを提供するという準備性が認識でき、意欲につながったのではないかと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、専門教育科目の中の看護実践の応用・展開にあたる科目で、看護を学ぶための基礎や看護実践の基本をふまえ、成人期、老年期の発達課題と疾病による日常生活の影響とQOLについて看護を学ぶ科目として構成されている。必修科目であるためか、「関心を持って選択した」という回答は例年少なく、本年度も2名であった。最終評価において、一定の成績を修めていることから内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 目標別にみた到達度は、「知識・理解」77.4%、「思考・判断」63.4%、「関心・意欲」90%、「態度」「技能表現」は80%を超えていた。本科目の主要な要素である看護過程の事例展開は、模擬患者の健康状況から看護診断を行い、看護計画の立案・実施・評価を行う演習である。全体像を把握しながら実践の基盤となる指標、「思考・判断」を深められるよう演習を行っている。しかし「思考・判断」の到達レベルが63.4%の達成度評価であったことから知識に基づき「思考・判断」を強化することは課題である。課題は残るものの全体的には、一定の成績を収めていることから、内容は妥当であると考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業の質評価では、99%以上が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」と回答しており、平均値も3.9から4.1であった。 看護過程演習は、1グループ4～5名で28グループ構成し、2～3名の教員が、4グループを担当し指導を行った。授業開講前に教員間の指導の統一を図るため、事例検討を行い、グループ間においても共通認識ができるよう準備を進めた。学生の自由記載に、「評価の点数配分が理解できない。」、「個人ファイル・グループファイル両方の提出の必要性が理解できない。」という意見が数件あり、更に理解を得るためには何度も繰り返し説明することが必要である。しかし、例年と比べ課題が多いという意見は少なく、負担軽減の取り組みがやや反映されたのではないかと考える。また「教員により指導が違う。」という意見や「技術演習の練習時間を確保して欲しい。」という要望があった。学生、教員の時間確保も含め、演習展開については教員間の情報交換を十分にを行い、全体の調整を行いながら進める必要がある。 今年度は慢性期の事例を中心に看護過程を進め、急性期や老年の事例を応用とした。看護の対象を疾患のみでなく、広く生活者としてとらえる必要性については理解し易い順序ではあった。しかし、限られた時間の中で、対象とする事例が変わるため、移行する時の準備学習について再度ポイント解説を加え、学生の自主学習を促すこと、そしてグループ学習の効果と達成度を検証し、運営する必要がある。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は「専門教育科目」の「看護実践・応用」に位置付けられ、行動目標については概ね達成できたと考える。また、例年課題が多いという学生の意見が聞かれ、負担軽減を図るため他領域の進行も考慮し、記録量の削減を図った。しかし、103名の学生の個人差が大きく、現在グループ学習の中で個に焦点を当て個別指導による対応を行っているが「思考・判断」の達成度が63.4%という結果である。学習方法や教授方法の改善に向け今後も検討を要す。本科目は3年次後期からはじまる実習に実践応用していく科目であり、「思考・判断」能力を培うためにも継続的な視点で強化し、取り組みたい、また、教員間の共通認識と周知および課題の多さに関しては同時開講中の他の科目との調整を今年度と同様に進めていく。次年度は成人看護学演習として独立するため、これらの状況を鑑み検討する。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	前田 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
精神看護学演習	3	前期	必修	いいえ	112

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は、後期からの精神看護学実習に直接かわる科目である。学生が実習をイメージしやすいように事例を多く取り入れ、参加型の授業が展開できるようにした。具体的にはグループ毎の発表を多く取り入れ、発表後にディスカッションし、活発に意見交換ができるようにした。受講動機は、100%が必修科目であるためであり、後期からの実習を控え、学生はそれなりの覚悟で臨んでいると思われる。 ②精神疾患と看護の関連や、患者の全体像を総合的に理解できることを目的に精神に障がいをもつ人の援助に適切とされるオレム・アンダーウッズの理論を用い、グループで統合失調症の事例展開を行った。また、作年度に引き続きストレングス理論を取り入れた。看護過程の展開とともに今年度はプロセスレコードの演習に力を入れ、自己洞察について考察の時間を増やした。 ③昨年の実習の反省を踏まえ、軽微な記録用紙の改善を行った。学生の柔軟な発想を引き出すためにグループワーク中は机間巡視を助教2名と共に行い、精神看護の個性性について熟考させた。精神疾患の特性からどのような観察やケアが必要になるのか、精神科看護のポイントを事例に沿って解説資料を作成し、学生の理解を助けた。記録用紙の一部は手書きにしており、学生には不評であるがコピペ防止のためにしている。 ④配布資料は、実習時に活用しやすいようにファイル化させた。課外においては、うつ病の事例を用い、個人ワークにて看護過程を展開させた。 ⑤今年度も昨年度に引き続き実習病院の指導者に演習の一部に参加していただき、学生に精神疾患を持つ人のイメージがしやすいように助言してもらった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		やや達成された	やや達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は75.6点であり、再試対象は5名であった。88名(78.0%)が標準的レベルに達した。理想的レベル(概ね80点以上を目標)に達したものは39名(35.8)%であり、半数以上がこのレベルに達するとよいと思われる。成績の内訳は、A(秀)3.7%、B(優)が32.1%、C(良)が42.2%、D(可)が17.4%であった。精神疾患も持つ人の看護の展開、主に統合失調症の事例が中心であったため、イメージがしづらく、これまでの知識を思考判断に応用することが難しいところもあったようである。また、問題解決思考にとらわれない考え方は他の身体領域とは違うため戸惑うことも多かったようである。精神疾患の病態の理解を深めるとともに、精神疾患を持つ人の生活上の支援が想像できるように、次年度に向けて検討を重ねたい。 学習到達度の自己評価の平均は3.75であり、「かなりそうだと思う」が18%、「まあそうだと思う」「わりにそうだと思う」が80%を占めていた。授業への準備状況として、予習の時間0回が13%、復習の時間0回が17%となっているが、毎時間、予習・復習に相当する課題を出していたので、課題以外の学習する時間がなかったというところなのであろう。提出率はほぼ100%であったので、授業時間以外の学習はできていたと思われる。図書館の利用率は82%という結果であり、昨年度の88%から少し減少している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門科目」であり、必修科目である。2年生後期の専門知識と、3年後期からの臨地実習をつなぐ要の位置にある。本科目の単位習得は、臨地実習に参加できる要件になっているため、学生はまじめに取り組んでいる。臨地実習を意識した授業になるため、課題はやや多いが学生も応えており、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度がやや低かったが、提出物の内容や、発表に内容を省みると学生は積極的に授業に参加していた。本科目の性質上、理解しづらいところは否めないが、グループワークで主に進めたことで、学生の理解は進んだと思われることから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、平均は3.80であり、「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」が34.4%、「まあそうだと思う」が32.6%を占めていた。精神疾患の事例を取り上げて看護過程を展開しているが、疾患の理解が難しいため事例の工夫等を重ね、さらにわかりやすい解説をしていきたい。「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均点は、4.0で項目の中で最も高い評価であった。グループワーク中心の演習で、発表の機会を多く取り入れ、全体のディスカッションもできたので参加型の授業ができた。 学生が計画的に学習に取り組めるように、課題の全体像が見えるように前もって提示した。今年度は、2か所の実習病院の指導者に来ていただき、人数を増やし、部分的に演習に参加していただいた。実習指導者の話は、精神疾患を持つ患者の状況がイメージしやすいと好評であった。指導者から日常の看護を発表していただき、学生は刺激を受けていた。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、2年生後期の専門知識と、3年後期からの臨地実習をつなぐ要の位置にある。精神疾患の病態および看護の基礎的知識を確認しつつ、精神科看護の専門応用へとつなげていかなければならない。基礎的知識の確認は、課題を課したうえで、授業に参加してもらい、グループワークでフィードバックしながら、看護の思考過程へ進んだ。グループにおける活発な意見交換や、クラス全体での発表会を通じて、思考判断、技能表現については学生の自己評価も高かった。課題の提出率もよく、自己学習が進んでいるように思えたが、グループワークの中で十分な学習ができない学生もいたと思われる。昨年度、学生の意見として、授業と課題提出までの期間が短く、質問のタイミングがつかめないという意見があったが提出日を検討した結果、そのような意見はなくなった。アセスメントの資料をすべて配布してほしいという要望があるが、難解な箇所は配布している。資料にすべてのことが書いてあるわけではないので授業に参加し、思考の訓練をすることが課題であると考え。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	財津 倫子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
救急・クリティカルケア看護学	3	前期	必修	いいえ	115

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①救急・クリティカルケア看護学は、2年生後期に履修する成人急性期看護方法論の延長線上にあり、特に生命の危機的状況にある患者・家族に対する看護を探究する科目である。また、3年生後期から開始される、各論実習(成人急性期看護学実習-ICU見学実習)に繋がる科目となっている。近年の臨床現場は、救急・クリティカルケア看護を必要としている状況が増加していることから、その状況が想起できるような授業展開を工夫し、講義の終盤では、救急・クリティカルケアの実践が行われるICUについて、集中ケアの認定看護師の講義を2コマ入れ、学生の興味関心を高められるようしている。 ②学生の受講動機では、「必修科目である」ことが99%であった。2.1%の学生が「関心のある内容である」とし、少数ではあるが興味関心を持ち受講していたことがわかった。 ③救急・クリティカル看護学は、応用となる知識として位置づけられるが、学生が理解しやすいよう、看護の概要・場・対象(患者および家族)の特徴や専門職としての役割を説明し、倫理性やチーム医療について解説したのち、生体侵襲反応の解説の後、アセスメント能力の向上や、必要な処置やケアの理解を目指し、病態に合わせた患者・家族に対する看護について解説した。 ④講義の中に災害看護をいれており、災害時における看護師の看護活動・法的・倫理的視点などを解説している。 ⑤救急・クリティカルケア看護における倫理的場面を提示し、グループワークを行い、看護師が求められる倫理性について学びが深められるようしている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は77.2点(SD7.9)であり、最高点94点、最低点44点であった。再試対象は、2名であった。再試対象者が昨年の4名から2名に減少したものの、平均点および最高点が低下し、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは43名(37.4%)と減少したのは残念であった(詳細は、90点:5名(0.4%)、80点:38名(33.0%)、70点:60名(52.2%)、60点:10名(0.9%)、50点:1名(0.08%)、40点:1名(0.08)である)。 目標別にみると、知識理解に関しては83%、思考判断については70%、意欲関心については83%と、昨年に比べ、低下を認めるものの、全て70%を超えており、概ね目標達成されたと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の「看護実践の応用・展開」に位置付けられ、看護師国家試験に関連する必修科目である。定期試験の結果から考え、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価では、「知識理解」83%、「思考判断」は70%であった。クリティカルな状態にある患者および家族の倫理的な問題は、救急・クリティカルケア看護において重要な課題である。達成度としては「やや達成された」ではあるが、内容的には妥当であったと考える。今後、「思考判断」の能力を高めることができるように、事例の数や内容を工夫し、ME機器は、実物を「見て」そして「感じる」ことができる機会を設け、理解を深められるよう工夫していきたい。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では、9割以上が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しており、平均値も3.9～4.0であり、概ね評価や質問に対する対応ができていたと考える。 3年生を対象とする救急クリティカルケア看護学の科目は閉講され、4年生を対象とする救急クリティカルケア看護学(選択科目)が、2021年度より開講される。救急・クリティカルケア看護において重要な「思考判断」を強化できるよう、授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会をより多くするとともに、復習できるような工夫に取り組みたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は「専門教育科目」の「看護実践の応用・展開」に位置付けられ、行動目標については、概ね達成できたと考えるが、個人差が大きく、特に思考判断については課題を残した。新しく開講する2021年度の講義では、話し合う、発表するなど学生が参加する機会をより多くするよう工夫したいと考える。 ☐
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	大嶋 満須美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
緩和・終末期看護学	3	前期	必修	いいえ	112

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、専門教育科目として既修のすべての科目を基盤にし、看護実践の展開・応用にあたる科目であり、すべての発達段階の人々を対象に、がん・緩和・終末期看護という独自の知識・思考を新たに学ぶ科目である。がん看護・終末期看護領域の特殊性と専門性の観点から臨床での事例や最新の治療、具体的な看護方法などを組み込みながら、がんとともに生きるひとの全人的な理解を目指してわかりやすい解説を意識した。これらは3年次後期からの実習に直接的に活用できる知識であり、理解の促進および関心を高めるために、講義終了時に質問や感想を自由に記述してもらい、次回の講義の初めに応答するように工夫した。小児の緩和ケアについても社会的背景を踏まえ、専門性や特殊性について具体的に解説した。緩和・終末期看護において、死は誰にでも訪れる身近なものであることを解説し、人間観、看護観や死生観が深まるよう努めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な評価は平均点78.1点、最高91点、理想的レベル(80点以上)が49名(43.7%)であった。再試験受験者は無く、目標別到達点は「知識」78.2%「判断」79.7%「関心・意欲」は68%であった。がん治療は年々進歩しており、また人生の終焉におけるケアは、個性性と主体性が追及されている。その特殊性においては「関心・意欲」はまだまだ低く十分な理解には至っていないと言える。学生の到達度自己評価ではおよそその項目が98%程度の肯定的な評価であった。かなりまた「そうだと思う」という肯定的自己評価は17%と昨年度より9ポイント上昇している「コミュニケーション力や表現力を高めることが出来る」という評価が低いのは、講義スタイルによるものと考え。しかし、事例検討や意見交換などの場を設け、表現力や思考を深める工夫とレポートなどによる理解の確認が必要である。これらのことをを総合判断すると、教育目標は概ね達成でき、今後さらなる授業の運営や展開に課題を残す。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は専門教育科目の中の看護実践の応用・展開にあたる科目で、看護を学ぶための基礎や看護実践の基本をふまえ、がん患者や終末期にある患者の特徴、看護を学ぶための科目となっている。必修科目であるためか、「関心を持って選択した」という回答は2名と少なかったが、一定の成績を修めていることから内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標から見ての内容的妥当性 本科目の行動目標として①がん治療における看護援助②終末期にある患者とその家族の特徴③緩和・終末期医療を受ける患者と家族のQOLの維持・向上を支える看護援助④緩和・終末期医療におけるチーム医療の在り方⑤死をめぐる倫理的課題⑥小児の緩和・終末期医療と看護をあげ、これらを述べる事が出来るとしている。最も重点を課している「知識理解」が78.2%であり、目標は概ね達成されており妥当であったと考える。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性は問題ないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学生による自己評価到達度や、授業の質評価は昨年より全体的に向上している。また、学習の準備性において予習や復習に取り組んでいる学生は前年度より7ポイント程度増加している。今後、学びを深めたいという意欲や社会の変化やニーズをキャッチし自ら学習できる主体性が育まれるような仕組みづくりが必要と言える。また、そのことが学習量にも関連していると言え、課題提出の方法なども今後の検討課題である。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は専門教育科目の応用・展開科目ではある。目標は全般的に一定の達成度を得たが、学生の思考を活性化させ、主体的学習につながるような教育上の工夫が必要である。科目を横断的な視点で捉え、教員間の共有と授業構築も今後検討を要す。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	石井 美紀代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
在宅看護学	3	前期	必修	いいえ	113

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	在宅看護学では、以下の目標をあげている。 1. 医療・看護をとり巻く社会情勢から在宅看護が必要とされる背景を知り、在宅看護にかかわる施策・制度を説明できる。 2. 継続看護について説明できる。 3. 在宅看護に活用できる家族理論の概要を述べることができる。 4. 在宅療養に対して安全・安楽な看護および自立を支援する看護の役割について説明できる。 5. 看護専門職として、療養者の居宅に1人で訪問する責任を考え、自分の言葉で述べるができる。 6. 地域包括ケアシステムの概要を説明できる。 7. 保健・医療・福祉サービスを整理し、療養者と家族を支えるために多職種・多機関と連携する必要性を理解する。 これらは在宅看護学ならではの内容であり、これまで学んだ看護学領域を統合するものである。同時開講する「在宅看護学演習」の進行と合わせて授業計画を立てている。 しかしながら、受講動機について、99%が「必修科目である」をあげている。その他の動機は、「資格取得に必要である」が6.3%で、「関心のある内容である」は0%であった。つまり、学生が興味をもって受講しているのではなく、必修科目であるため受講しなくてはならない科目だから受講していることが明白である。そのため、科目の目的・目標を共有するのではなく、まずは関心をもって取り組んでもらうための仕掛けを考えた。最初の講義で神経難病の療養者の気管カニューレ交換の手法と療養者から学生へのメッセージのDVDを見てもらった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	どちらともいえない			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績は、平均点72.3点(昨年68.5点)であり、再試験対象は10名(うち1名は放棄)であった。成績の内訳は、秀 3名(昨年4名)、優 22名(昨年13名)、良48名(昨年 33名)、可39名(昨年57名)、不可(再試験未受験) 1名(昨年1名)であった。 昨年に比べ「優」「良」の学生数が多く、平均点も高かった。テストでは記憶で回答できる問題と、事例から思考して回答する問題を出している。記憶と思考の両方に正答に差が見られ、授業内で実施した同じ問題でも回答できない学生が多く、自主的に復習することのむずかしさを感じた。これは、昨年度も見られた傾向であったため、最後の授業でまとめの時間ととって、大事な部分を改めて解説を行った。そのため、昨年度に比べて平均値が上昇しているが、授業評価での到達度自己評価ではすべての項目で平均値を下回っていることから、テスト対策で終わってしまい看護の思考定着が来ているか疑問のところもある。この科目だけでは難しいが、事例に合わせて臨機応変に思考できるよう工夫をしていきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目はDP1:知識・理解、DP2:思考・判断、DP3:意欲・関心を目標にしている。CPでは「看護実践の統合」に位置する。そのため、対象が小児から高齢者とすべてのライフステージである。疾患も多岐にわたっていて、長期の療養をしている人、障害を残している人、ターミナルの人と幅広い。また、看護技術の提供を目標にしているのではなく、地域ケアシステムの中で看護の機能・役割を思考していくことを行うため、学生にとって学習成果が見えにくく、面倒な科目である。成績評価は昨年より上がっているが、到達度の自己評価では、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」が3.5点(学科平均3.8点)と低くなっている。学生が、達成感を得られる工夫の必要性を感じている。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目は、「看護実践の統合」に位置していることからわかるように、これまで学んだ各看護学の知識をもとに思考し、統合していく科目である。既習の知識の定着が前提であるものの、学生の特徴として、科目単元ごとの知識で完結し、忘れてしまっていることが多い。 学習量の評価では、30分以上の予習を1回以上して臨んだ学生が75%あった。また、「図書館の図書や雑誌を利用した」学生が70%あった。提出課題をつくったことが学習量の確保に繋がったと思われるが、この時期は、各看護学演習で学習成果の提出を求められており、多領域の学習内容や提出期限の兼ね合いを見ながら、本科目の課題を設定したため、提出を求めた課題が少ない。そのためか、授業15回中4回以上の予習・復習をした学生は20%以下である。また、授業の中で復習しながら進めているが、授業評価では「わからない単語など調べた」と書いてくれている学生もいれば、「法律の説明がわかりにくい」と書いてくれている学生もいる。法律等は、2年生で既習である。これらは少数の意見だが、既習の知識を使う統合科目であることを理解してもらうように、これからも繰り返し説明していきたい。そして、大学生として、授業をうける準備が自らできるようになってほしいと願う。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は「看護実践の統合」に位置する。つまり、各看護学の知識を使って「統合」する科目であることを繰り返し説明し、既習の知識を想起して臨んでもらうように繰り返し説明したい。また、在宅看護学はすべて明確な答えがあるわけでない。「～かもしれない」と複数の答を予想し、諸状況によって様々な対応が求められる。学生は、明確な答えがないと不安に思ったり、多くの場合は答えがないことを考えたくないようである。答えがないものを面倒がってしまう学生の状況を受け止めつつ、考えることを繰り返し説明したい。また、シラバスを確認し、シラバスに書いている予習・復習をして、講義に臨むように動機づけしていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	石井 美紀代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
在宅看護学演習	3	前期	必修	いいえ	114

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	在宅看護学演習の目的は以下のとおりである。 1. 在宅療養者とその家族(事例)の安全・安楽を考慮し、自立を支援する看護計画が作成できる。 2. 居宅の環境と条件に合わせた臨機応変の看護技術を考えることができる。 3. 地域ケアシステムを考慮し在宅療養者と家族(事例)を支えるケアプランを検討できる。 4. 演習事例から、地域包括ケアシステムの構築に看護が果たす役割を考えることができる。 5. ケアプランを実行するために、多職種多機関との連携の方法を考え、協働する態度を身につける。 6. 在宅療養者の自宅に訪問する看護師が信頼関係を樹立するために必要なマナーとコミュニケーション技術について考え、実践の準備ができる。 在宅看護学・在宅看護学演習は同時進行であるため、3つのねらいを設定した。そのことについて、最初の在宅看護学の授業でシラバスを提示し、在宅看護学と在宅看護学演習の関連を説明した。 学生の受講動機について、99%が「必修科目である」をあげている。その他の動機は極端に少なく、「関心のある内容である」のは1人であった。本科目は看護学科の必修科目であり、関心ある学生が少ない状況でも学生の選択の余地なく受けざるを得ない。そのためか、シラバスを参考にした学生は7割弱、あらかじめ授業を受ける計画を立てた学生は3割と少ない。授業に興味をもってもらうため、絵本を使ったり、画像を使ったり、工夫をしてみたが、後述するように学生の受け止めと学習成果は厳しいものであった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		どちらともいえない	やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	評価は、調べ学習10%、口頭試問10%、看護過程等の提出物が30%、期末テスト50%で実施した。最終的な成績は、平均点67.6点(昨年70.7点)であった。成績の内訳は、秀0名(昨年1人)、優2名(昨年10名)、良39名(昨年49名)、可71名(昨年45名)、不可(再試験未受験含む)2名(昨年2名)であった。昨年に比べ、全体的に低い結果であった。 本科目では、グループワークで調べ学習や看護過程の思考をしても、成果物は個人で完成させて提出し、個人の評価をしている。グループで話し合いながら進めた物であっても、提出された成果物に差があった。また、テストでは、授業で実施した一部を思考してもらう問題を6割出題したが、論理的に説明できる学生が少なく、最近では最低の出来であった。看護過程の思考は、2年生の看護過程論から3年の各看護学演習で繰り返し学んでいる。論理的思考が出来ていないことは、この科目を含めて繰り返しの訓練が必要と思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「看護実践の統合」に位置し、DP2:思考・判断、DP3:意欲・関心、DP4:態度、DP5:技能・表現を目標にしている。 評価対象となる提出物は、レポート、口頭試問、ケアシステムの図式、ケアプラン、看護過程、である。 地域ケアシステムの演習グループワークは、課題はグループごとの提出だった。良くまとめられているグループの提出物にコメントをいれて、次の講義で全体に配布して説明した。しかし、法律・制度の根拠についての知識・理解が充分でないまま時間が流れてしまい、個人個人の力を身につけることができなかったようである。 ケアプラン・看護過程では、各自が展開できる力をつけるため、グループワークを取り入れながら、課題の提出は個人個人でするようにした。また、ルーブリック評価表でチェックし、必要箇所はコメントを入れて返却した。 看護過程については、この後の在宅看護学実習で是非、参考にしてほしい。 □
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	講義前半はレポート、後半でケアプラン・看護過程の提出を要求した。看護過程では、他の科目で学べる項目については(例)を配布し、在宅看護学演習でのみ考える項目を中心に思考させた。これは、昨年、「時間内でおわるようにしてほしい」という複数の意見や、3年前期は看護学各論ごとに看護過程を展開するため、同時進行している他の演習科目の進行や課題を配慮したものである。実習に向かうこの学期は、授業数が少ない分、科目の質が高く要求され、これまでに比べて課題の量は多くなる。教員同士で同時進行の課題を考慮しているので、後期の実習に向ってこの関門をクリアしてほしい。 看護過程では昨年、「詳しく解説してほしい」というコメントがあった。そのため、講義のはじめで作業内容を解説するとともに、授業中が教員と助教でラウンドしながら個々の質問に応じる体制をとった。質問が出ない場合は、個々の進捗を見ながら教科書や学生が持参した参考書等で解説していった。 授業評価では「手書きはきつい」という意見が複数あった。在宅看護の看護過程は、個性性を考えるところが多くクリティカルパスがないことから、授業に解説しながら進める必要がある。授業中に進めるためには、必然的に手書きすることとなるからである。また、看護過程はコピー＆ペーストするものではないので、手書きが基本であると考えているため、了解してほしい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	昨年まで在宅看護学に必要な既習の知識をまとめるためディベートを実施していた。目的を説明して取り組んだものの、自由記載では「なぜディベートをするのか」という意見が毎年複数あった。そのため、今年はディベートではなく、テーマを出してグループで調べ学習を行った。発表会をしたが、ディベートのように優劣がはっきりしないため、グループで不足していた内容についての振り返りが甘く終わってしまった。効果性を、再度、検討していきたい。 地域ケアシステムについては、在宅看護学での知識を使い演習事例で考える内容であったが、グループワークのみで展開したため、理解できた学生の割合が少なかった。地域ケアシステムの活用は在宅看護特有の視点であるため、全員が理解できるような手法を考えたい。このことによって、DP4-2)の達成率をあげていきたい。 主体的な受講動機が低い科目であることを自覚し、科目のねらいを具体的に示していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	隅田 由加里

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護マネジメント論	4	前期	選択	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	人が社会の中で成果を見出し貢献し、また自分自身のやりがいにもつなげワーク・エンゲイジメントを高めていくためには、マネジメントの重要性を理解することが必要である。しかし看護マネジメントは無形サービスでもあり、ややわかりにくい要素も併せ持つ。このためまずは日本が抱える医療や社会保障の問題から授業を開始し、その後病院組織とは何かやその役割に移行し、病院の中での看護の役割と求められる成果へと講義内容を進め、看護マネジメントの基礎知識の修得を図った。そして各論実習でも関わる機会があつ、医療安全管理を通して、看護マネジメントをより具体的に考える時間を設けた。 4年生は各論実習の継続、就職試験等もあったため、履修した学生と日程調整を図り、全学生が参加できた3日間で集中的に講義を行い、学生の準備性には配慮を行った。 学生の受講動機は、総合実習:看護管理を控えていたため、「教員に勧められた」(84.6%)が最も多かったが、「資格取得に必要である」(15.4%)、「関心のある内容である」(15.4%)も認めたため、より総合実習に役立つ授業構成とした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の達成度評価は、試験:70%、レポート17%、授業参加等13%による総合評価としている。最終成績の平均値は80.5±7.61点(最高90点、最低67点)であった。成績の内訳は、秀2名(13.3%)、優7名(46.7%)、良4名(26.7%)、可2名(13.13%)、不可0名(0%)で、再履修は認めなかった。学生による授業評価では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.4)、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲をもつことができた」(4.4)を筆頭に、すべての達成度自己評価において4.0以上であった。図書館等の利用においても80%の学生が行っており、学生の学修目標は基礎教育レベルでは達成できたと判断する。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、各論実習では患者-看護師間の看護を学んだ後に、広い視野で組織という視点で看護を見直すという点においては、4年生前期というのは妥当な位置付けであると考え。学習内容においても、国家試験の出題基準に則り、また学生が看護師1年目として業務を遂行するうえで、必要となる基礎知識を網羅しながら、CPに準じて保健・医療・福祉の総合的視野に立ち、関連職種との連携・協働能力を育成する授業構成としているので内容的妥当性もあると考える。学生からの意見としてもわかりやすかった、臨床の現場の状況が理解できたなどの意見を認め、学習達成度の自己評価も全て4.0以上であったことから、学生の満足も得られたと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においては「期間内に行うべき学習の範囲や課題が明らかであった」(4.6)、「説明は理解しやすいものであった」(4.6)、「授業中に自分の意見をまとめ、話しあう、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」(4.6)を筆頭に、全て4.5点以上の評価であった。3日間という限られた時間内で、集中して授業を行ったことで、看護マネジメントを深く理解することが出来たのではないかと考える。しかし授業の日程がなかなか合わず、6月下旬から7月上旬になってしまったため、総合準備との調整としては、やや遅かったのが、今後の課題である。次年度はもう少し学生と早期に日程調整を行い、少なくとも6月中旬には終了できるように調整したいと考える。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	選択科目であり、また看護の統合として最終段階の集大成科目となるので、学生が考え、参加できる形式として、看護マネジメントの理解を深める方式とした。その結果、最終成績の平均値は80.5±7.61点(最高90点, 最低67点)であり、達成度評価も全項目で4.0点以上であり、また質評価でも全項目で4.5点以上の評価となった。学生の意見でも、わかりやすかった、ディスカッション形式で自己理解を深めることができた、採用試験等にも役立つ等の肯定意見のみであった。よって授業は相対的に学生にとってみのりあるものであったと考える。今後は2年生の看護マネジメント総論との区別化をはかりながら、15名以上の履修者が出るように授業内容の更なる改善に努力したいと考える。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	溝部 昌子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護研究の基礎	3	前期	必修	いいえ	112

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	看護においては、実習、実践、教育いずれにおいても研究的思考や継続的な学修が必要であり、そのことは生業としての看護の価値を高めるものであるということ を基盤として授業構成を検討した。生活の中で活用されている研究的思考やデータ分析などの技術により、合理的でより効果的、効率的な暮らし、看護学、看護実践を進展させ、患者や人類の利益につながるという指向で、身近なものから臨床実務、看護科学的なものなど、様々な難易度と種類の研究論文を精読する機会を設けた。 本科目では、例年グループワークにより、研究テーマを定め、研究計画書作成、研究の実施、まとめ、発表を行っている。私は本年度から担当しているが、過去には他大学で担当したことがあった。本学3年生前期は、看護演習科目で課題を多く抱えている状況であることを鑑み、できるだけ授業時間中にグループワークによりデータ分析、論文作成ができる時間配分とした。実際には、各自が持ち帰り作業した日は何日かあったと思われる。研究テーマは学生自身が興味を持てるものを記載してもらい、希望調査を基に担当教員全体でグループわけ、担当教員配置を決定した。このため、学生は自身の興味に沿ったテーマで学修できた。 例年2コマ続きで実施していたとのことだが、研究手法についての授業は複雑であり、情報量も多く、研究実施期間が短くなるとまとめ作業がさらに困難になると思われるので、1コマ講義とし、講義と提出課題を組み合わせながら、研究段階の進行に応じてステップアップしていけるよう計画した。実際に、後半では以前の内容を踏まえることで学修活動が行えるように計画的に進行していったと思われる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の評価配点は、課題20点とグループワーク80点であり、複数教員担当で、グループワークをするため、10項目についての評価者、評価基準を講義のはじめに資料を配布し、詳細に説明した。グループワークの終了、発表終了、各教員評価終了後に、担当教員全員で評価を供覧し、点数調整を行った。特に、秀でていたグループについては、秀となるような基準として、概ね優という評価となった。平均点85.3点、中央値85点、秀13名、優94名、良5名で、グループ共通の点数が部分的に含まれ、全体に高く評価された。中には、グループの学修活動に積極的に参加していなかった者も含まれるという声は散見されたが、学生の学修実績や努力が反映されていないということはないと考える。 学生は初日の課題で、研究のプロセスを記述することができており、それから研究課題の設定、情報検索、研究計画、研究実施、結果の集計、考察、論文作成、発表の全てを実際に体験して学修でき、情報検索や文書作成、表計算、プレゼンテーション資料の作成などのかかなりのスキルを修得したものと思われる。授業評価については、平均点で4.0を下回る項目が大半を占めているのは、自己の成果を評価しにくかったのではないかと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	看護研究の基礎で修得できる研究遂行力は、社会人基礎力における3つの能力、12の能力要素のほぼすべてを含むもので、まさに大学での学びを統合する科目の一部をなす。4年次での保健師・教職実習・看護総合演習での学修活動の基盤をなすスキルを身につけ、生涯にわたってこれらの研究的思考は看護専門職として生きる上で大きな学びになっていると思われる。学生は、最終課題で「看護における研究の意義」について、全員が論述することができていた。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	担当教員が複数いるので、役割分担をして効率的に進められるようにしたい。日々の授業の細かい点についての質問や意見を、学生からフィードバックを受けながら都度工夫して、グループワークを効果的に支援できるようにしたい。課題量について、多いとのコメントもあったが、講義時間内に教員指導の下、グループワークができる時間を多く設けており、締め切りや提出についてもゆとりがあり、学修量は妥当であったと考える。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	研究プロセスを理解し、研究の実践を通して学ぶ事については、学生の積極性や器用さを感じられた。基礎教育ではあるが、リテラシーの高い学生も多いので、限界をこちらから設定するのではなく、興味への探求や、情報検索、試みなどを幅広く受け入れ、将来の看護や職業人としての生活の礎の要素にでもなるような、記憶に残る学修体験となるよう工夫したい。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	田中 満由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ウイメンズヘルス看護論	3	前期	選択	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生が女性の健康を様々な視点から深く捉え、自分の興味、関心、意欲のあるテーマについて発表し、レポートにまとめ、文献からの考察および自分の考えを表現できることを目標にしている。担当教員の指導のもと、一連のプロセスの中で、研究の基礎・文章の書き方・原稿用紙の使い方なども指導するよう心掛けた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	平均点85.8点であった。DPの位置づけ、カリキュラムマップ、シラバスに示した配点に従い採点した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP、カリキュラムポリシー、カリキュラムマップにおける位置づけから内容的に妥当である。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	本科目の狙い通り、学生は積極的に調べ、発表会でも自分の学習を基に積極的に質問したり、意見を述べていた。学生は文献検索をするということがどのように方法で行うのか実践し、身についた。レポートも文章の書き方の基礎が身についたと評価する。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本年度は担当教員が少なく、担当教員1人あたり学生8名を担当したが、教員はその期間、大変負担であった。方法としては現行のものがベストと思うが次年度から受講生が現在より多い場合のことも想定し、多い場合の方法も考えておく必要がある。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
地区活動論	3	前期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保健師課程必修科目である。受講動機をみると、前年度では「必修科目である」58.8%（前年度23.5%）、「資格取得に必要である」82.4%（前年度94.1%）であった。保健師選抜された18名が履修する科目であるため、「資格取得」を意識した受講者が多い。「関心のある内容である」では前年度5.9%から0.0%に低下した。資格取得には必要であるが、教科目への関心はないという状況である。関心を高めるために、学生の活動性の高い授業を意図して協同学習を導入して授業を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績平均値は86点（前年度82点）と昨年度より向上し、再試対象は0名であった。得点配分を修正したこともあり、全員が理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に到達できた。 目標別に見ると、知識理解及び思考判断は90.9%（前年度81.6%）、課題発表を通しての態度100%（前年度100.0%）であった。思考判断では、試験では基本的な知識、事例の情報収集及びアセスメント、地域の健康課題を解決するための地区活動、事業計画、施策化に関する判断を問うものであったが、到達度は81%（前年度82%）だった。 図書館等の利用については、94%（前年度83%）の学生が利活用したと回答し、前年度より増加した。また、学習量では、前年度は「30分以上の準備」10回と回答した者が33%いたが、今年度は0名で、何らかの準備を行い授業に出席していると考えられた。「4、5回」「6回」と回答した者の割合は50%であった。今年度から、毎回の授業のキーワードについての調べ学習を課していた。しかし、最終的な成績及び到達状況をみると、授業課題を通して理解が深まると考えらえるため、今後も課題は継続する。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 受講動機で最も多い「必修科目」「資格取得に必要な科目」にもある通り、本科目は「専門応用科目」のなかでも、「公衆衛生看護関連科目」に位置づけられており、保健師課程の必修である。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 保健師国家試験科目であり、学生の授業に臨む姿勢は真摯である。授業の質評価について④わりにそう思う⑤かなりそう思う の評価割合が前年度より改善した項目は「自分なりの目標を達成した」4.2（前年度3.9）、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」4.4（前年度3.9）、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」4.2（前年度3.9）、自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」4.4（前年度4.2）、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身に付けることができた」4.3（前年度3.9）、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」4.5（前年度3.9）、職業倫理や行動規範について学ぶことができた」4.2（前年度3.9）であり、全ての項目で改善した。 学生の知識、判断、技術、意欲の面から自己評価は改善しており、また客観的評価である成績も一定の成果を収めていることから、内容的には妥当であると考えらる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」平均値4.6(前年度4.1)で最も高く、昨年度最も低かった「説明は理解しやすいものだった」では、4.4(前年度3.8)に改善されていた。 図書館等の利用については、100%の学生が利活用したと回答し、前年度83%より改善した。授業ごとに、キーワード学習を課したため、文献検索の機会が増えたためと考えられる。自由記載欄には、「課題が多くて大変だったけど、その度ふりかえりで知識が定着できたと思う」との記載がみられた。授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由としても「課題が多かったため」と記載があり、課題を着実に学習することで知識の定着をはかりたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	保健師課程に位置づけられる科目であり、看護師課程の基礎的知識を土台に、公衆衛生看護学の基本的知識と思考判断を修得する科目である。 DPの到達状況は全員が達成した。また、学生の到達度自己評価では、知識・判断力・技術・意欲の面から前年度よりも改善していた。授業の進め方に関して、殆どの評価項目で授業の質評価は前年度より改善していた。特に、最下位の項目の改善が見られたことは、前年度から課題改善の対応に一定の効果があったと考えられた。本科目は、今年度を最後に閉講となる。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護技術演習	4	前期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	公衆衛生看護学実習」に必要な看護技術を修得する演習科目である。受講動機をみると、「資格取得に必要である」88.9% (前年度71.4%)、「必修科目である」27.8% (57.1%)だった。保健師資格取得を目指す学生にとって、必修科目であること以上に、資格取得のための科目として動機づけされていると考えられる。これまでの学生評価をふまえ、演習した技術の振り返りに十分な時間を確保できるようコマ数の配分を計画し、学生が演習時間内で習得できる判断力や技術を客観的に振り返るとともに、今後さらになる知識・技術を明確化できるよう工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は83点(前年度81点)であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達した。理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)目標は達成された。 目標別に見ると、思考判断の達成は78.1%(前年度77.1%)、関心意欲では100.0%(前年度98.8%)、技能表現では82.5%(前年度79.8%)、態度では100.0%(97.4%)でいずれも増加していた。 思考判断では、①家庭訪問の事例について、対象特性に応じた看護援助の必要性を判断し、適切な援助方法を選択するもの、②実習施設の地域診断をふまえ、住民への健康教育ニーズの判断とテーマの設定、教育の方法を選択するもの、と2つの演習項目を評価した。特に、科学的根拠に基づいて公衆衛生看護技術をどのように適用するかを判断する力を問うている。また、技能表現では、対象者と関係を形成しながら、家族を対象とした家庭訪問技術及び集団を対象とした健康教育技術を提供できることを到達とした。しかし、学生の達成度評価は全体的に低下した。「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」平均値3.6(前年度3.6)と前年度を維持したが、その他は全体的に0.2ポイントほど低下した。「コミュニケーション力や表現力を身につけることができた」平均値3.6(前年度4.3)、「職業選択の参考になった」平均値3.6(前年度4.3)では0.7ポイント低下していた。 図書館の利用状況に関して、ほぼ全員が図書、雑誌、HP、学術データベースを利用していた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「公衆衛生看護領域」に含まれる保健師課程必修科目である。2年生後期の「公衆衛生看護技術論」修得した知識をベースに、事例について家庭訪問及び健康教育を展開する演習科目である。開講時期が4年生前期であり、看護師課程の各領域看護学実習を終了した時期である。そのため、個人・家族から、集団・地域と対象理解を広げて看護を展開するには適切な時期であり、また内容的にも妥当である。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 受講動機では、前年度と比較して、「関心のある科目」に回答する者が0であることは厳しい結果である。「資格取得に必要である」88.9%、「必修科目である」27.8%であった。学生の達成度評価は、最も高かった項目は「知識を獲得、修正したり、新たに得ることができた」3.7(中央値4.0)であった。前年度最も高かった「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」では3.6(前年度4.3)と低下した。中東値はかわっておらず、18名の平均のため、今後の推移に留意して対応する必要がある。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方については、これまで「授業の質評価」の項目は年々改善していたこともあり、今年度も集中講義の時間割や演習の進行など、ほぼ前年度と同様に行った。しかし、授業の質の評価では「期間中に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」3.7(前年度4.0)、「説明は理解しやすいものだった」3.6(前年度4.3)、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が与えられていた」平均値4.3(前年度4.4)、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受けつけ、それに答える機会が作られていた。」3.6(前年度4.3)といずれも低下した。自由記載では、授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習として「健康教育媒体作成、家庭訪問の準備」があげられた。インターネットや学術データベース等、図書館の利用は9割以上の学生が利用していた。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学生は全てのDPを達成した。授業外の課題学習でも図書館を有効に活用し、科学的根拠に基づいて家庭訪問や健康教育を実施することの重要性を認識したようだ。また、技術の習得に向けても熱心に練習を行ってた。しかし、これまで年々授業評価は改善してきたいたが、今年度は全体的に評価得点は低下していたことが明らかになった。客観評価としての目標到達度はほぼ変わらない状況に関わらず、学生の授業評価が低下したことは、今後改善の必性が高いことを意味していると受けとめている。学生の関心を高める工夫について、次年度は学生の肯定的なフィードバックと、より具体的なアドバイスが必要であると感じた。また、授業の途中段階で、学生の到達状況に対する認識を確認する時間を確保し、学生自身が到達状況を確認しながら演習を進めていく。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
地区活動論演習	4	前期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	「公衆衛生看護学実習」の実習施設地域を対象に、地域診断の技術を習得する演習科目である。政府統計e-statを主なデータベースとして、実習地域の人口統計・健康指標データ等を収集し、各実習施設の情報収集・アセスメントを行えるよう準備した。受講動機をみると、「資格取得に必要である」94.4%（前年度75.0%）で、資格取得科目であることの動機がもっと高かった。次いで「必修科目である」33.3%（前年度56.3%）（前々年度81.3%）、「関心のある内容である」0.0%（前年度6.3%）（前々年度0%）であった。関心のある内容については0.0%であり、資格取得のために関心はないが受講するといった状況である。自由記載より「毎日7時まで残って課題をしていた」との記述があり、保健統計に関する膨大なデータからの情報収集及びアセスメントはかなり負担の大きい作業量になっている。毎年度、授業準備の課題はほぼ同じだが、学生の特性に応じて今後、検討の必要性がある。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	やや達成された		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は73点であり、再試対象は3名であった。理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達したものは5名と前年度と同様であった。ルーブリック評価では、＜思考判断＞に関する問題は65.1%（前年度65.5%）で、前年度とほぼ同様であった。学生の準備性として、健康指標の基本的な知識の習得が不十分であること、そのために、演習内容（地域診断）に入る前に、健康指標の再確認に時間を要した様子だった。また、今年度はエクセルの使い方に関してリテラシーの習得が不十分な状況もみられたため、データ分析に進むまでに時間を要する状況であった。それらの状況は、学生の到達度自己評価にも表れていた。前年度と比較すると、「自分なりの目標を達成した」平均3.3（前年度3.6）、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」3.6（前年度4.0）と低下していた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「公衆衛生看護領域」に含まれる保健師課程必修科目である。3年生前期の「地区活動論」で修得した知識に基づき、実習地域を対象として、地域診断を行う演習科目である。開講時期は実習施設が確定した4年生前期であり、履修者は保健師課程学生のみ受講である。前年度より全体的に達成度自己評価は低下した。「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」3.7（前年度4.2）、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」4.0（前年度3.8）、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」3.9（前年度3.8）、「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた」3.6（前年度4.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野で技術を身に付けることができた」3.6（前年度3.9）、「コミュニケーション力や表現力を身に付けることができた」3.4（前年度3.8）、「職業選択の参考になった」3.5（前年度4.0）であった。学生の成績は、前年度と比較しほぼ変わらないが、個々評価が低下していた。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価では思考判断に関する達成度は前年度とほぼ変わらなかった。内容的妥当性には問題はない。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、全項目ともに低下傾向だった。 最も平均点が高かった項目は「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均値3.5(前年度4.4)、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受けつけ、それに答える機会が作られていた」平均点3.5(前年度4.5)であり、前年度と比較して低下した。今年度は、実習地域の地域診断について、資料提出に加え、プレゼンテーションを追加した。他は前年度と同様であり、その点で、学生の負担感を高めたのではないかと水差聴される。 前年度、授業評価項目のうち、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」3.7(前年度4.0)、「説明は理解しやすいものであった」3.4(前年度4.1)と低下した。今後は、授業の中で評価基準について説明後に、学生との確認を行うことや、教員の説明が学生にどのように受けとめられたか理解度を確認することを行ったことが改善につながったと考えられる。地域診断の主要な情報ソースはインターネット上に公開されているデータであるため、図書館及び情報の活用率が高く課題学習を行っていることが把握できた。 学習量では、毎回事前準備を必要とする課題を提示していたため、1回の授業の準備に1時間以上の学習量は必要であるのだから、「30分以上の準備」を1回のみ行った者が1名いた。図書館利用では、政府統計等のネット検索が必要であったことから「インターネットのホームページを検索」では100%が活用した。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	専門応用科目の主要科目にあたる本科目の位置づけられる科目である。これまで、前年度に得点の低い傾向にある項目を考慮し、次年度の授業の改善を行ってきたが、授業の質評価、到達度の自己評価は、前年度よりも低下した。特に、自由記載の中に、「大変だった」との記述がみられており、集中講義で短期間に実習地域の地域診断のプロセスを、学生の意欲を向上させつつ、必要な基礎的知識、情報収集力、アセスメント力を効果的に習得できるよう、時間割運用や情報源の提示の方法等、授業の進め方の工夫が継続課題である。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康相談活動	3	前期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この科目は、看護専門科目としては選択科目であるが、養護教諭一種免許状資格取得希望学生にとっては必修科目である。学生の受講動機は「資格取得に必要な」が100%、次いで「必修科目である」が37.5%「関心のある内容である」、「単位数を確保する」が12.5%であった。 「学修準備性」として、「学生がシラバスを参考にした」は87.5%、「授業計画を立てた」は62.5%で、6割以上の学生は、シラバスを利用し、計画を立て講義を受けていた。 3年前期科目であり、看護および教職の授業の基礎的な学習については習得している。授業は、新しい知識について理解を確認しながら、既習した学習内容を考慮し、演習を取り入れていく。この構成は、昨年度から変わっていない。今年度、演習内容の定着化を図るために、授業後に取り組む課題を作成した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は80.5(±2.88)であり、再試対象者はいなかった。理想的レベル(80点)に達したものが75%いた。 DP目標別達成度をみると、知識理解に関しては74.4%(±3.25)、思考判断に関しては86.3%(±1.39)、関心意欲に関しては86.3%(±1.41)、技能表現に関しては85.6%(±2.98)であった。知識理解はやや理想的レベルには達していない学生もいるが概ね良好な成績を収めている。 学生の「学習到達度の自己評価」に関する項目の平均値は4.3～4.5点であった。 学生の「学習量の評価」としては、30分以上の準備と復習を全く実施していない学生はいない。学生は、課題などを含め授業外で学習に取り組んだと考えられる。 学生の「図書館、インターネット利用」状況は、「図書」100%、「学術データベース」75%、「インターネット」87.5%であった。 学生の「成績到達度」や授業後の「到達度自己評価」結果が概ね良好であった点から、授業は達成されたと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップからの位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、看護課程「専門教育科目」であり、教職課程の養護教諭一種免許状取得のためには必須科目である。2年までの看護の教科および教職における学びが基礎になる。これまでの既習内容については、学生に授業内で確認しながら進めている。目標到達度や成績から、内容的には概ね妥当であると考えられる。 ② DP、行動目標からのみての内容的妥当性 成績評価から、学生のDP「知識習得」については、学生にもう少し努力が必要な面がみられるが、「思考判断」および「技術表現」の達成度は高いと考えられる。内容的には概ね妥当であったと考えられる。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」の平均値は全項目4.6点であった。 「学習量の評価」については、課題等の提出からみると、準備や復習に取り組んだことが考えられる。 「図書館利用」については、前述したように全学生が「図書・雑誌」については利用していた。 学生の「授業の質評価」からみると学生の満足度は高い傾向がみられる。 □
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	養護教諭免許取得に関する必修科目の位置づけである。学生のDP「到達度評価」や学生の「到達度自己評価」「授業の質の評価」からみて、概ね目標に達成して いると考える。次年度、「知識理解」の到達度を高めるために、学生の振り返り方法について検討したい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教職概論	2	前期	選択	はい	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①昨年の実績及び教職をめぐる現況から、今回も視聴覚教材を活用して「子どもの心をつかむ」技法について学ばせたが、教材のblue-ray再生装置の音声小さく、うまく学習ができなかった。AV機器のブラッシュアップをお願いしたい。 ②前年度の講義の感触を踏まえて、講義内容をわかりやすく調整している。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績の平均値は75.16であり、全体の平均値65.12で10ポイントほど上回った。他学科に比して相当高い。その意味ではやや到達状況は良かったと見る事ができる。 ②しかし、到達度の自己評価は全項目の中央値が3.0乃至3.5であり、全項目の平均は3.2～3.6であった。これは前年よりやや低い。また、「少しそうでない」という項目に1～3名がおり、授業がよく理解されていないという危惧がある。 ③授業の質評価は各項目の平均値が3.1～3.4であり、中央値は全て3.0であった。説明の理解しやすさで5名がわかりにくいとしているので、わかりやすい授業を目指して努力しなくてはなるまい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①教職課程なので科目の位置づけは問題ない。
--	------------------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	①テストについての情報に於いてやや学生は混乱していたようだ。今後は事前の説明を明確にしたい。 ②説明がわかりにくいという声があったので、丁寧な説明を心がけることとしたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	授業のわかりやすさを深めるための授業改革を進めたい。まずは丁寧な説明を心がけたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育心理学	2	前期	選択	はい	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	より良い社会の建設は教育の成否にかかっている。特に資源が豊富にあるわけでないわが国では「教育は国家100年の計」とはよく言われてきた言葉である。教職を目指す学生には良い社会の形成に関わるという責任と自覚を持って授業に臨むようにそして明日の子どもたちの心理に訴えかけられるような教師になれるように学生に求めてきた。シラバスに記載したように教育に貢献できる心理学的知見を紹介しながら「理想を失わない現実主義者」としての教師になる内容を出来るだけ厳選して授業に臨んだ。評価アンケートの結果をみるとおおむね達成できたと思われる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	達成の評価の根拠は定期試験の内容である。試験結果を見てみると、しっかりと授業者の求める論点に従って書かれている学生が多く、授業者の意図をよくくんで内容を理解していることがわかる。(客観的データとして学生の成績平均を参照して頂ければ分かる)授業アンケートの集計結果も満足のいくものであった。取り組んでくれた学生に感謝したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	昨年度の取り組みでもあったが学生が達成すべき目標を具体的にシラバスに記載しているが、授業のはじめに説明しておいたこともあり、学生の自己評価および授業者の目から見ても満足のいくものであった。毎授業の終了時点で回収する感想と質問のコメントにもよくあらわれていた。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	「映像の力は大きい」と再認識している。スマホ時代の真ん中にいる学生たちには言葉による講義だけでは集中力が続かないことは経験上理解している。その為に 毎回の授業では映像を見て考える時間を取っている。アンケート結果をみるとこれは概ね好評である。ただ毎年のことであるが学生らの意見の中には出来るだけ授 業者の話をききたいという要望もあるので今後この点を改善して新たな方法をさらに試みてみたいと考えている。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	昨年同様に概ね年度当初の授業目標は達成したものと考えている。しかし多様性と個別化を体现している現代の学生のニーズに対応してグループワークや発見学 習など多彩な講義時間の運営方法の工夫とさらなる知恵を出していく必要性を痛感している。対話型の講義を今年も模索したい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	大庭 正美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
特別活動論	3	前期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①学習指導要領における特別活動の位置づけや特質、内容などについて基本的な知識理解を中心にしながら、小中学校での指導の実際についても取り扱い、実践的な態度の育成に資する授業に努めた。そのため、できるだけ実践事例の映像資料を活用していった。 ②授業の終末には授業内容を振り返り、シートに記入させるようにした。そこで出された気づきや疑問などを次の授業の導入で取り扱い、再確認できるようにするとともに、深い学びにつながるように努めた。 ③授業の内容に応じて、学生自身の学校での経験を想起させ、重ねて考えることができるように促した。そうすることで、理論と実践がつながりやすいようにし、就職後のイメージをもちながら学修できるよう配慮した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業後の振り返りシート内容及び試験の結果をもとに判定したトータルの成績において、70点以上が10名中7名(そのうち90点以上が4名)であった。また、到達度自己評価においては、1項目を除きすべての項目で4.0を超えており、そのうち4.2以上が3項目あった。知識理解に関する項目は4.2であった。したがって、全体としては「達成された」と判断した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	卒業後、小中学校の養護教諭をめざす学生にとって、健康教育や学校経営と密接につながっている特別活動の指導内容は非常に重要である。そのような点から、学生の自己評価での項目(6)「学びを深めたい意欲」(10)「職業選択の参考」などの高評価は注目すべき結果と考える。また、併せて、各授業後の振り返りシートの記述内容などから、本科目の内容的な妥当性は高いと判断できる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」に関しては、すべての項目で評価は高かったが、特に(3)の「説明の理解しやすさ」などの点で成果が上がったと考える。見やすいレジュメや資料、学校現場の実際場面がイメージしやすくなる映像資料などを活用するなど、学生の意見を受けながら授業改善に努めた。今後も、その方針で授業を進めていきたい。 ただ、図書館利用や事前準備などの評価から学生の自発的な学修が十分とはいえなかったこと、演習的な内容や参加型の内容が少なかったことなど、今後改善していく必要がある点だと考えている。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	将来、養護教諭をする可能性のある学生であるため、健康教育との関連や保健指導との関連などを想定しながら授業を進めていった。特に、教育課程における特別活動の位置づけや役割など、特別活動の教育的な意義については繰り返し指導するように努めた。その結果、毎回の授業後の振り返りシートの記述などから、教職に対する意欲が向上していったことが読み取れた。 特別活動全体を俯瞰しつつ、各内容の詳細について考察したため、再確認したり繰り返し解説したりするなどの時間が必要であった。そのため、指導案作成などの演習やグループでの話し合いに費やす時間が十分とは言い難かった。教職課程の授業としてより実践的な成果を求めるためには、シラバスの構成とともに、一単位時間の授業展開に関しても重点化を図るなど、今後も工夫改善を図っていく必要があると考えている。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育方法論	3	前期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①前年度にもっと実際の授業について考えさせる内容にブラッシュアップしたかったので、授業案の考案や模擬授業の実施などに時間をかけるようシラバスを変更した。 ②模擬授業のための教材を一つに統一し、一コマに1グループの模擬授業を入れることとしてじっくり模擬授業と相互批判ができるようにした。 ③模擬授業の総時間を増やしたが、1コマ1模擬授業にしたため模擬授業をできないグループができた。 ④評価シートを書かせ、相互批判を取り入れた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			どちらともいえない	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績の平均値は87.20であり、全体の平均値79.22より7.98ポイント上回った。他学科に比して相当高い。その理由はわからないが試験に取り組む意欲が高いようだ。 ②しかし、到達度の自己評価は全項目の中央値がすべて3.0であり、全項目の平均は2.9～3.2であった。これは前年より低く、自己評価は低い。しかし、「全くそうでない」「少しそうでない」という評価が各項目に3名ほどおり、授業を理解していない学生もいるということになり、一抹の不安を感じる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職課程科目なので問題はない。
--	------------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	①授業の質評価は各項目の平均値が3.0～3.7であり、中央値は3.0乃至4.0であつた。説明の理解しやすさで3名がわかりにくいとしているので、わかりやすい授業を 目指して努力しなくてはなるまい。 ②説明がわかりにくかったという意見があり、説明を丁寧にするよう心懸けたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	①模擬授業は同じ教材では飽きてくるようなので、複数の教材を扱わせたい。 ②準備時間にもう少し時間をかけたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
学校保健教育法	3	後期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この科目は、養護教諭一種免許状資格取得希望学生にとっては必修科目である。学生の受講動機の項目「資格取得に必要である」が100%、次いで「必修科目である」が37.5%「関心のある内容である」、「単位数を確保する」が12.5%という認識で学生は受講している。 「学修準備性」として、学生がシラバスを参考にしたかは75%、授業計画を立てたかは62.5%で、6割以上の学生は、シラバスを利用し、計画を立て講義を受けていた。 この科目は、学生が学校における保健教育について知識理解を深め、教職課程の実習で保健教育を実践できる力を養うことが重要になる。授業づくりに関する基礎的な学習履修後が望ましいが、3年後期看護学科実習のためにこの科目を同時期に履修することになる。そのため、既習事項を確認しながら実施する。また、実習で授業を実践するために、講義だけでなく演習の機会を多く取り入れている。さらに、希望する学生には、時間外でも支援するように学生に伝えている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は82.1(±3.52)であり、再試対象者はいなかった。理想的レベル(80点)に達したものが87.5%いた。 DP目標別達成度をみると、「知識理解」に関しては85.7%(±1.12)、「思考判断」に関しては82.0%(±1.54)、「関心意欲」に関しては78.8%(±0.83)、「技能表現」に関しては74.3%(±1.18)であった。「技能表現」は、やや理想的レベル(理想的レベル到達度80%)に達していないが概ね良好な成績を収めている。 学生の「到達度自己評価」に関する項目の平均値は4.1～4.3で、項目間得点に大きな差はみられない。 学生の「学習量の評価」としては、30分以上の準備と復習を6回以上取り組んだ学生が87.5%いた。指導案作成や模擬授業の練習に取り組んだことが考えられる。 学生の「図書館、インターネット利用」状況は、「図書」、「学術データベース」、「インターネット」、全て項目について75%の学生が利用していた。 学生の「成績到達度」や授業後の「到達度自己評価」結果が概ね良好であった点から、授業はほぼ達成されたと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップからの位置づけからみた内容的妥当性 本科目は、教職課程の養護教諭一種免許状取得のための必修科目である。これまでの既習内容については、学生に授業内で確認しながら進めている。目標到達度や成績から、内容的には概ね妥当であると考え。 ② DP、行動目標からのみた内容的妥当性 成績評価から、学生の「知識理解」「思考判断」の達成度は概ね高く、「技能表現」については、さらに学生に努力が必要な面がみられるが、内容的には妥当であったと考える。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」に関する項目の平均値は4.4～4.5であった。 「学習量の評価」については、学生は模擬授業に向けて指導案を相談にくるなど時間外でも学習する姿がみられた。 「図書館利用」についても概ね利用していた。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	養護教諭免許取得に関する必修科目の位置づけであり、学生のDP「到達度評価」や学生の「到達度自己評価」「授業の質の評価」からみて概ね目標を達成したと考える。「技能表現」を高めていくために、教職実習前の「事前及び事後の指導」の講義で支援していく。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
道德教育の理論と実践	2	前期	選択	はい	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	教職課程の必修科目であるため、学生の意識の上では準備がある程度なされていると考える。ただし、小中時代の道德教育の実施状況から考えて、非常に意識しにくい科目であると予想される。そのため本授業では授業実践としての道德教育を具体的な形で意識できることをひとつの焦点とした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	看護学科平均77.8(昨年度72.0)。全学科平均点70.9。秀2(12.5%)、優5(31.3%)、良8(50.0%)、可1(6.3%)、不可0。平均点が7ポイント上昇し、可不可が24ポイント減少した。これは一昨年と似た状況といえる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職課程の必修科目ということ、また従来型の理論偏重の道德教育ではない実践的アプローチを採用しているということを鑑み、内容的な妥当性はあると考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方としては(1)道徳とは何かという理論編(2)日本の学校教育における道徳教育の位置づけ(3)学習指導案の構造と授業の実際(4)自分で道徳の授業を組み立てる、というものであった。 指導案の内容を見ると、教材研究のオリジナリティという点で更なる向上が必要と感じる。きちんと約束事を守った指導案というレベルには達しているが、より深い教材研究や授業方法への工夫など改善することができるだろう。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	成績上位層と不合格を含む下位層まで万遍なく分布しているという意味では、集団の学力を測定するテストとして適切なものであったといえる。内容的に自分なりの工夫やオリジナリティに挑戦した答案もあり、次年度もこのような成果を出せる学生を増やせるように取り組みたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	渡邊 義隆

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生徒指導論	3	前期	選択	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①学生の授業評価アンケートによると、受講動機として「資格に必要」100%となっており、教員免許や資格取得に向けた意識が高いことが推察される。 ②授業にあたっては、基本的な教育法規、特に生徒指導に関することを中心に学習させた。最も重視したことは学生が教師として教壇に立った時にすぐに必要となる対応・指導・その後の見守りを実際の事例を中心に授業を展開した。 ③昨年度は課題等を与えることなく学生の自主性に任せた対応であったため、学習量の評価が低い状況であった。今年度は初回の授業から課題を与え事前の学習準備を行い提出させたことにより、全体的に学習量を増やすことができた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①(目標を達成した)の項目では、同科の受講生8名中「かなり」「わりに」「まあまあ」すべてが肯定的回答であった。このことから目標に達したと言える。 ②学生の(知識)(理解)に関する達成自己評価を見ると、それぞれ肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「5名、1名、2名」「5名、1名、2名」で100%であり、否定的回答は0名であった。今年度、知識、理解の項目はかなり高い評価を得られ目標が達成したと言える。 ③学生の思考判断に関する(検討する力)(判断する力)それぞれ肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「5名、1名、2名」「5名、1名、2名」で100%であり否定的回答は0名であった。このことから同様に目標に達したと言える。 ④同じく意欲関心に関する(意欲)では肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「5名、1名、2名」で100%であり否定的回答は0名であった。このことからすべての学生が意欲をもって授業に参加したと言える。 ⑤さらに技能表現に関する(技術)と(コミュニケーション、表現力)の習得では、肯定的回答は、それぞれ「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「4名、2名、2名」「4名、1名、3名」で100%であり否定的回答は0名であった。このことからすべての学生が技能表現を習得できたと言える。 ⑥(職業倫理)や(職業選択)での肯定的回答は、それぞれ「5名、1名、2名」「4名、2名、2名」で100%であり否定的回答は0名であった。授業の中で非常に大切な項目であり力を入れた分野であり満足な結果となった。 すべてにおいて否定的回答は0名であったことは学校現場の具体的事例を中心に教師が様々な状況に対してどのように対応するか、学習できたと言える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CPカリキュラムマップ上における本科目の位置付けから見ての内容の妥当性としては、受講動機でも上がっているように「資格に必要」8名で100%となっており、教員免許の取得に向けた受講であり学生の志向に応えるために、まさに現場の生の状況に触れることにより対応や指導を学ぶことができた授業であり妥当性があるものと思われる。 「学習到達度の自己評価」ではすべての項目で肯定的回答が100%であり授業の到達度の目標が達成できたと言える。 残念ながら自由記述は無かったが授業の中での発表やグループ討議の内容は常に積極的であった。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①学生の担当教員への意見はなかったが、常に積極的に授業に参加し授業後の雑談の中では教職を希望し前向きであった。 ②授業の質評価についたはすべての項目で肯定的な回答となった。 ③学習量の評価については、今年度は課題を与える等を行ったため、事前に事例等を学習し授業に生かすことができ、発表も多くなり授業が活性化された。 ④授業中での情報機器や図書館の活用は無かったが、学生は事例等を調べるため個人での活用がなされたものとする。今年度は学生のグループ発表等で主体的に活動するような授業を増やすことができた。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	総合評価として、概ね良好であった。昨今、教師という職業は非常に大変である職業のように言われているが、子供たちの成長する姿、人生の一部であるが関わることのできる素晴らしい職業であることを、学生に伝えることができたのではないかと総合評価を感じることができた。 特に看護科の学生は授業に積極的であり協調性があった。すべてに前向きな態度で臨む姿勢が感じられ、全員が教員として活躍できるだけの資質を感じることもできる、授業を展開できことは学生に感謝している。、来年度はより学生が主体的に授業に参加できるよう考えてまいりたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	英語学科
氏名	Marne Saddy

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語コミュニケーション I	1	前期	必修	いいえ	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This course is divided into both Skills and Communication based learning. In this class, students used the textbook “Uncover 2” (Cambridge) to practice 4 essential skill groups; reading, writing, listening and speaking. In addition to the use of dialogue drills for listening and speaking, students also practiced with information gap exercises, role plays, reading comprehension, and vocabulary building exercises. These textbook exercises, along with supplementary communication activities and grammar worksheets, helped students review and reinforce their basic English skills.
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Assessment was based on attendance 15%, class work 30%, homework and presentations 35%, and a final test 20%. Final grades were mostly in the 70-80% range.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Students took advantage of helping and receiving help from other class members, by working together in small groups. Good classroom dynamics created a positive and “safe” class atmosphere in which students felt more comfortable taking risks when expressing themselves in English. This, in turn, contributed to a high level of participation and increased understanding of the material.
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	Review of the previous class language targets were useful, but took time away from new class material practice. Instead, students should be encouraged to review on their own time.
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	More detailed instruction on note taking, completion of homework and lesson review may help keep students focused on clear objectives for each class. After initial instruction, students should be encouraged to review class lessons without the guidance of the teacher in order to save class time.
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学(旧約聖書)	1	前期	必修	いいえ	94

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 学生の授業評価アンケート(学科全体89名)を見ると、受講動機としては「必須科目である」ことが87名で97.8%であって、他の動機は「単位数確保」が9名で10.1%、「資格取得」が2名で2.2%、「関心」が6名で6.74%、「GPAアップ」が3名で3.4%、「友人が履修」が1名で1.1%であった。キリスト教に初めて接する状態であったことから、授業は受講準備性のレベルが低いところから始める必要があった。学習動機向上対策として、第1に建学の精神である「感恩奉仕」との関係と目的を最初に明示する。具体的には、総合人間科学の科目として、専門分野の科学の基盤となる重要な「自己理解」と「人間性」に関わる科学であることを説明する。第2に、評価基準を明示する。授業の質評価を見ると、＜評価基準は明らかであった＞の項目で肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「34,40,18」で100%であり、否定的回答の「少し」「全く」は「0,0」で0.0%、無回答が「0」であった。② 「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、授業毎に、受講者が「自分の考え、感想、調べたいこと等」を記入した「自己学習記録」を提出し、次の授業で教員からコメント等を記されて返却され、全体に関わる事柄については授業中に教員から詳しい説明を受けるフィードバックが与えられ、授業への参加意識を高める工夫の一つとする。③ 総合人間科学の科目であり、専門分野の科目とは異なるが、聖書の古代の状況を現代の状況に翻訳するに当たり、理解力を助けるための具体的なメタファーや可能な場合には福祉と関係のある例を用い、キリスト教学の知識や理解を専門職との関係で蓄積できるように工夫する。④ 期末試験では、その準備の過程で、受講者が重要なテーマに関して自分の知識を正確なものとし、理解をより深めることができるように工夫する。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	① 成績を見ると、平均値は78.9点であり、再試対象は2名で、再履修者は0名であった。最終で分布的には、理想的レベル(概ね80点以上)に達した受講者は38名41.3%であり、標準レベル(概ね60点以上)のそれは54名で58.7%であった。成績で見る限り、知識理解は目標に達した。② 92名の学生の達成自己評価を見ると、＜知識＞＜理解＞に関しそれぞれ肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順(以下同)に「29,37,24」と「30,37,22」で97.8%と96.7%で、否定的回答は「少し」「全く」の順(以下同)いずれも「1,0」で1.1%であった。③ 専門分野での＜検討する力＞＜判断する力＞に関しては、肯定的回答は「19,36,32」と「16,35,34」で94.6%と92.4%であったのに対し、否定的回答は「3,1」と「5,0」で4.3%と5.4%となった。④ 専門分野でも＜意欲＞に関し肯定的回答は「21,31,32」で91.3%であり、否定的回答は「6,1」で7.6%であった。⑤ さらに専門分野の＜技術＞と＜コミュニケーション、表現力＞の習得に関しては、肯定的回答はそれぞれ「15,30,37」「14,30,36」で89.1%と87.0%であったのに対し、否定的回答は「7,1」と「9,2」であった。⑥ 学生の規範学習に関する達成度の自己評価を見ると、肯定的回答が「22,32,32」で93.5%であったのに対して否定的回答は「5,0」で5.4%であった。⑦ ＜職業選択の参考＞では、肯定的回答は「16,30,29」で81.5%であったのに対し、否定的回答は「14,2」で17.4%であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の一科目として、専門分野の諸領域の根本となる総合的視点と人間性を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。上記の通り、学生の達成自己評価の否定的回答を見ると、まず、＜知識＞＜理解＞では1%台であった。しかし専門分野の学習においては数値は上がっている。すなわち、＜検討する力＞＜判断する力＞ではそれぞれ4.3%と5.4%、＜意欲＞も7.6%であり、＜技術＞＜コミュニケーション、表現力＞習得では8.7%と10.9%であり、＜倫理・規範＞に関しては5.4%であった。② DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価では、豊かな人間性と社会性を支える広い教養を身につけるための＜知識＞＜理解＞、課題を解決のための論理的思考・判断にかかる＜検討する力＞＜判断する力＞、社会のニーズの変化に対応し自ら学び続ける＜意欲＞、及び＜技術＞の習得という専門分野、責任を自覚し倫理に基づく行動ができるようになるための＜倫理・規範＞、これらの分野では否定的回答が一桁台、そして唯一、適切な関係を形成する＜コミュニケーション、表現力＞が10%台であった。③ 以上から、CPの位置づけから肯定的回答は、＜コミュニケーション、表現力＞を除いて、非専門と非技能表現の分野および専門と技能表現の分野でも90%以上であり、授業内容は妥当であると考え。また、DPの位置づけからも、肯定的回答は、非専門と非技能表現の分野と、専門と技能表現の分野において同様なことが見られ授業内容は妥当であると考え。すなわち、CP及びDPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけについて、授業内容は妥当であったと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	① 学生からの担当教員へ意見は、感謝の他に難易度について2件、板書につき1件あった。この面での改善が必要である。、学習量につき、17人が取組んだ学習内容を挙げ、14人が取組まない理由につき、「時間がなかった等」(9)が多く、「必要性を感じなかった」(4)が続き、「何をすれば良いか分からない」(1)という学生もいた。第1回目授業から、テキストを予習・復習で読むように頻繁に奨励したが、動機付けが不十分であった。② 学習量の評価を見ると、延べ人数で見ると<1回30分以上の予復習>6回を35人が実践し、1回以上は67.9%で7割弱であった。③ 授業の質評価を見ると、<学習の範囲や課題は明らかであった>という項目で、肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」(以下同じ)の順に「33.42.17」で100%であった。<理解しやすい>という項目では、「23.30.29」89.1%であった。否定的回答の「少しそうでない」「全くそうでない」が「9.1」で10.9%と約1割あった。<学生の質問への答を得る機会>では肯定的回答は「23.25.35」で90.2%あり、否定的回答は「8.1」で9.8%であった。<参加の機会>では肯定的回答が「12.29.38」と85.9%であり、否定的回答が「11.2」で14.1%であった。④ 今後、知識・理解をより得られるように説明の改善に向け、1)パワーポイントの利用、2)予復習の必要性の明示、3)毎回、授業で配布し回収する学生の「自己学習記録」(A4)から判断して、分かりにくい箇所はオープンにして理解の共有化を図る工夫をする。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、評価基準を今後も明確にし、予習・復習の具体的方法を繰り返し喚起することが必要である。② 総合人間科学の科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る。とはいえ、この科目は実学であって、この科目で習得する知識理解を応用乃至適用する学問が、まさに学生が学ぼうとしている専門分野であり、その専門分野での<的確に判断する力>及び<その学びを深めたいと意欲をもつ>ことの基盤となるものである。この科目の知識理解を増すことは、専門分野での判断力及び意欲の基盤を広く強くするものである。そこで、<6. 授業の進め方とその向上について>の④に記載した改善策に取り組む工夫をする。確かに、再履修の学生がいなかったが、しかし、テストの点が好ましくなく、テスト以外の点との総合点で何とか及第点に達した学生も若干いた。③ 以上から、授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、学習方法を繰り返し喚起する。さらに、授業を進めるに当たっては、今後はパワーポイントを用い、学生から回収する「自己学習記録」から学生の授業の理解度をくみ取り指導を工夫する。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教と西南女学院のあゆみ	1	前期	必修	はい	94

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 自校学に初めて接する状態であったことから、授業は受講準備性のレベルが低いところから始める必要があった。学習動機向上対策として、第1にキリスト教と「感恩奉仕」を建学の精神とする西南女学院の歩みとの関係を明確にし、自校学の意義を明らかにし、西南女学院の学生としての「自己理解」と「人間性」に関わる科目であることを説明する。第2に、評価基準を明示する。授業の質評価を見ると、＜評価基準は明らかであった＞の項目で肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「28.33.27」で96.7%であった。② 他の2学科との全体授業であったが、「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、肯定的回答は「21.29.32」で90.1%であり、学生の関心ある質問に適切な答を提供できるように、授業毎に、オムニバス方式でテーマに相応しい講師を招き、授業への参加意識を高める工夫の一つとした。③ 総合人間科学の科目であり、自校学であることから、西南女学院の歩みを肌で感じることができるよう、創設者等の先達者の学校墓地(西南の森)を自主的に行くように工夫した。④ レポート課題で評価をすることとし、受講者が自ら関連するテーマを選び自分の知識を正確なものとし、理解をより深めることができるように工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	① 成績で見ると、受講生は全員が標準的レベル以上であった。② 学生の達成自己評価を見ると、＜知識＞＜理解＞に関しそれぞれ肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順(以下同)に「23.39.28」と「24.39.27」でいずれも98.9%であった。レポートには、受講生が積極的に関連する事項を図書館やネットで調べ、順序良く書かれよう指示し、字数を満たしていないものや、内容が十分でないものには再提出を課していることから、内容的にも単位取得の課題を充足しない受講生は、0名であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の一科目として、専門分野の諸領域の根本となる総合的視点と人間性とコミュニケーション能力を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。学生の達成自己評価の否定的回答を見ると、＜知識＞＜理解＞ではともに1名であった。② DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価では、社会の一員としての豊かな人間性と社会性を支える広い総合的視点たる教養を身につけるための＜知識＞＜理解＞は否定的回答が1.1%で1%台であった。③ 以上から、CP及びDPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけに関して、授業内容は妥当であったと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	① 学生からの担当教員へ意見は1件で、「明確に」かつ「なるほど」と思えるようにする改善することであった。検討し、適切に対応したい。② 授業の質評価を見ると、＜学習の範囲や課題は明らかであった＞という項目で、肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」(以下同じ)の順に「29,31,28」で96.7%であった。＜理解しやすい＞という項目では、「20,26,34」で87.9%であった。＜学生の質問への答を得る機会＞では肯定的回答は「21,29,32」で90.1%であった。＜参加の機会＞では肯定的回答が「16,27,32」と82.4%であった。④ 今後のことであるが、この学生の授業評価を参考に、1) 今後も理解向上のために、レジメ等による説明の工夫、2) 理解の共有化を図る工夫、3) 3学科全員の授業でどのように学生の参加の機会を作れるかを模索し工夫する。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	① 授業準備として、今後も、学習動機向上のために、グローバル化の時代をむかえることを念頭に、西南女学院大学の学生であること、その同窓生になることの意義を、それぞれの専門職との関りをもたせながら建学の精神「感恩奉仕」を要とする授業となるように工夫する。今後も、評価基準を明確にすることが必要である。 ② 総合人間科学の科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る。特に、この科目はキリスト教の価値観に基づく西南女学院大学の学生という集団的アイデンティティを形成する実学であって、この科目で習得する知識理解を応用乃至適用する学問が、まさに学生が学ぼうとしている専門分野である。その専門分野での＜的確に判断する力＞及び＜その学びを深めたいと意欲をもつ＞ことの基盤となるものであるという重要な意義を踏まえ、改善に取り組む工夫をする。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅠ	1	前期	必修	いいえ	94

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①今年度より科目担当者が10名から5名の体制になった。教員が約20名の学生を担当することから、教員間での指導の差をなくすため、講義前には講義内容の確認を、講義後には学生の姿勢や達成状況などについて意見交換を行った。 ②また、学生が講義内容を充分把握した上でゼミ活動を行うことができるよう、授業進行にそって講義責任者が、学生全員を対象に講義概要を説明した。その後、ゼミ別にゼミ担当教員が学生指導を行った。 ③スタディスキルの習得をより図るためミニレポート・レポート作成に取り組む授業コマ数を昨年より2コマ増やした。提示する課題についても検討を加えた。また、昨年の課題であった文献引用・文献記載法の指導を強化した。 ④ミニレポート・グループワーク・ポートフォリオについては、評価視点を明確にするため評価表の修正改善を行った。 ⑤昨年同様、情報収集の方法について情報課および図書課と連携し実践を通し学生の学びを深めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①総合評価の平均値は79.7点(±8.1)だった。89.2%の学生が標準的レベル(70点以上)に達しており、理想的レベル(80点以上)に達した学生は53.2%だった。レポートの平均得点は38/50点(得点率76%)で、標準的レベルに達した学生が80.6%、理想的レベルに達した学生は53.7%だった。 ②DP観点別の成績は知識理解の平均値が41.8/55点(得点率76%)と、82.7%の学生が標準的レベルに達し、理想的レベルに達した学生は40.8%だった。関心意欲の平均値は20.4/25点(得点率81.6%)で、標準的レベルに達した学生は90.3%、理想的レベルに達した学生は76.3%だった。態度の平均値は17.7/20点(得点率88.5%)で、100%が標準的レベル、理想的レベルに達した学生は91.4%だった。今年度は、特に関心意欲と態度の成績が昨年度より高い結果であった。 ③学生の到達度自己評価の平均値は4.0、“知識を確認・修正・新たに得ることができた4.2”、“専門分野の課題を検討する力を得ることができた3.9”、“専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた4.2”、コミュニケーション力や表現力を高めることができた4.2であった。 ④授業の質評価は、“レポートなどの評価基準の明確さ4.4”、“学習の範囲や課題の明確さ4.5”、“話し合う、発表するなどの機会があった4.4”、“学生の質問を受け付け答える機会があった4.3”だった。 ⑤「いろいろな図書館に行った、文献を探した」など本学以外の図書館に足を運び学びを深めた学生がいる一方で、「他の課題に追われた、時間が無い」など学習量が不足している学生がいた。学生の学習量評価では、1回30分以上の予習・復習をした学生が79%・72%、4～6回以上している学生が47%・48%と、昨年に比較すると学習量が減っていた。課題以外の学習に取り組んだ学生は25.8%と昨年とほぼ同様の値であった。 ⑥図書館の図書・雑誌利用率は93.2%、学術データベース利用率90%、インターネット利用率85.4%と利用率は高かった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は1年次で学ぶ一般教養・必須科目である。大学での学びに必要な基本的学修スキルズ習得を目指した講義内容を含んでおり、科目のカリキュラム上の位置づけは妥当であるとする。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 評価点、観点別学習達成度(知識理解、意欲関心、態度)及び学生の到達度自己評価などから、科目内容は妥当であるとする。 ③まとめ 以上より本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容も妥当であるとする。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	①上記「授業準備」の項目にも記載したが、担当教員が10人から5人になったこと、また、講義概要を学生全員に説明後にゼミ別学習に取り組むよう改善したことで、 教員間での指導内容は徹底され一定の成果があったと考える。 ②昨年同様、学生の授業評価は概ね良好であった。今年度は、特に「関心意欲・態度」の到達度自己評価が高く、授業工夫に成果が認められた。次年度も今年度 の授業内容を基盤に検討をくわえる。 ③「本科目の必要性を感じない」とする学生が毎年少数いる。大学での学びの基盤を作る上で本科目の重要性を講義を通し学生に発信する必要がある。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	昨年同様、学生の授業評価は概ね良好で、今年度は特に「関心意欲・態度」の到達度自己評価が高かった。授業工夫に一定の成果が認められた。本科目は5人の 教員が担当しており、講義後には毎回会議を持ち意見交換を行っている。次年度も引き続き教員間で議論を重ね授業改善に向け検討を加える。また、課題提出の 内容・期限を守れない学生や学習意欲が低迷する学生は、その背景をアドバイザーと連携し探っていくことも必要である。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
運動と健康	1	前期	必修	いいえ	94

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業においては、学生の興味・関心を引きつけられるように、健康に関する身近な事例をできる限り多く挙げるようにした。 毎回の授業において理解度チェックを行うと同時に、質問を受け付けることによって、学生の理解度を把握し、理解が不十分であったと思われる事柄については次の授業で説明を行った。 毎回の授業内容について復習、ならびに復習の過程でさらに興味関心を持った内容について調べ、まとめたノートを提出させることによって、学生の学習の状況を確認した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は71.9(±11.4)点であった。成績分布別にみると、90点以上が9%、89～80点が17%、79～70点が28%、69～60点が43%であった。ほとんどすべての学生が標準的レベルに達しており、そのうち26%の学生が理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成した」では、「かなりそうだと思う」が26%、「わりにそうだと思う」が43%、「まあまあそうだと思う」が28%とほとんどの学生が肯定的に捉えていた(平均値3.9)。 「知識・理解(DP1)」に関する学生の到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」とい質問では、「かなりそうだと思う」が50%、「わりにそうだと思う」が35%、「まあまあそうだと思う」が13%と、ほとんどすべての学生が肯定的に捉えていた(平均値4.3)。また、「事象(自然、人、社会、歴史など)」を理解する視点や考え方を得ることができた」という質問では、「かなりそうだと思う」が21%、「わりにそうだと思う」が54%、「まあまあそうだと思う」が18%と、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた(平均値3.9)。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	総合人間科学の「女性と健康」領域に含まれる科目である。授業では主に定期的な運動がどのようにして生活習慣病を予防し、体力を向上させるか、さらには運動の効果をより大きくするために、どのように運動を計画していくのかなどについて解説を行った。「自分なりの目標を達成した」および「知識・理解(DP1)」に関する学生の到達度自己評価では、ほぼすべての学生が肯定的な回答を行っていたことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考え。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価では、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」以外の質問では、平均値が3.7～4.2であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 学習量の評価についてみると、予習(1回30分程度以上)については、「0回」と答えた学生が11%、「1回」が19%、「2.、3回」が31%、「4.、5回」が21%、「6回」が17%いた。一方、復習(1回30分程度以上)については、「0回」と答えた学生が4%、「1回」が6%、「2.、3回」が14%、「4.、5回」が17%、「6回」が57%いた。このように40～70%の学生が習慣的に予習・復習を行っていたことから、学習に対する動機づけはある程度行うことができた考える。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	目標は概ね達成できたと考える。 今後はさらに学生が内容を理解しやすくなるような工夫と、学習に対する動機づけをさらに行なっていく。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
チームスポーツ	1	前期	選択	いいえ	72

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、からだを動かすことが中心のスポーツ実技の授業であり、学生が積極的に自律心をもって楽しく行えるように、指示は必要最小限にした。また、カロリーカウンターを用いることによって、授業中の歩数や消費カロリーを把握させ、からだを動かすことへの動機づけを図った。 チームスポーツでは、チームのメンバーが固定的にならないように、種目が変わる毎にメンバーの入れ替えを行い、できるだけ多くの人とコミュニケーションをとることができるよう工夫した。また、試合後には必ず良かった点や悪かった点、次の試合に向けての改善点（課題）などをチームで話し合わせ、記録用紙にまとめさせることによってチームで活動することの意義を考えさせた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は80.2(±7.2)点であった。成績分布別にみると、90点以上が4%、89～80点が62%、79～70点が25%、69～60点が6%であった。ほとんどすべての学生が標準的レベルに達しており、80%の学生は理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が55%、「わりにそう思う」が34%、「まあまあそうだと思う」が9%とほとんどすべての学生が肯定的に捉えていた（平均値4.5）。 「知識・理解 (DP1)」に関する学生の到達度自己評価（質問項目2と3）についても、「かなりそうだと思う」が27～41%、「わりにそう思う」が41～47%、「まあまあそうだと思う」が13～27%と、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値3.9～4.3）。 「態度 (DP4)」に関する学生の到達度自己評価（質問項目9）についても、「かなりそうだと思う」が36%、「わりにそう思う」が38%、「まあまあそうだと思う」が25%と、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値4.1）。 「技能・表現 (DP5)」に関する学生の到達度自己評価（質問項目7と8）についても、「かなりそうだと思う」が31～58%、「わりにそう思う」が25～36%、「まあまあそうだと思う」が17～25%と、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値3.9～4.4）。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は総合人間科学の「女性と健康」領域に含まれる1年生対象の科目である。授業では体力向上を目指した運動（ストレッチング、筋力づくり運動およびスタミナづくり運動）の実施方法を実技を交えて解説した。また、チームスポーツ（バスケットボール、バレーボール、フットサル）の技術練習およびゲームを行った。特にチームスポーツでは、授業の最後にゲーム中の良かった点や悪かった点など振り返り行わせ、次に向けてのチームの課題について話し合わせた。その結果、回を追う毎にゲーム中の声掛けが良く行われるようになり、より積極的なプレーが観察されるようになったように思える。このようなことから、本科目は内容的に妥当であると考ええる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は、平均値が3.7～4.2であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 本科目では、各種トレーニングおよび球技スポーツを実技として行うため、講義の時のような予習・復習を必ずしも必要としていない。そのことを反映してか、ほとんどの学生は予習・復習を行っておらず、その必要性もないと考えている学生も数人いた。このことに対しては、球技スポーツのルールや練習方法などを調べさせ、レポートとして提出させるなどしたいと考えている。 また、日常生活を活動的に過ごすことが、健康や体力の維持・増進につながることを考えれば、学生自身に日々の歩数や消費カロリーを記録させ、それを提出させることは、運動することへの動機づけになると考える。すでに学生の中にはウォーキングや筋力トレーニング、ストレッチなどを行っていた者もいた。来年度は、このような活動的な学生が更に増えるように工夫したいと考えている。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	概ね目標は達成できたと考える。 今後の課題としては、本実習以外でも積極的にからだを動かし、健康の維持・増進に努める学生の数を増やすことである。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	大嶋 満須美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保健福祉学入門	1	前期	必修	はい	93

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	保健福祉学入門は1年次に総合人間科学「基礎教養」として位置づけられている必修科目である。学部目的である人々の健康と福祉(幸福)を探究する研究の営みであることを踏まえ、3学科(看護・福祉・栄養)合同による科目である。3学科は各領域の専門性を実践能力の観点から、お互いに理解し、かつ求められる連携や協働の必要性、また、そこにおける課題について考えられるように科目だてされている。1年次の学生が、専門職として活躍している卒業生の実際を聞くことにより、職業のイメージ化が図れ、協働の重要性と社会に貢献できる自らのキャリア形成に向けた動機づけがなされ、自己の課題が発見できるよう準備を行い学部入門として取り組んだ。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された		やや達成された		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は71.8点であり、昨年度より2点低かったものの、再試験対象者はいなかった。標準レベル(70点以上)に到達できなかった学生が32名(34.4%)いる中で、理想的レベル(80点以上)に達した者は5名と少なく全体の5.4%であった。目標別では「知識・理解」は68%、「態度」は77%の到達であった。レポート内容から課題へのコミットが十分ではなく、知識・理解を深め、取組み姿勢についても次年度の課題としたい。学生による到達度授業評価では昨年度より評価が高く、中でも「自身が学ぼうとしている専門分野への意欲」「知識の確認・修正・修得」「職業選択の参考」などは4.5の高評価であった。反対に「授業中の学生参加(話し合う、発表する)」が少なかったこと、またこの授業における「図書の利用や文献検索」等の主体的活動は9.7%程度であった。身近な情報源であるインターネット検索は14.6%の学生が行っている。3学科合同の基礎教養の科目としての課題は継続的に検討したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、学部共通の基礎教養にあたる科目で、自分が目指す専門領域の導入部分に位置する1年次前期の必修科目である。専門領域への知識の修得や意欲を持つこと、また他職種との連携の意義や今後の課題を考えること等、学びを通して一定の成績を修めていることから内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 目標別にみた到達度は、「知識理解」68%、「態度」77%であった。本科目の主要な要素である「健康」「幸福」「社会」「役割」を基盤に、キャリアや他職種協働の意義については概ね達成できていることから内容は妥当であると考え。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が設けられていた」が、平均2.9と他の項目に対して低かった。毎回ミニレポートにより学修状況の確認は行っているが、3学科合同による科目運営における工夫が必要と言える。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学部共通の科目として1年次の前期に位置づけられており、授業評価やアンケート結果から保健福祉学入門としての基礎的知識や、専門性、協働、キャリア形成への動機づけは概ね達成できた。学生同士の3学科間の連携や理解を深め、授業における学生の参加の場面を設けることなどは、今後の課題として検討したい。
------------------------------	---

学科	看護学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生物と生命科学	1	前期	選択	いいえ	93

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 高校の生物の学び直しではなく、大学での学びに必要な生物学の知識の修得を目指し講義内容を組み立てた。特に、看護学科では、“体の構造と機能を知ること”で疾病が生じる原因を根拠に基づき説明できるよう、基礎的な知識修得から疾病モデルを提示することで応用へと展開した。 ②昨年度から実施した小テストの導入は、学生に緊張感と学習準備を促す意味で効果が見られたため、今年度も講義進行半ばで実施した。 ③また、主体的な学習を促すために小テストの解説レポートを課題として課した。レポート作成法・解答を導くための解説法は、事前にモデルを提示することで、図書検索・図表の提示など促した。特に、他科目の教科書や参考図書を使い解説するよう指導した。 ④理解が難しい箇所については、講義途中と講義後に質問を受ける機会を設けた。また、グループディスカッションをさせることで学生間での自己解決を促し、その後、再度質問を受けるような取り組みを行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①総合評価の平均値は76点(±14.3)であった。標準的レベル(70点以上)に達した学生は68%、理想的レベル(80点以上)に達した学生は43%だった。再試験対象者は11名で10名が合格した。筆記試験の平均得点は58.4/80点(得点率73%)、小テスト・解説レポートの平均得点は、12/15点(得点率80%)だった。 ②学生の到達度自己評価では、“自分なりに目標を達成した3.6”、“知識を確認・修正・新たに得ることができた4.3”、また、“専門分野の課題を検討する力を得ることができた4.1”、“専門分野において的確に判断する力を得ることができた4.1”、“学びを深めたいと意欲を持つことができた4.3”であった。 ③授業の質評価は、“テストの評価基準や課題の明確さはともに4.5”、“説明の理解しやすさ4.3”、“話し合う・発表する機会があった4.4”、“質問を受ける機会を設けていた4.4”であった。 ④学習量の評価から、1回30分以上の予復習をした学生は88%・95%、4～6回以上している学生が30%・40%いる。また、課題以外の学習に取り組んだとする学生は63%であった。学生の意見から「参考図書を使い調べた」、「友達とわからないところを話し合った」、「他教科に関連させた」、「もっと詳しく知りたいものを調べた」などの意見があった。 ⑤図書館の図書・雑誌活用率は84%、データベース利用率28%、インターネット利用率75%であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 大学で学ぶ生物学として、専門科目を意識した内容、また、一般教養科目として1年生を対象にしたカリキュラム上の位置付けは妥当であるとする。学生の意見として「専門基礎科目につなげるので選択科目ではなく、必修科目にした方が良い」との意見があった。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 看護で学ぶ専門科目(形態機能学、疾病学など)に繋ぐための基礎知識を固め、看護師国家試験必須問題も意識した内容を含んでいるが、学習達成度及び学生の知識理解到達度からみて、科目内容は妥当であったと考える。 ③まとめ 上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であるとする。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	①上記に記載した学生の学習量より多くの学生が予復習をしており、課題以外の学習に取り組んだ学生も63%と学生が主体的に取り組んだ様子が窺えた。学生の 自由意見より「参考図書を使い調べた」、「自分なりにノートにまとめた」、「他教科と関連させた」、「文献を利用した」、「もっと詳しく知りたいものを調べた」や「小テ ストに向け勉強した」などの意見があり、今年度の授業改善に向けた取り組みに一定の成果が見られた。授業の質も担保されており、次年度もこれらの取り組みを継 続し行う。 ②一方、学習量については、「時間がなかった」、「バイトがあった」、「他の課題に追われた」などの意見があり、学生の状況をアドバイザーと意見交換し把握していく 必要がある。 ③「配布したプリントの図を大きくしてほしい」、「プリントの文字が見にくい」との意見があり、これについては改善するように努力する。また、印刷が不具合な箇所につ いては補足説明をする。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	一般教養科目ではあるが、専門科目に繋ぐ基盤科目として大学での学びを深めるように講義内容を組み立てている。基礎知識を固め事象を根拠に基づき理解する ところまで展開していくため、難易度の高い内容も含んでいる。しかし、学生の学習量の多さから主体的な学びを引き出すことができおり、授業改善の成果はあつ たと考える。今後も今までの授業改善を継続し実施する。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	齋藤 朗宏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
数学リテラシー	1	前期	選択	はい	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	昨年度あったグループワークに関して、グループに一つの評価点を与える形が評価の公平性に不満が出ていた点を鑑み、事後テストの形での理解確認を図った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の到達度評価の平均値、中央値から、やや達成されたとみられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	全学対象の教養科目という位置づけであり、カリキュラム上の他の科目との関連性はあまり高くない。そういった経緯もあり、学生の受講目的も大半は単位数確保であり、評価は難しいところではあるが、内容的にはシラバス通りに進められ、達成度評価からも一定程度知識理解を進められたと考えている。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業資料をPowerPointファイルの形で配布しており、またシラバス上でも復習方法を書いていたため、自由記述で復習の方法がわからないため復習しなかったとい う学生が相当数いたのは予想外だった。授業の中でも指示するようにする必要がありそうだ。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	昨年度と比較すると、グループではなく個人に課題を課したことで評価の公平性に関する疑問が出なくなった点はよかったと考えている。全体的に、そもそも内容理 解のモチベーションが高くない状況で履修するケースが多いため、より興味を持ってもらいやすくなるよう配慮したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
こころと人間	2	前期	選択	はい	42

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	SNSの発展を見るにつけ現代社会は情報過多のストレス社会であると感じる。心理学の分野に期待が高まっている。本講義では基本となる心理学一般の基礎知識や教養的知見の修得を目指しながら、私の専門である生涯発達心理学の視点から授業を組み立てている。それは今を生きる学生に最も必要な「生き方の模索」に関わる問題だからである。ここ数年の大きな課題は講義中の集中力をいかに途切れないようにキープさせるかという点であった。このため講義途中で「映像」を多く取り入れた。自由記述などを読むと概ね成功したと理解できる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	昨年度に引き続き、全体を通して達成された。その根拠は「定期試験の結果」である。優れた及び良しの合格点を取った学生はほぼ100パーセントに達した。定期試験は記述式がその中心であるが、記載の内容も的を得たものでありしっかり書かれており理解の進んだことが推察された。また学生の授業評価アンケートの記述にも例年に見られる「ためになった」「分かりやすかった」「面白かった」などが多数あり知識理解と意欲関心について一定の水準を保ったことが伺える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	昨年度と同様に、毎回の授業について、ミニ感想や質問を自主的に書いて提出するように求めている。この効果は大きく好評のようである。自由記述を見ると、例年みられることの多い感想。「質問の回答の時間が一番ためになった」「心理学もそうだがそれ以外の人生の話が面白かった」等の記述もあり、本科目の目標である「ストレスの多い現代社会を生き抜く健康な心構えを形成する」というねらいが達成されたと評価できる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	昨年度の問題点であった、自学自習を促すための「次回の授業までに日々の生活の中で心にとどめておいてもらいたいこと」を伝えた方が良い。については今回の調査からはまだまだ改善されていないと言える様である。昨年同様に学習量を高める工夫の一つとして「予習の課題設定」を今後さまざまな試行をしてその効果を継続して吟味していきたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	講義シラバスで年度当初の学生に期待した行動目標は概ね達成出来たと思う。しかしまだ授業中に集中力が途絶え、睡眠モードに切り替わる学生が幾人が存在する。例年のことであるがその学生への注意の仕方に工夫をくわえたい。集中力を継続させる効果的な方法は私の中でいまだはっきりしていない。今年度取り組んだ映像や教師の発問、討議話題の挿入などまだ工夫の余地を継続して続けたい。努力は実ると信じがんばりたいと思う。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	河岸 重則

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活の中の化学	1	前期	選択	はい	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講生は高校時代に「化学」を履修した人が少なく、また「化学」に苦手意識を持っている人が多い。加えて、ほとんどの受講生が「単位確保」を目的としての履修のため、授業内容を易しくて、日常意識していないが注意してみると「化学」が生活の中にたくさん存在していることを理解し関心をもってもらうことを目的とした。 ②上記の目的のため講義内容をその時間内に理解することに重点をおいているので特に「予習・復習」を求めている。講義の開始には前回の内容の「キーワード」の復習から行なった。 ③数回、確認テストを行い、理解度のチェックを行なった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①試験を資料持込で行い、その資料を理解しているなら点数のとれる形式で行なった。平均点は84点であった。 ②身の回りの化学から受講生のおのおのが自分でレポートの課題を決定して提出させたが、全員きちんと仕上げていた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	科目は「一般教養科目」であり、また選択科目、学科横断的科目である。試験の点数、レポート内容から、内容的に妥当であるとする。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	一般教養としての化学の内容として特に問題はないと考えているが、学生に随時質問をして授業の理解度を確認しながら授業を進めていきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	一般教養としての化学の内容として特に問題はないと考える。化学は範囲が広いので、学生に意見を聞いて学生がさらに関心を持つような講義項目を加えるのも課題かもしれない。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
法学	1	前期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機を見ると、「関心のある内容である」75.0%、「単位数を確保する」50.0%、「先輩に勧められた」12.5%であった。保健福祉学部3学科同時開講の科目（ただし、栄養学科は今年度履修者なし）のため、看護に特化した授業内容にするのは困難であるが、学生が具体的なイメージを持ちやすい事例を挙げて、関心を引き付けるように努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	前期試験の平均は70.40点であった。講義終了後に学生が提出したコメントも成績評価の対象とした結果、再試験対象者は0名、理想的レベル（80点以上）に達した者は2名であった。学生による到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値が4.1、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値が4.0と、昨年度よりやや低下したがそれでも高く、「自分なりの目標を達成した」の平均値も3.8であることから、学生の目標達成度は高い。また、DP1には加えていないが、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均値がともに3.9、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均値もともに3.8と高い。これは「法学概論」という科目そのものの特性のほか、講義の中で社会における具体的な事件を用いて説明したことにより、講義のポイントを学生が理解できていることによると思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからみると、本学は「総合人間科学」科目であり、国家試験の試験科目ではないことから、どうしても「単位目当て」の学生が多くなり、動機付けには苦慮している。しかし、将来社会の中で、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、豊かな人間性と社会性を得るためには重要であり、学生も一定以上の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。②DP,行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考え。よって、内容的妥当性には問題ないと考え。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「説明は理解しやすいものであった」、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値はいずれも3.9であった。他方、「学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.3であった。この数値は講義の性質上、やむを得ないものとする。また、今年度から質問、感想などを学生が記入するコメント用紙の配布を開始したが、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値は4.0であった。学習量について、講義内で予習・復習のやり方について説明したが、全く予習をしなかった学生は2名、全く復習をしなかった学生は3名と、例年より予習・復習に少しでも取り組んだ学生が多かった。授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習について「分からないものを調べたりした」、「復習をした」と回答している学生がいる一方で、授業以外に学習していない理由として「他の教科の課題が多いから」、「何をしたらよいかわからなかった」という回答が見られた。なお、学生からの意見は特になかった。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、豊かな人間性と社会性を支える幅広い教養としての基礎的な知識の形成についてはおおむね達成できたと考えられる。例年、看護学科からの履修者は10名程度であるが、実際に履修している学生の満足度は高いことから、今後は看護学科の学生がこの科目を履修しやすくするための配慮を大学に求めたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	島居 佳江

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎英語	1	前期	選択	いいえ	78

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	看護学部の当該学生は、関心があることを理由に受講した人が57.1%もいた。授業中も、高校の時に英語が好きだった、または得意だったという学生が多く、意識の高さが垣間見れた。そのため、少々レベルの高い小テストを行なったが、ほとんどの学生がよく勉強して備えてくれた。一部の学生にとっては、負担が大きかったようだが、学期の終わりには慣れて、ついてこれるようになったのは、教員にとっても嬉しいことだった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	シラバスは、1. 基本的な語彙力を身につける 2. 医療現場でよくあるシーンを想定して発話する 3. グループワークで能動的に授業に参加できる、であった。看護学部の学生はすべてにおいて、本当によく努力し、集中して授業に参加してくれた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	当科目の専門分野への貢献度は、やや低めだが、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の項目では、4.5の高評価だった。英会話のシチュエーションが常に医療現場の実際に起こり得るシーンだったので、学生は必要性を感じながら取り組むことができた。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価の結果は、他学科と比べて随分よかった。看護学科の方がかなり クラスサイズが大きく、目が行き届かなかったのではと心配していたが、 ありがたい結果だった。授業外の勉強もかなりやってくれたようだ。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する 機会が作られていたと考える学生が多く、参加型タスクはこのまま継続して やってほしいと思う。看護学科の学生は専門分野の勉強や実習がかなり大変 そうなので、授業の難易度をどこに設定するが悩ましいが、来年度もよく 学生を観察し、相応しいレベルを見極めたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	木梨 安子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
実用英語コミュニケーション	2	前期	選択	いいえ	33

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業を始めるにあたって、受講生の英語基礎力を測るテストを実施した。その結果、当該クラスに英語熟達度の幅があり、基礎力をつける必要がある受講生も少なくないことが分かった。英文を理解できる基礎力をしっかり身につけていることはどの分野の英語を学習する上でも大事な基盤になる。したがって、それが身につけてなければその充実を図るのが先決である。なぜなら、基礎力がしっかり身につけている英語学習者は、語彙力と並行して、読解や聴解の力が伸びやすく、どの分野の英語にも順応できるからだ。しかし、中高に学んでおくべき基礎力が不十分な受講生は、読むことがまず苦手であり、文字からの情報を掴み取っていく能力に欠ける。当該授業は、実用英語コミュニケーションという授業内容であるので、読む・聴くを中心に会話表現をペア練習で覚えることも学習活動の一部に取り入れ授業を進めたが、指導の中心は、将来どの分野の英語にも対応できる基礎力をつけることが中心であった。英語の構造を5文型を中心に学習しながら、毎授業リーディングのプリントを配布して、自ら意味を読み取っていく作業は、難解な医療英語の文章の意味を掴み取っていく理解の手助けになったのではないかと期末テストの結果をみて感じている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	医療分野の英語を理解する上での基礎力については、学習した範囲内で身についたのではないかと、小テスト・期末テストの結果を鑑みて判断している。ただ、使用テキストの消化率が低かったという点で、達成度が抑えられた感はゆがめない。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	実用英語コミュニケーションという科目内容から、医療現場の英語コミュニケーションに比重を置かなかったという点では妥当性は低いと思われる。今後の検討課題としたい。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	教科書と文法学習を並行して授業を進めてきたことで、教科書に提示されている学習項目を十分に活かすことができなかったという反省点はあるが、使用テキストの内容も当該クラスに適応した内容かどうかよく検討する必要があると思われる。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	英語を文頭から意味を把握する力をつけること、医療英語の基礎知識を身につけること、医療現場の英語でのコミュニケーションに役立つ英語表現を身につけること、という点においての成果は、授業前と比較して上がっているとテスト結果を見て判断している。今後の課題としては、学習者が取り組みやすいより平易な英語を用いた内容の教材を使用し、その表現をコミュニケーションに活かせるような学習を促していくよう努めたいと思っている。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	金 光子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ハングル入門	1	前期	選択	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	韓国語が初めての受講者が多いことから、ハングル文字でつまづかないように経験上理解しにくいところを先回りして解説するなど、わかりやすい授業を第一に心がけた。また受講動機において、70%以上の学生が「関心のある内容である」との回答をしていることからわかるように、もともとK-POPや韓流ドラマなどの影響を受けている学生が多く、できるだけK-POPアーティストや韓流ドラマ俳優などが使うフレーズや言葉なども文法学習で取り入れながら、学生が韓国カルチャー情報を見る際に実際役立つような授業も心がけながら、学生の自発的な韓国語学習を促すことに重点を置いて取り組んだ。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	定期的に行う小テストで、初回あたりは全員の平均点はあまり高くなかったが、徐々にハングル文字のコツをつかみ出してテスト後半においては皆が高い平均点を出せるようになった。到達度自己評価においては、多くの項目において平均値・中央値が3.5以上であり、教育目標はやや達成されたと思われるが、多くの学生が韓国文化やカルチャーには大変興味をもち、韓国を理解しようという強い意欲はもっているものの、語学の学習には苦勞した学生が多かったように思われる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本講義は語学学習を通じて韓国という国・地域に興味をもち、言葉に現れる文化の違いなどを理解し、また実際に韓国語を話すことによって異文化への理解を深めながら学習が可能になったと思うので、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性は問題ないと思う。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の進捗は小テストや課題の出来具合をしっかりと把握し、つまづいて いる受講者がいれば個人的に指導にあたったりもした。最終テストでは全 員の平均点が高く語学の基礎的レベルには十分に達したと思う。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本講義ではハングル文字の書き方、正確な発音など、これからの発展的な 語学学習の重要な基礎を身につけることができ、韓国語でのコミュニケー ションの第一歩を確実に踏み出せたと思う。
------------------------------	---

学科	看護学科
氏名	浅羽 修丈

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
メディアリテラシー	1	前期	選択	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1回目の授業で、受講生に対し「これまで、情報の受け取り方や送り方について学んだことがあるか。」と質問したところ、ほとんどの受講生が「はい」と回答した。この事実から、多くの受講生は、情報受発信に関する基礎的知識があると判断した。本科目では、情報受発信の基礎的な規範やマナー等についての解説ではなく、基礎的知識をいかに活用させるか、また、現実の場面といかに結びつけさせるかに重点を置いて授業を設計した。現実の場面と既存の知識とを結びつけるために、実際に掲載された新聞記事やニュースなどを題材とした教材を作成した。そして、そこから、我々はどうのように情報を受け取るべきなのか、また、情報を送信する場合はどのようなことに気をつけるべきなのかについて考えさせるような授業を設計した。 また、コンピュータ操作の基礎も学んでもらいたいことから、上述の内容の課題を作成する際は、文書作成ソフトウェアや表計算ソフトウェア、プレゼンテーションソフトウェアを用いて作成するように指示した。各ソフトウェアの基礎的な操作方法の学習も授業設計の中に取り入れた。 昨年度に挙げた課題の中でも、今回は「出席の重要性を強調する」「授業が始まる際には、学習の範囲と課題を明示する。」の2点を意識して授業を設計した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	単位取得学生の成績の平均は、約82.9点と高く、多くの受講生が良いレベルまで目標を達成したといえる。受講生の到達度自己評価を見ても、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が4.5、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」が4.3、「自分なりの目標を達成した」が4.3であり、高いレベルで目標に到達したと感じている。 しかし、残念ながら単位取得には至らなかった学生が4名もいた。そのうちの2名は、途中で授業に來なくなった受講生である。出席の重要性を強調したが、それが十分に伝わらなかった可能性もある。残りの2名は、課題の未提出や理解不足による低得点の受講生である。これらの受講生には、現在の課題状況などを認知させる仕組みが有効であると考え、課題状況をどのように周知するかは、今後の大きな課題といえる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、メディアから発信された情報をどのように受け取るべきか、また、メディアを通じて情報を発信する際に何に気をつけるべきかについての知識を身につけ、それを現実の場面と結びつけながら物事を判断する考え方を身につけることを目的としている。そのため、「2. 到達度自己評価」の中でも、特に、「(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」と、「(3)事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることができた」、「(9)職業倫理や行動規範(守るべきルールなど)」について学ぶことができた」の3つの項目が重要であると考え、これら、3つの項目の平均点を確認すると、(2)は4.5、(3)と(9)は4.1になっている。全て、4.0を超えており、本科目の内容的妥当性は高いと考える。ただし、(3)と(9)の4.1は、まだまだ伸びる可能性がある。そのため、メディアリテラシーとして事象を理解する視点や考え方や、行動規範についての指導など、さらに工夫する余地は残されていると判断できる。 また、本科目では、コンピュータ操作の基礎も学ぼうように設計している。看護学科の受講生は、将来、看護師などの医療・福祉関係に就いたときにもコンピュータを操作する機会は多いことが想定されるため、「2. 到達度自己評価」の中の「(7)自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」という項目も重要である。その平均点は、4.3であった。この項目から見ても、本科目の内容妥当性は高いと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価の「3. 授業の質評価」の各項目の平均値は、4.5～4.6を記録しており、全体的に高い評価を頂いた。授業の質については、良い方向で進められていると感じている。 授業評価の「4. 学習量の評価」の予復習時間に関しては、本科目は1単位の科目であるため、それほど重要視はしていない。それにも関わらず、何回かに渡って予習・復習した受講生がいたことは、良い傾向であると考える。特に、予習が復習よりも多くなった要因は、コンピュータ操作の小テストの日程や出題範囲などの予告をしたによると考えている。また、授業の記録に関しても、しっかりと記録している様子が伺える。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	目標の到達度においても、授業の質評価においても、概ね良い評価を得ることができた。また、CP、DP、カリキュラムマップの観点からも、内容的妥当性は高いと判断した。しかし、課題は幾つかある。その主な課題を以下に記す。 ・出席の重要性を強調する。 ・課題の得点取得状況を周知する仕組みを考える。 ・メディアリテラシーの観点から、社会現象や人との繋がり方などの事象を理解する視点や考え方を膨らませる授業設計をする。 ・情報の受け取り方や送信の仕方に関する行動規範について、さらに明示的に指導する。 来年度は、上述の内容を考慮に入れて授業改善に努めたいと考えている。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	矢原 充敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報処理基礎	1	前期	選択	いいえ	89

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、大学生としてのICTの基礎スキル修得を主目的とした授業であるが、ソフトウェアの基本的な使い方は高校時代に学んでいる学生が多く、また日々進化し続けるICT社会において、使い方そのものはあまり意味をなさない。むしろPCを用いて何を表現できるかが4年間の大学生活を送っていく上で、あるいは社会人基礎力として重要である。従って、授業では文書作成やデータ活用において、学生生活で必要となるPCによるレポート作成技法やデータ処理スキル、インターネットの活用手法、あるいはプレゼンスキルの向上を目標としながら、その中で必要なICTスキルを修得させることに重点を置いた。 受講動機では、「関心のある内容である」が約50%と昨年度より20%近く高くなっている。第1回講義において、本科目の位置づけとICTの重要性を看護業務等と絡めてしっかりと説明した効果が表れていると考えられる。しかしながら、「単位数を確保する」も50%程度を占めており、昨年度よりは10%程度減少しているものの、次年度に向けてさらなる改善が求められる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は76.7点であり、再試験対象者は0名であった。評価が「秀・優」の学生が41.6%、「良」も加えると76.4%に上っており、授業目標としているレベルを達成できたといえる。「可」の23.6%の中の多くは、授業内容は十分理解できてはいるものの、授業等で習得したスキルや知識が復習不足から身につけておらず、試験等において満足のいく結果を残せていない状況である。PCを自宅に保有していない学生も多く、基礎科目という位置づけから、今後の検討課題といえる。学生の到達度自己評価でみると、全体的傾向として(2)の項目において高い数値を示しており、学生自身も授業目的であるICT活用術の修得を実感できていると言えるのではないだろうか。また、今年度は(7)の項目も高い数値を示している。毎回の授業内容、練習課題等において看護に関連する話題を提供した点が数値の伸びにつながっていると考えられる。ただし、1年生前期の科目であるため、本授業の内容が4年間の大学生活や卒業後の業務の中で重要な要素となる点については、学生自身が把握しきれておらず、他の項目の数値の伸び悩みにつながっていると考えられる。昨年度に比べて、全体的に数値が高くなっている点は評価できるが、次年度に向けてさらなる改善の余地を残している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は社会人基礎力あるいは4年間の学生生活において必要とされるICT基礎スキルと知識を修得する1年生の前期に実施される選択科目である。受講生が入学直後であり、まだ完全にDP、CP、カリキュラムマップを理解し切れていない中で、学生生活だけでなく社会人基礎力としても必須のICTスキルの重要性を理解できるよう工夫している。学生も所期の成績を収めており、かつ授業評価の結果からも、その内容については妥当であったと考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 授業評価から「コミュニケーションや表現」および「職業選択の参考」に関する達成度が他の項目に比べて低かったが、昨年度も同様の結果であったため、グループ活動による発表等を組み込む予定であったが、受講者人数、コンピュータ実習室等の関係から実施が難しい状況となってしまった。次年度に向けて別途の手法を検討したい。また、思考判断に関しては、与えられたことを指示された手順に沿って行うことは得意であるが、自分で創造夫していく課題になると対応できない点が見受けられる。この辺りは昨年度から改善されていないため、次年度に向けて改善策が必要である。しかし、成績の面では内容的に妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、改善すべき点はあるものの、内容的妥当性に問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」では、(1)から(3)に関して「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」を合わせて7割を超えている点は、こちらの授業意図が学生にも浸透していたのではないと思われる。しかし、(4)についてはPCを中心とした実習授業であると言う事もあるが、授業内課題については周囲と相談しながら行わせるなど、PCとだけに向き合う事のないようにしたが「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」あわせて6割弱であり、検討の余地を残した。 「学習量の評価」では、(1)(2)について「0回」が5割程度を占めており、「1回」も含めると7割程度となっている。授業では自己学習の取り組み方について指導は行っていたが、家庭にPCを持っていない学生も多く、対応を検討する必要がある。 また、授業全体を通して与えられたテーマ、課題に対して、PCをどのように活用しながらその問題解決に取り組んでいくかという点に主眼を置いた授業展開を心掛けていた。これについては、昨年度に引き続きよい結果が得られている。今後は、更なる数値の向上を目指し、検討を重ねていきたい。 学生の意見は、特にここで特筆すべき内容は見当たらなかった。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、科目区分「総合人間科学」の「環境と情報」に位置づけられており、社会人基礎力あるいは4年間の学生生活の中で必要とされるICT基礎スキルと知識を修得することを狙いとしているが、その目標は概ね達成できた。また、与えられたテーマや課題に対して、その問題解決のためにPCをどのように活用すべきかという点では、昨年度に引き続きよい評価を得ることができた。しかしながら、看護学科という卒業後の進路が明確な学生に対して、どのように専門性と結び付けながら関心を持たせるかという点では、昨年度に比べてかなり改善されてきているものの、さらなる改良の余地を残した。 以上から、教材内容の見直しや、課題提示の工夫、グループ活動への取り組みなど、次回に向けた改善を検討していきたいと考えている。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	三浦 元喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
情報の理解と表現	2	前期	選択	はい	49

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業の実施にあたっては、情報の表現や構成に関する知識に加え、技能をしっかりと身につけてもらうことに重点をおいている。 ただし、単なるPowerpointやExcelの使い方で行き届くのではなく、より汎用性の高い知識・技能を身につけてもらうため画像を含めたWebページの作成や、インタラクティブなプログラミングをとりいれている。 知識定着に関しては、授業内で小テストを頻繁に実施したり、期末の確認テストを行ったりしている。また、講義での説明資料をすべてWeb上で閲覧できるようにしている。 技能定着については、授業内での円滑な演習と、授業時間外の活動がシームレスに行いやすいように、Webブラウザ上での演習環境を提供している。 また、Powerpoint/Excel/Photoshop Elementsの課題演習と、Webページ作成/Processingプログラミング作品作成のグループ活動および発表会を実施した。 受講生の6割強が、受講動機として「資格取得に必要である」ことを挙げている。そのほかには、「単位数確保」が主要な動機である。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価において、「(2) 知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均点が3.7、中央値も4.0と、高いことから、教育目標は達成されたといえる。単なるPowerpointやExcelの使い方で行き届くのではなく、より汎用性の高い知識・技能を身につけてもらうことを狙っていることから比較的難易度が高い講義内容であったが、ほとんどの到達度自己評価の中央値は、5段階評価の3番目にあることから、受講者は学習内容について、ある程度の自信をもつことができたといえる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Processingプログラミング導入によって、コンピュータで扱える色の特性や、図形による表現を体験的に学習できるため、利点があると考えている。 また、Webページの作成についても、調査した結果をグラフや表を交えつつ、わかりやすく伝えることに重きを置いた。 アニメーションやインタラクティブな表現については、ある程度高度な知識が必要となるが、学生は興味をもって、自発的に学習や演習に取り組んでいたため、今後もぜひ継続していきたい。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	「授業の質の評価」において、すべての項目の中央値が3.0以上であることから、授業の進め方に問題はないと言える。 平成30年度から、一部の資料は紙で配布し、学生がメモをとったり参照しやすいようにした。 また、グループでの活動と発表を取り入れることにより、学生の主体的な参加を促した。 このことは、「(4)授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均点が3.8(中央値4.0)と高いことにつな がっていると考えている。 受講者のコンピュータスキルやリテラシーのばらつきによる影響をなるべく排除するため、H30年度からWeb上でのプログラミングエディタにおいて自動補完機能を導 入し、入力時の負担を軽減できるようにしている。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	* 総括的評価 * 比較的難易度の高い内容を扱っているが、学生に講義の方針や意図が十分に伝わり、自信につながっていることが、自己評価の結果に現れていると考えている。 * 課題 * 比較的順調に課題をこなせる学生がいる一方、コンピュータに対する苦手意識をもつ学生が一定数いるため、能力やリテラシーのばらつきをどのように軽減していく か、レベルをどのあたりに設定するかが、今後の課題である。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ボランティア概論	1	前期	選択	はい	84

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講では、ボランティアや地域貢献活動等の理論や実践について学びを深めるとともに、自らボランティアに参加したりすることにより、自分自身の社会的有効性や存在価値を見出し、豊かな人生を目指すことを目的としたものである。全8回の講義中、現在進行形で活動しておられる、外部講師を5団体招聘して、リアル講義の工夫をした。 特に自分自身で活動を行いたいと思うような気持ちを膨らませられるよう、質疑応答の時間を多く設けるように工夫した。 初回講義の時には、この講義で何をするかということ、ペーパーにして配布し詳細の説明をした。心構えと題してのペーパー(内容は休まない、協力する等の再確認、外部講師の方々へのマナー礼儀の確認)を配布して関心をもたせた。また、毎回、リアクションペーパーの記入で、自分が何をどんな風に学んだかを振り返る時間を必ず設け、考えたことを文章にて表現させた、
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体を通して目標の達成度が達成されたという根拠は、欠席が非常に少なかったということが考えられる。そのことで、学生の意識をしっかりと受け止めることができたと感じている。また、リアクションペーパーの中には、楽しい授業であった、普通では知ることができないことを学べた、実際にボランティアを始めた、等々の記載内容のものが多かった。当然楽しいだけではいけないので、毎回必ず振り返りを教員と学生と一緒にやって、このボランティア概論の意義と必要性を高めた。そのようなことから、最終的には全員が学びと感動を深めることができ、理想的レベルまで達成できたものと考えている。 講義時間内だけのものになってしまう可能性もあるので、外部講師(ゲストスピーカー)の団体の事前学習の課題を与え、考えさせて興味を持たせるよう工夫して行った。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性については、学生の授業評価アンケートの評価や、最終報告から見て、内容としては妥当と考えられる。DP、行動目標から見ての内容的妥当性に関しても同様で、内容的には妥当であったと思われる。以上のことから、内容的妥当性に関しては問題ないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由」で、「することがなかった」という回答があった。 地域貢献や社会活動、ボランティア等々の重要性について、より具体的に社会の中での状況を興味深く話していき、可能な限りリアルに伝えるようにして、講義以外の時間でも振り返ることができるような意識付けを深めていきたい。 事前の課題をほぼ毎回課したので、インターネットの利用が多かった。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本講においては、学生からの自己評価やリアクションペーパー、最終講義の時の全体的感想によって、その達成は理想的レベルであると考えられる。 講義内容もゲストスピーカーの方々のご協力を得て、シラバス通りに進化した。 次年度も同様な内容で進めていこうと考えるが、時代をキャッチした内容の講義を展開していきたい。
------------------------------	--

学科	看護学科
氏名	吉原 悦子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
高齢者支援学Ⅰ	2	前期	選択	いいえ	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講義は、2日で完結する集中講義、他大学との合同講義であった。講義を実施するに当たり、受講する学生は、看護学科の学生だけでなく、他学科、他大学の学生も聴講するために、専門的な内容を控え、できるだけ、平易な言葉を使用した。また、高齢者を取り巻く社会情勢や高齢化率など一般的に周知しておく内容も組み入れた。また、PBLの際には、学生の主体性を重んじながら各専門領域の学生からの意見が尊重されるように声をかけた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は85.7であり、再試験者は無であった。 到達度の自己評価においても「自分なりの目標を達成した」平均点が4.1であり、達成度のについては評価ができるものとする。 昨年度同様、講義とPBLで行い、事例をもとに3大学の学生が高齢者がアクティブに過ごすための方法を検討した、他大学とのPBLは有意義であったととの学生の評価もあり、広い視野を持つことは専門職として重要であると考え、教育目標はおおむね達成されたと考え。しかし、PBLに臨むにあたっての事前準備を行っている学生は少ないが、事例検討の際には図書館やインターネット等で調べる時間を設けており、8割の学生がインターネットを利用し、検索を行っていた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、総合人間学の位置づけであるが、他大学とのPBLに際しては、看護の専門性についても再認識できる科目であり、専門職としての協働を考えることができる科目であり、内容的に妥当であると考え。 また、看護者として基本的な知識をもとに他大学の学生との意見交換を行うなど、表現力を培うことにもつながっており、内容は妥当であるといえる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 行動目標については、授業評価アンケートの結果からは、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.3)、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」(4.2)「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた。」(4.2)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(4.3)であった。他大学との学生とのPBLは、看護の専門職としての自覚を促し、今後学んでいく内容とも関連があり、学習意欲への促しにつながったのではないかと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価では、評価基準の明確さや課題の明確さの平均が他に比べ4.0と低かった。そのため、評価の基準の提示の方法を検討する。「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた」が4.5であり、PBLを通した学習体制が学びにつながったと言え、次年度も行っていく。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、総合人間科学に位置付けられているが、老年看護学や在宅看護学といった専門科目につなぐ重要な科目である。選択科目であるが、今年度は人数を他学科ともあわせ、1グループに全学科の学生を配置した。3大学合同での科目に関心をもっており、今後の専門職としての多職種連携について学ぶためには重要な科目であり、概ね成績も達成していると考え。また、次年度は課題の提示、図書の利用などPBL促進の材料になるように検討していく。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	阪井 俊文

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ライフイベントとキャリア支援	2	前期	選択	はい	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	今年度から新たに開講される科目であるため、手探りで講義の内容を準備した。受講動機を見ると「単位数を確保する」が最も多いが、「GPAをあげる」とする学生も50%と比較的多いことから、シラバスを見た印象として、比較的、好成績を取りやすい科目と受け取られたようだ。準備に際しては、類似する科目と内容が重複しないように心がけ、必修科目である「キャリア開発」を補完するような内容となるよう考慮した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	アンケートの結果で、「自分なりの目標を達成した」や「職業選択の参考になった」の項目において半数以上が4または5としていることから、学生にそれなりの意義がある内容だったと受け取ってもらえたようだ。ただし、学習量や図書館利用などの項目に関しては全体的に評価が低くなっており、学生の自主的な学びを引き出すまでには至らなかった。単位数の確保という目的で履修した学生が多く、専攻する学問に直結する内容の科目でもないためやむを得ない面もあるが、もう少し、主体性を促す努力をするべきだったかもしれない。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「キャリア形成支援」というカテゴリに含まれる数少ない科目のひとつなので、単位数の取得を目的とした履修が多くなることはやむを得ないであろう。到達度自己評価の(4)から(7)の専門分野への寄与に関する項目についても、科目の性質上、評定が低いことは当然である。(1)(2)(10)の評定が悪くないことから、妥当な内容の講義を提供できたと考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	自由記述の意見から、少人数での演習形式の授業をイメージして履修した学生が一定数いたことが伺える。初めて開講される科目であったので、履修者数の見当 が付かないまま講義が始まったが、蓋を開けてみれば履修者は100人を超えていた。また、履修者の多さに加えて、8回という限られた講義回数の科目でもあるた め、学生と相互作用を取り入れた形式にするのは難しかった。次年度以降は、履修者数にもよるが、学生と議論できるような進め方を検討したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	今年度は開講初年であったが、一定の評価得ることはできた。次年度以降は、キャリア支援という本科目の目的を踏まえ、学生がどのようなニーズを持っているの かをくみ取りながら、より充実した内容を考えたい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	笹月 桃子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護形態機能学Ⅰ	1	前期	必修	いいえ	94

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	大学に入学し最初に受講する基礎医学知識に関する講義であり、学生の基礎知識(高校生物履修の有無)にも差があることが予想され、また受講動機にあるように必修科目であることから興味の有無と関係なく受ける科目であったので、 ①なるべく平易に、また興味を持ちやすいように日常生活や医療現場での実例と関連させて、講義を行うよう努めた ②また一方向性で知識を講義する形は避けられないため、集中や注意が逸れないように、講義の進行に合わせて教科書と同じ図表をスライドに大きく示し、ハイライトや書き込みなどの指示も具体的にを行うようにした。 ③内容のほとんどが新しく学ぶ知識であり、量も多いため、復習の支援と促しとして、前回講義の内容の一部について毎回、講義始めに小テストを行った。 ④折に触れ、医療に関するニュースや実例などを紹介し、看護師という職種の果たす役割、やりがい、責任に考えを馳せる機会を設け、社会人・医療者となる自覚と学習意欲の向上を目指した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	前期試験の平均点は79.3点であり、標準的なレベルに到達していると考えられた。 到達度自己評価において、(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることが、割に、あるいはかなりできた。と評価した学生は82/90人、また(6)自分が学ぼうとしている専門分野において、さまざまな課題を検討するしたらを得ることができた。とした学生は81/90人おり、新しい科目に意欲的に取り組み、新しい知識を得たと自覚した学生が少なくなかったことは、上記に挙げた工夫がある一定の効果を挙げた可能性も考慮しうる。一方で、講義内容の特性上、双方向性のやりとりは行いにくく、授業の質評価において、(8)コミュニケーション力や表現力を高めることができた、と評価する学生は他項目に比し、やや低く、今後意欲の維持のためにも、改善策が必要と考えられた。 毎回、講義の冒頭に小テストを課したことにより、事前30分の復習の促しには繋がったと考えられたが、その範囲は限定的であったかもしれない、知識の定着についてはさらなる工夫を要する。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP1知識理解については、上述の通り、意欲的に取り組み、復習などを行うことで、ある程度達成されたと考えられたが、DP2思考判断については、一方的な知識の伝達ではない講義スタイルの工夫も必要と考えられた。 到達度自己評価において、(10)職業選択の参考になった、に対し「、かなりそう思う」とした学生が76/90人おり、看護師・医療職になるべく道を選択した意識の促しとして、刺激となる一面もあったことが伺えた。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	前期試験が60点に満たなかった学生には再試を課したが、合格ラインに達したとはいえ、同問題であったにも関わらず点数は伸びず、学習の取り組み方に難しさを抱える学生がいることも伺え、支援策の検討を要すると考えられた。 学習の記録については、講義に沿い、教科書内に書き込むことを勧めたが、他の教科においては、ポートフォリオ作成を指導されており、全体としての学習方法としての一貫性について再考する必要があると考えられる。学生の中には時間を割いて自分なりのまとめノートを作成していることも見受けられた。 前期講義最終日に行ったアンケートにおいて、国家試験対策を希望する声も比較的に見受けられたことから、後期の小テストでは、国家試験の過去問などを取り入れ、講義で学習した内容の定着と多面的な理解の必要性について実感できるよう工夫をしたい。 また、一年生で学んだ基礎知識が、以後の臨床系の講義や実習の基盤になることを伝えながら、いかに短期記憶として表面的に知識を丸覚えするのではなく、物語として、その因果関係を、疾患の理解・検査の意義の理解・ケアにつなげていくかを意識しながら学生が学べるよう、今後工夫を重ねたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学生たちの中に、基礎的な医学知識を学ぶ意欲や努力が見受けられた一方、その場をこなすという浅い学生姿勢に慣れてしまっているような様子も見受けられる学生もおり、生涯学習・探究する姿勢が内から育まれるよう、信頼関係を築きながら、その姿勢と得た力を維持を支援できる工夫を今後重ねていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
感染と免疫	1	前期	必修	いいえ	94

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①講義は、まず、教科書を使い説明し、最後にパワーポイントで補足説明をした。学生には重要な箇所を教科書及び配布プリントに書き込むよう指示した。また、講義途中で学生の反応を見ながら質問を受ける時間を作り、理解できていない内容は、繰り返し説明を行った。 ②学生に緊張感と学習準備を促す意味で、昨年从小テストを導入した。小テストは講義進行半ばで実施し、問題には国家試験を意識し”知識と思考”を問う問題を入れた。小テストの成績は開示した。また、振り返りのためにテストの解説を行なった。 ③新しい情報・感染症に関するトピックスは、学生に理解しやすいように事例をもとに紹介した ④自主学習を促すために、講義内容を整理するためのプリントを講義進行に合わせ3回配布した。学生にはプリントの項目に沿って、教科書を中心に関連する専門基礎科目や専門科目と連携させながらまとめるよう指導した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①総合評価の平均値は70.5点(±13.7)であった。61.3%の学生が標準的レベル(70点以上)に達しており、理想的レベル(80点以上)に達した学生は29%だった。再試験受験者は12名で全員合格した。筆記試験の平均得点は58/80点(得点率73%)、小テストの平均得点は10/15点(得点率67%)だった。今年度は理想的レベルに達した学生が昨年度より増加した。 ②知識理解の達成度は、63%が標準的レベルに、23%が理想的レベルに達した。学生の到達度自己評価では、“自分なりの目標を達成した4.2”、“知識を確認、修正、新たに得ることができた4.5”、専門分野の学びを深めたいと意欲をもつことができた4.4”だった。思考判断については、41%が標準的レベルに、24%が理想的レベルに達した。学生の到達度自己評価は、“専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた4.4”、“専門分野において的確に判断する力を得ることができた4.3”だった。 ③授業の質評価は、“テスト・課題レポートの評価基準は明らかだった平均値4.5”、“説明は理解しやすいものであった4.4”、“自分の意見をまとめる・話しあう機会が作られた4.2”、“学生の質問を受け答える機会が作られた4.4”であった。 ④学生の「自分なりのノートを作成した」、「図解を見た」、「わからないところを調べた」「自主学習をした」などの意見から、授業改善に向けての取り組みに成果が見られた。 ⑤図書館の図書・雑誌活用率は66%、データベース利用率27%、インターネット利用率54%であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 この科目は看護専門基礎科目で、専門科目につなぐために必要な基礎知識を培う科目である。看護師国家試験に関わる科目でもあり、1年次で学ぶ内容としては妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみた内容的妥当性 科目内容は、専門基礎科目のため1年生にとっては難しい科目と考える。講義内容には、看護実践に必要な知識理解と現場で求められる思考判断を意識し内容に含めているが、上記に記載した学生の到達度自己評価は概ね良好で内容は妥当であったと考える。 ③まとめ 上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容も妥当であると考え。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	①学習量については、1回に30分以上の予復習を2回以上した学生は67%・77%、6回以上した学生が13・15%、加えて、課題以外の学習に取り組んだ学生が49%と、学生が主体的に学習に取り組んだ様子が窺えた。上記に記載した学生の意見に加え、「小テストの勉強をした」「復習しないといけない」などの意見、加えて、授業の質も担保されていることから今年度の授業改善は成果があったと思われる。 ②一方、予復習をしていない学生が20%・12%おり、「時間がなかったから」、「課題で追われたから」などの意見を出している。まずは、学生の状況を把握することが必要と考えアドバイザーと意見交換を行う。 ③学生の意見で「説明をもう少しわかりやすくしてほしい」との意見が出ている。理解が難しい内容は、理解しやすい言葉に置き換え繰り返し説明を行う。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	専門基礎科目としての本科目の位置づけから、看護に必要な知識及び課題解決に向けた思考判断の到達目標は概ね達成できた。内容は確かに難しいが、学生からは「教科書」を中心に、「図書を調べた」、「ノートにまとめた」、「図解を見た」などの意見が聞かれ、主体的学習を促すことはできたと考える。次年度も今までの授業改善を継続し行う。また、学習不足の学生に対する策として、まず、学生の背景にあるものを把握するためアドバイザーと意見交換を行う。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疾病学各論Ⅰ	2	前期	必修	いいえ	103

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	疾病学各論は、主要な疾病について概念、疫学、症状、検査、治療法、予後などを解説するものです。疾病の知識は、看護科目を学ぶうえで基礎となり、将来に臨床現場で看護業務を行うために必要不可欠です。看護師国家試験でもこの範囲から多くの問題が出題されます。 とにかく範囲が膨大ですので、臨床現場で重要なことや国家試験に出題されることを中心に、ポイントを絞って解説するように工夫しました。また、臨床現場での経験談なども紹介して、学生さんが興味を持って取り組めるように心がけました。 疾病学各論Ⅰは、内科疾患(循環器、呼吸器、代謝、内分泌、消化管、肝胆膵、神経)と外科・麻酔科・婦人科疾患が範囲です。内科疾患は私が担当しましたが、外科・麻酔科・婦人科の講義は医療現場の専門医に講師を依頼しました。 授業評価アンケートの受講動機をみると、「必修科目である」が大多数ですが、「資格取得に必要である」「関心のある内容である」などの回答もかなりあり、看護師になる自覚や国家試験に意識を持ち始めた表れと考えます。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された			
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験とポートフォリオ提出の総合判定で、平均値は80点(最高99点、最低49点)でした。秀:19名、優:34名であり、理想的レベル(80点以上)に到達したひとが全体の52%でした。60点未満は2名で、再試の結果は1名が不合格でした。学生間で点数差のばらつきが顕著でしたが、ほぼ全員が標準レベルに到達したと判断しました。科目別でみても、内科と外科・婦人科で平均点に大きな差はありませんでした。 授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、ほとんどの項目で「ままそうだと思う」以上の達成感を示す回答が大多数でした。皆さんが必死に勉強した表れだと思います。コミュニケーションや表現力の評価が低いのは、主に医学知識を教授する座学の講義であるのでやむおえないと思います。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護を学ぶための基礎」に属します。看護の実践を学ぶうえで基礎となる位置にあります。ここの内容を理解していないと、今後の看護科目の勉強、看護師国家試験、将来の看護師としての業務の全てにおいて支障を来します。 試験結果、学生さんの到達度自己評価などからみて、カリキュラムマップ、DP、CPIにおける位置づけからみて、内容的妥当性に問題はないと考えます。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの授業の質評価をみると、ほとんどの観点において「まあまあと思う」以上の評価を得ています。以前は学生参加に関して評価が非常に低かったのですが、昨年度からポートフォリオ提出を取り入れて、改善傾向にあります。ただ、自由記述で「ポートフォリオの評価基準が不明である」という意見がありました。次年度から気を付けたいと思います。 その他の授業内容や形式については肯定的な意見が多かったです。次年度も基本的に今年度の方針を継続していきたいと思います。ただし、外部講師の先生の授業で配布資料を希望する意見がありました。次年度も外部講師の先生にその点を繰り返し伝えます。 授業評価アンケートの学習量をみると、30分程度の予習復習を2回以上行っている学生さんは約6割でした。また、図書館やネットを利用して勉強したひとの割合も以前より増加しています。ポートフォリオ提出を課したことも理由のひとつですが、学生さんが積極的に授業に取り組んでいることを嬉しく思います。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、臨床現場で看護を実践するために基盤となるもので、看護師国家試験に合格するためにも不可欠です。学生さんによる成績差はありますが、大多数のかたは標準的レベルに到達することができたと判断しました。今後も病院実習などを通して疾病に関する興味を高め、自分で勉強を進めていって欲しいと思います。 4年生の疾病学特論では臨床現場で注意することを改めて解説します。 なお、本科目では外科・麻酔科・婦人科の講義が外部講師のオムニバス形式になるため、講義形式や試験問題に統一性がない面がありました。次年度はさらに改善できるように努力したいと思います。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	大住 伴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
薬理学	2	前期	必修	いいえ	103

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 医薬品は必ずしも全てのヒトに同じ作用が現れるのではなく、投与されるヒトの持つ様々な要因によって作用は異なり、時には主作用が副作用に変化することもある。臨床の看護の現場でも、教科書に記載されている作用以外に様々な作用(特に副作用や薬物相互作用)が現れることを理解して、臨床の現場に出た時に役立てて欲しいと願い講義を行った。 2. 15回という少ない回数で膨大な内容を教えなければならないため、要点等をまとめ、また、重要なポイントは敢えて空白にしたプリントを毎回作成した。 3. 各回の授業の疑問、質問等は出席票の裏に書かせ、次回の授業で必ずその疑問、質問に答えた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	100名の定期試験の成績は、90点以上が13名(昨年度30名)、そのうち100点が3名。80～89点が20名(昨年度39名)で、昨年度より大幅な減少となった。一方、60点未満は14名(昨年度2名)で昨年度より大幅な増加となった。このうち1名は再試験でも不合格であった。これより今年度は昨年度に比べ成績の悪い学生が増加したと言える。授業中に熱心に聴き、学力も充分ある学生がいる一方で、講義態度も悪く、理解力が不十分な学生も見受けられた。薬理学の学力が不足しているだけでなく、薬理学の基礎となる生理学などの科目の学力も不足していると思われる。 学生の理解力確認のため単元毎に小テストを実施したいと考えるが、与えられている講義時間数では、求められている内容を講義する時間さえ足りない状況で、小テストを行うことはできない。しかし、一昨年度から、出席票の裏に質問事項等を書かせ、次の時間の最初にその説明等を行なった。その説明は学生も好評であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1. CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は専門教育科目「看護を学ぶための基礎」であるが、基礎と臨床をつなぐ科目でもあり、国家試験の必修科目でもある。「看護を学ぶための基礎」では、看護の対象である人々を総合的に理解し、看護を実践するための基礎的知識・技術の習得および態度を育成するとともに保健・医療に関わる倫理観を養うことであるが、本科目ではその中の看護を実践するための基礎的知識の修得に該当する。 2. DPからみでの内容的妥当性 この科目で求められているのは、「DP1-2:看護学分野での基礎知識を修得している」であるが、前述のように、定期試験で100名中80点以上が33名であった。再試験で1名不合格ではあったが、内容的には妥当であったと考える。 3. まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	毎回要点をまとめ、重要なポイントはあえて空白にしたプリントを作成、配布した。また、教科書の内容以外に関連するトピックスなども盛り込んで講義を行った。授業評価の学生からのコメントに、「毎回、詳しく質問の回答があり、とても分かりやすかったです」、「先生の講義すごく面白かったです。分かりやすい講義でした！」とあり、喜びを感じた。ただ、1名の学生からは「頑張って授業に追いつこうとしたが、やはり速すぎて大切なところが聞き取れなかったりするときもありました」という意見があった。 また、例年授業時間が足りないことから、学生の疑問や質問に答える時間がなかったが、一昨年度から、出席票の裏に質問や疑問を記載してもらい、全ての質問に対し、次の時間の最初に説明等行なった。これに対する学生の反応が上記のコメントであると考え。学生の理解力のアップにもつながったと思われる。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	この科目に求められているDP「看護学分野での基礎的知識を修得している」は概ね達成できたと考える。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	石井 美紀代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
家族と健康	2	前期	必修	いいえ	103

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	家族と健康の目標は以下のとおりである。 1. 現代社会と家族について基礎的な考え方がわかる。 2. 家族の機能と家族環境について健康との関連から説明できる。 3. 家族看護実践の基盤となる理論について説明できる。 4. 家族看護過程の特徴と意義が理解できる。 学生の受講動機を見ると、98%が「必修科目である」をあげている。その他の動機は極端に少なく、「関心のある内容である」のは2人であった。学生にとって看護師は、患者の診療の援助をする役割であり、家族に対して看護しているイメージがわからないのかもしれない。「この授業はする必要がないと思う」といった意見があったことから、看護の対象と、人々にとって家族の重要性を授業中に伝えていたものの、学生全員が納得できる工夫が必要だと感じた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された			
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な評価は、平均点81.8点であった。成績の内訳は、秀16名、優 51名、良27名、可6名、不可(放棄)3名であった。再試験者1名あったが、最終的には放棄者以外は合格できた。 本科目は、レポートおよび授業内で作成する提出物20%、定期テスト80%で評価している。授業内の提出物に点数の差はほとんどなかったが、レポートの内容に点数の差があった。レポート形式(序論・本論・結論)は整っていても、内容が偏っていたり、自分の意見が書けていなかったり、文献を使わない感想文だったり、オリジナリティーが感じられなかった。 定期テストで、自分でまとめた資料の持ち込みを許可したが、思考を踏まえた問題に記述量と内容の差があり、結果、全体評価の差となった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「看護実践の基盤」に位置し、DP1:知識・理解、DP2:思考判断、を目標にしている。 社会学・心理学・看護学の視点での「家族」の定義や、「家族」の機能を整理した。また、家族看護学で使われる家族理論を提示し、その中で代表的な3つの理論について、事例演習を交えながら実践的に考えていった。このことで、家族看護学に興味をもち、これから各看護学方法論の中で家族を含めた看護を考えていく動機づけの科目と位置づけている。 到達度自己評価は全体的に平均より低いものの、「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた」「コミュニケーション力や表現力を高める事が出来た」が最も高いことから、科目の意義が伝えられたのではないかと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業はシラバスのとおりに進めた。最初は社会学・心理学・看護学における家族の定義を整理した。その後は、①家族看護学の理論を講義→②理論を使った事例検討(グループディスカッション)→③事例の解説とアセスメント例の紹介、の順で実施した。学生は、まだグループディスカッションに慣れておらず、有意義にディスカッションできるグループと、沈黙が続くグループもあり、グループによって事例の課題解決までのプロセスに差があった。授業時間外まで課題を延長させることで、成果が高まることはないため、なるべく授業時間内に完結するようにした。しかし、②理論を使った事例検討(グループディスカッション)と③事例の解説とアセスメント例の紹介を1コマの中で実施したため、授業評価を見ると、ディスカッションから発表までの時間が短いと感じた人がいたようである。 提出を義務付ける課題を出すことはなかったが「定期試験を自分で作った手書き資料を持ち込み可」としたため、6割以上の学生が30分以上の予習・復習をしたことにつながったと考える。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、新カリキュラムから始まった新しい科目である。そのため、先輩からの情報がなく、家族看護学について馴染みもなく、何を学べばよいのか懐疑的な学生もいて、15回の授業展開を悩みながら進めていった。科目の学習達成度は高かったが、達成度の自己評価の多くは平均値より低いものであったことから、学生が達成感をもつ工夫をしていきたい。 学生によっては、「家族」にネガティブイメージをもつ人や、トラウマをもつ人もいられるかもしれず、授業での取り上げ方によっては精神症状を訴える学生が出るリスクを考えながら、手探りで進めた。毎回、授業のコメントを書いてもらいながら学生個々の反応を注視していった。気になる学生はアドバイザーに情報をもらい、また、学生相談室のカウンセラーに助言をいただきながら進めていった。科目の特性から、学生の精神面も注意しながら進めていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
発達心理学	2	前期	必修	はい	104

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	少年犯罪や非行、いじめや自閉症スペクトラム、LGBT(性的少数者)など教育に関する様々な発達課題がテレビや新聞で論議されている。発達心理学の分野に期待が高まっているといえる。本講義では基本となる心理学一般の基礎知識や教養的知見の修得を目指しながら、わたしの専門である生涯発達心理学の視点から授業を組み立てている。それは今を生きる学生に最も必要な「生き方の模索」と「将来のキャリアに関連する専門性」にかかわる問題だからである。昨年度の大きな課題は興味を持たせる内容の精選という点であった。このため講義途中で「映像」を多く取り入れた。自由記述などを読むと概ね成功したと理解できる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体を通して達成されたという根拠は「定期試験の結果」である。優れた及び良しの合格点を取った学生はほぼ100パーセントに達した。定期試験は記述式がその中心であるが、記載の内容も的を得たものでありしっかり書かれており理解の進んだものであった。また学生の授業評価アンケートの記述にも「ここにスーッと入ってきた」「分かりやすかった」などが多数あり知識理解と意欲関心について一定の水準を保ったことが伺える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本講義では毎回の授業について、ミニ感想や質問を自主的に書いて提出するように求めている。このスタイルは数十年津回っているがその効果は大きく好評である。自由記述を見ると、これに関する「質問に対する先生のリラックスした内容の回答が一番面白かった」「発達心理学だけでなく先生の社会に出てからの話が面白かった」等の記述もあり、本科目の目標である「自分のキャリア上でのスキルを高め、現代社会を生き抜く健康な心構えを形成する」「人間の発達に関する専門知識の習得」というねらいが達成されたと評価できる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	これは昨年度の問題点であったが、自学自習を促すための「次回の授業までに日々の生活の中で心にとどめておいてもらいたいこと」を伝えた方が良いのではないかと授業アンケートの結果からまだまだ改善されていなかった。昨年同様に学習量を高める工夫の一つとして予習の課題設定を今後さらに試行継続してみたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	講義シラバスで年度当初の学生に期待した行動目標は概ね達成出来たと思う。しかしまだ授業中に集中力が途絶える学生が幾人か存在する。講義への注目やそうした学生への注意の仕方に工夫をくわえたい。数十年のこの道に取り組んでいるが、すべての学習者がある程度の集中した状況に招き入れるのは容易ではない。今年度取り組んだ映像や教師の発問、討議話題の挿入などまだ工夫の余地を継続して続けたい。努力は実ると学生にも伝わっているので私もうがんばりたいと思う。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
健康教育論	2	前期	必修	いいえ	103

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	健康教育及び患者教育における行動変容理論をテーマとした科目である。授業では、理論と実際を学ぶために、基本的な知識を活用し、事例にどのように行動変容理論を適応させていくのかを学生が思考することによって、理解を深めることに重点を置いた。受講動機は「必修科目である」100.0%に次いで、「資格取得に必要」11.4%、「関心のある科目」4.5%、「単位を獲得する」2.3%であった。必修科目であり、資格取得に必要であると自覚しているため、生涯を通じた健康づくり、疾病予防、疾病管理における健康教育の必要性を認識できるよう計画した。授業時間のなかで、講義による説明の後、事例を用いて対象に応じた健康教育を話し合えるよう計画した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された			
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	DP1ー2到達レベル平均87.9、DP2ー1到達レベル平均59.3であった。基本的知識の理解は十分に達成されたが、思考判断ではやや到達できたレベルに留まった。総得点では、90点以上13名(12.7%)、80～89点33名(32.4%)、70～79点28名(27.4%)、60～69点14名(13.7%)59点以下3名(2.9%)であり、80～89点が最も多かった。 学生の目標達成度自己評価では、「自分なりの目標を達成した」、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」ではともに平均4.1(中央値4.0)であった。他項目でも平均3.9～4.0の範囲であった。 「図書館、インターネットの利用」では、58.5%が利用していた。学習量で最も多かったのは、30分程度の予習復習を2.3回行った者が最も多かった。しかし、0回の学生も26.8%いた。 今年度からの新設科目であり、前年度との比較はしていない。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	上記に述べた「受講動機」及び「学習到達度の自己評価」の結果から、DP,CP,カリキュラムマップにおける本科目位置づけからみて内容の妥当性は確保されていると考えられる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	看護師課程と保健師課程の担当教員が担当して進化した。現場での健康教育や患者教育を理解できるよう、患者教育パンフレットの作成や、地域での健康教育の実際について外部講師を招き授業を行った。 学生の意見では、「グループ活動はやる人とやらない人との差が出るからやめてほしい。」という記述があった。次年度以降は、グループ活動の進め方や、個人活動とグループ活動の選定の検討が必要である。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	最終得点の平均点は81点であり、また学生も全員が到達度自己評価には、肯定的③～⑤に回答していたことから、学習目標達成度については、学生の自己評価と教員の客観評価はほぼ一致していたといえる。 課題学習に取り組む期間が短かったという自由記載があり、他科目の課題と両立できるよう、課題提示時期の検討が必要である。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	金山 正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護学概論	1	前期	必修	いいえ	94

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生が入学直後に取り組む必修の看護専門科目であり、看護学への導入として位置づけられる科目である。講義の実施に当たり重点を置いたことは、主体的な学習である。初回の講義でシラバスを説明し、学習の進め方や課題学習の確認を行っている。授業計画では、講義の前半部分は、看護の歴史と定義を概説し、個人の課題学習への導入を行った。第二段階では「看護の4つの概念」について、「人間」「健康」「環境」「看護」について、ナイチンゲール、ヘンダーソンの看護に対する考え方について、個人ワークとグループワークを取り入れ、学習成果発表会を行った。グループ学習時は、毎回、自己評価表を記入し、自己の学習成果を確認しながら学習をすすめた。また、講義の後半部分は、第三段階として、看護者の倫理、保健師助産師看護師法、保健医療福祉システムと看護、看護教育、看護ケアのマネジメント、災害看護、国際看護などの基礎的な知識について概説した。最終回の講義では、「今後の看護の方向性と課題」をテーマとしてレポート作成と発表を取り入れた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①評価基準は試験60%、レポート30%、発表10%で、総合評価を行った。最終的な成績の平均値は77.6±8.0点であり、成績分布は、Sは6.5%、Aは34.4%、Bは44%、Cは15%であった。 ②全講義終了後の授業評価での学修到達度は「自分なりの目標達成」は、「かなりそうだと思う」(22%)、「わりにそうだと思う」(57%)、「まあまあそうだと思う」(21%)であり、99%の学生は肯定的な評価であった。 ③学習量については、1回30分程度以上の「準備」についてが0回の人が27%、「復習」についてが0回の人が27%であり、授業を履修する際にシラバスを参考にした人は78%であった。 ④学習のための情報利用では、図書館、文献の利用が78%であり、インターネットのホームページの利用が61%であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ても妥当性 看護学概論は、「看護実践の基盤」となる科目に位置付けられている。看護学への導入となる基礎的科目であり、授業の内容は、看護概念や看護の役割、看護の制度などの基礎的知識である。学生も一定の成績を修めていることから、内容的に妥当であると考え。 ②DP、行動目標から見ての内容的妥当性 DP1-1、1-2の知識・理解では、看護の基礎的知識の理解を到達目標に設定している。学生の授業評価より、学習到達度の自己評価で、「知識を確認、修正、新たに得る」「事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得る」「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得る」「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得る」「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲をもつことができた」「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」「職業選択の参考になった」などの項目は、平均4.0以上であった。また、学生も一定の成績を修めていることから、内容的に妥当であると考え。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性に問題は無いと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	①グループ学習と学習成果発表会を行ったことについては、グループ学習の自己評価で肯定的な評価を得たので、今後もグループ学習の導入を検討する。 ②授業評価において、「説明が理解しやすいものであった」という項目は90%が肯定的評価であるが、そうでない学生もいるので、講義での説明の内容と方法について今後、検討していく。 ③授業の進め方について、初回にシラバスの配布・説明をし、毎回の授業で次回の講義予定を伝えましたが、復習や予習については課題を検討し提示していく。 ④図書館の文献利用については78%であったため、課題レポート作成前に学生が利用するようにすすめていく。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	看護学の導入となる本科目において、看護の基礎的知識を学習し、看護学を学ぶ意欲を持つことができたという評価が得られ、学習到達目標は概ね達成できたと考える。 グループ学習は、看護概念を相互に学びあい、理解を助けるのに効果的であったと考えられる。しかし、入学直後の1年次前期は、学生がレポートの書き方やグループ学習に不慣れであるため、次年度も継続して課題の時期、内容、量について検討する。また、知識の説明が必要な事項については、主体的学習がすすめられるように、説明の方法と内容を工夫する。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	金山 正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護技術論	1	前期	必修	いいえ	93

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	必修科目であり、全員が受講する科目である。4月より看護学を学び始めた学生であり、知識・技術はなく、学生間の関係も形成されていない段階である。本科目の授業計画では、主に「コミュニケーション」「環境調整の技術」「看護記録」などの基礎的知識・技術・態度を修得すること、また「早期看護実習」で看護の実際を見学し学びを深めることに重点を置いた。授業をすすめるにあたって配慮したことは、①看護用語の理解を目指した小テストを3回実施したこと、②実習衣・身だしなみのチェック、実習室使用法などのオリエンテーションを行い、学生の看護技術の修得に向けた準備を整えたこと、③グループ別にコミュニケーションやベッドメイキングの技術演習を行い、学生の関係形成に配慮しながら、5人の教員が指導を行ったこと、④早期看護実習では、事前のオリエンテーションや課題学習により、学生の準備性を高め、2日間の病院実習を円滑に行うことができるように支援したこと、⑤実習後に実習成果発表会、実習レポートの提出をととして、学生の看護への動機づけまとめることなどである。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	評価は学生へのシラバスに示した基準のとおり、試験、小テスト、レポートなどにより行った。最終的な成績は、平均点が77点(±7.3点)であり、Sが3%、Aが49.5%、Bが35.5%、Cが11.8%であった。再試者は2名であった。学生の授業評価では、「到達度自己評価」に関する10項目は、平均が4.2～4.6と高く、特に「学びを深めたいと意欲をもつことができた」の項目は4.6と高かった。「学習量の評価」では、1日30分程度以上の学習を1回以上した人の割合が、「準備」は93%、「復習」は87%であった。「情報の利用」では、シラバスの記載を92%が参考に行っているが、授業計画をたてた人は57%であった。学習のための利用手段では、「図書館」は43%、「インターネット」は59%、「学術データベース」は22%の人が利用していた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は専門教育科目の「看護実践の基盤」に位置付けられている基礎看護学の科目である。初めに看護技術を学ぶ内容として、基本的な内容の講義、演習、実習であり、内容として妥当である。 ②DP、行動目標からみた内容的妥当性 【DP1-1),1-2),4-3)】の関係は、次のように設定している。1)看護において看護技術を提供する意味や安全・安楽・自立の視点をもつ必要性について自分の言葉で説明できる。【DP1-1),1-2)】 2)看護におけるコミュニケーションの意義と方法について自分の言葉で説明できる。【DP1-2)】 3)報告・記録の目的や重要性について説明できる。【DP1-2)】 4)療養環境を整えるために必要な基礎知識を得ることができる。【DP1-2)】 5)看護技術を実践する上でボディメカニクスを意識した行動ができる。【DP1-2)】 6)実習室を使って療養環境を整えることができる。【DP1-2)】 7)早期看護実習を通して看護の果たす役割について自分の考えを述べるができる。【DP1-1),1-2),4-3)】 学生は以上の目標を達成することができ、学生による授業評価からは、学生が「看護への学びの意欲」を持ったことが示されており、看護学の学習への動機づけとなったと考えられ、本科目の内容は妥当であるとする。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の内容と進め方では、初回のシラバスとkaname-netによる講義のお知らせ、資料提供などにより進めた。主な内容は、講義と演習、早期看護実習であり、学生が実際に技術演習を行い、話し合い、発表するという行動の機会が多かった。「授業の質の評価」5項目では、平均が4.0～4.7と高かった。特に、「授業中に自分の意見をまとめ、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の項目は4.7と高かった。学生が実際にコミュニケーションやベッドメイキングなどの技術演習を行い、話し合い、発表する機会が多かったことが、評価に影響していると考え。また、病院実習では、事前にオリエンテーションを十分に行い、実習を円滑に行うことができ、成果があったと考えられる。学生は、演習レポートや実習成果発表、実習レポート作成などを行っているが、「図書館」は43%、「インターネット」は59%、「学術データベース」は22%の利用という現状から、図書や文献活用が十分ではないと考える。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	看護学を学ぶ初期の科目の位置づけから、学生は基本的な知識・技術・態度を学び、今後の看護の学習への動機づけができ、目標は概ね達成できた。今後の課題として、図書館の利用や図書の活用などの学習方法についても助言することが必要である。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	隅田 由加里

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
診療関連技術論演習	2	前期	必修	いいえ	104

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は「必修科目」であり学生に選択の余地はないが、「資格取得に必要」(15.2%)、「関心のある内容」(7.8%)、「単位数を確保する」(7.6%)も認めており、学生の技術習得への関心がうかがえる、また授業に必要なスケジュールや授業資料は、数日前にKaname.netにアップし予習ができるようし、学生の授業準備性は概ね整えることができたと思われる。授業の実施に対して重点をおいたことは、アクティブ・ラーニングと、可能な限り臨床に即した内容にすることである。臨床における医療は進化し続けており、技術提供に関する器材や方法も変化している。学生が演習で学んだことを実習等で活用できるように、極力臨床と同じ道具を使用するように心掛けた。またアクティブ・ラーニングに関しては、「教えて考えさせる」に重点を置き、最初の60分程度で基礎的知識の講義を行い、その後技術演習に臨むようにし、技術の遂行のみに学生が集中しないよう、根拠を思考できるように演習記録等を作成し授業を構成した。また昨年同様、できたことは褒め、出来なかったことは、なぜできなかったのかを共に考えるようにし、学生のモチベーションを高めるように努力した。さらに、自己評価のチェックリストを作成し、自分の学びを振り返る機会を設けるとともに、自主課題は提示し、復習が行える学習環境を準備を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の達成度評価は、試験60%、実技試験25%、ポートフォリオ提出物等15%で総合評価している。最終成績の平均値は76.34±6.5点(最高92点、最低55点)で、昨年度よりも平均点は5点以上上昇した。成績の内訳は、秀5名(4.8%)、33名(31.7%)、良43名(41.3%)、可19名(18.3%)及び不可2名(1.9%)であった。不可2名のうち、1名は再試験も不合格ではあったが、その他103名は合格であり、秀・優を取得した学生数が昨年度よりも増加した。この最大要因としては、実技試験項目を臨床で頻回に行われる「酸素吸入」「電法」「包帯法」の3の診療関連技術とし、試験形式は単なる技術テストではなく、知識は口頭試問で、技術は実技試験で、2分野で評価したことが、学生の基本的知識と技術の修得に繋がりが、成績にも表れたと考えられる。学生による授業評価では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.4)、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」(4.3)、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(4.3)、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(4.3)、「職業選択の参考になった」(4.3)の順に、全項目において4.0以上の達成度自己評価であった。また授業の予習・復習に関しても約85%の学生は1回以上実施し、半数以上の学生は図書館等を利用している。以上より、本科目で「学生が達成すべき行動目標」は、全体をとおして「達成された」と判断した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「診療の補助」の基本的知識と技術の基本となり、看護実践の基本に位置づけられるが、診療の補助ということで、生活援助技術論よりも高い技術が必要である。よって基礎看護学実習Ⅱの前の2年前期に位置付けられていることは妥当である。しかし、授業単位は1単位のため、時間的にも限りがあり、その中で高度な診療関連技術を習得するのは難しかったといえる。知識の定着面においては、国家試験問題の出題基準に則って構成したため、内容の妥当性は保証できたと考えるが、「診察・検査・処置における介助技術」に関しては、疾病の知識が必要となるため、「成人看護学」または「看護のための臨床検査」等との協力・連携が必要と考える。科目履修後の学生評価は、学生の到達度自己評価においてもすべて4.0以上を示しており内容的妥当性は概ねありと判断する。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質については、「説明は理解しやすいものであった」(4.3)を筆頭に、全ての質評価で4.2以上の評価を得ている。このため、医学的要素の強い科目ではあったが、学生の理解を深めることはできたのではないかと考える。「学生より話が長すぎるという意見」が1件あったが、授業は昼食がとれないほど延長した事実はなく、概ねスケジュール通りに進んだと認識している。しかし規定された時間内で、学生にとってより学びのある授業となるように努力は継続していく。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の達成度自己評価は、全ての項目において4.0以上、また質評価においても4.2以上の評価であった。約85%の学生は1回以上は予習・復習を行っており、授業の構成方法としては、継続的学習が行えるような体制であったと考える。また成績も平均が76.34±6.5点で秀が5名、優が33名と、相対的に高い成績を収めることもできており、ポートフォリオの内容を確認しても、各演習記録に則って丁寧に振り返りを行っている学生が多くみられた。よって授業の質はある一定のレベルで担保できたと考える。今後もこれらを維持できるよう、アクティブ・ラーニング等の学習を深め取り入れていきたいと考える。
------------------------------	--

学科	看護学科
氏名	小田 日出子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護過程論	2	前期	必修	いいえ	104

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること。重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	当該科目は「必修科目」(98.9%)であり、「資格取得に必要な」(10.6%)な科目である。「単位数を確保する」(7.4%)のためには履修せざるを得ず、学生にとっては「関心のある内容」(6.4%)とは言い難い。但し、今年度の学生はこれまでになかった「GPAをあげる」(2.1%)、「友達が履修する」(2.1%)、「先輩に勧められた」(1.1%)、「教員に勧められた」(1.1%)を受講動に挙げた者も複数名おり、当該科目に対する学生の見方の変化とも捉えられ興味深い。 授業は、①看護学科SNS(kaname.net)を利用した事前の情報提供(講義資料、課題等の提示)を基本に、②学修到達目標とグループワークの進捗状況に照らした講義・グループワークの展開、③グループ学習活動の振り返りと学生の理解度確認、質問を受けけるための「授業に関するフィードバック」、及び復習による知識の定着を意図した④「おさらいテスト」の開設など、学生の主体的学習を促す工夫を行った。③の質問への応答は、翌週の授業開始時に行うようにし、クラス全体での学修内容の共有化を図った。学生個々の学習動機・意欲の高揚、また、よい意味での緊張感を維持するために、授業後半に⑤グループ学習成果発表の機会を設け、グループ間のディスカッションを促しながら学習の深化を図った。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された		やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	筆記試験の平均点は55.7±12.91(69.5±9.77)で、昨年度を14ポイント近く下回っていた。結果、筆記試験で標準レベル以上の者は15/102(73/115)名、14.7(63.5)%、うち理想レベルに達した者はわずかに1/102(22/115)名、1.0(19.1)%、努力を要する「可」レベルの者 26/102(38/115)名、25.5(33.0)%、筆記「不可」の者は本試験欠席者を含め61/102(3/115)名、59.8(2.6)%であった(カッコ内は昨年度)。例年レベルの筆記試験問題で【知識・理解】を問うたにもかかわらず、標準レベル以上の学生数が昨年度を著しく下回っていたこと、さらに「不可」で筆記再試験の対象となった学生も全体の約6割いたことから、筆記試験に限れば、【知識・理解】での教育目標は「やや達成されなかった」と考えている。但し、当該科目の最終評価は、筆記試験(50%)、個人学習(20%)、学習成果発表(10%)、記録及び学習貢献度(20%)による総合評価としているため、最終評価はクラス平均 66.7±10.50(72.4±7.65)点(最高89(90)点、最低41(51)点)で、102名中の合格者が80/102(97/102)名、再試験該当者 23/102(5/102)名となった。再試験該当者23名については、後日、筆記による再試験を実施し、その結果、23名中21名が合格、2名が不合格となった。 最終成績の内訳は、秀 0名、優 14名、良 29名、可 57名で、学生102名(再履修者2名を含む)中100名が2019年度当該科目の履修を修了、残り2名は再履修となった。以上の結果より、知識理解(DP1)の到達度を「どちらともいえない」、思考判断(DP2)の到達度を「やや達成された」、意欲関心(DP3)及び態度(DP4)については、グループワーク等の学習貢献度を参考に「やや達成された」、また学習成果発表時の技術力、表現力、説明力等を基に、技能表現(DP5)を「やや達成された」とした。 学生による授業評価アンケートでは、到達度自己評価の「自分なりに目標を達成した」について、「かなりそうだと思う」23.2(18.4)%、「わりにそうだと思う」59.6(52.6)%が全体の82.8(71.0)%を占めており、「まあまあそうだと思う」17.2(28.9)%を合わせると、学生は「ほぼ達成できた」と自己評価しており、前述の成績評価〔秀:0名、優:14名(13.7%)、良:29名(28.4%)〕と勘案し、全体を通して教育目標は「やや達成された」と判断した。 昨年度の反省を踏まえて、今年度は、同じグループを複数教員で担当することの弊害をなくすため①講師以上3名で分担して指導。②学生の負担感軽減を目的に1グループの学生数を4名から6～7名に、③教員1人が5グループを担当することとし、改善を図った。また、全体講義は大教室で行ったが、④グループワークに使用する教室は別とした。⑤教員間で毎回の進捗状況の確認、事前打ち合わせを密にし、互いの情報交換・情報共有を図った…等々、極力、一貫した方針もとの学修支援に努めた。しかし、学生の意見として「担当教員によって本授業に対する負担(負荷?)が異なる」「教員によって指導される内容が異なる」など、いくつか課題が示された。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容妥当性 授業では、看護師の思考の軸となる「問題解決的思考」や「クリティカルシンキング」について学び、看護実践の方法論である「看護過程」展開の基本を習得する。さらに、後期以降の「看護実践の応用・展開」の基盤となる科目として、基礎と応用を繋ぐ「要」の役割を担っている。通常、1年次後期(2月末)に「基礎看護学実習Ⅰ」を経験した学生達は、臨地での看護体験をもとに、自らの強みや傾向、また課題を発見することを通して、2年次の看護専門科目への興味関心を高め、自身の学習動機に繋がることが多い。しかし、今年度を振り返って思うことは、授業評価アンケートの自由記述にも反映しているが、クラス全体の印象は、当該科目を学ぶことへの関心意欲はさほど高くはなく、グループ学習への参加も個人差が大きかった。そのため、授業の根幹をなすグループ学習活動を主体的・積極的な学びの場とすることは難しかった。特に、学生のコミュニケーション力不足、自己中心的思考・態度・行動、グループワークへの苦手意識、主観的・感情的な見方・捉え方(好き／嫌い)、他者と協同することへの意識の低さ、責任感の不足、創造力の乏しさ等が、学修面に影響していたと感じている。 学生の目標達成状況については、全体を通して「やや達成された」、知識理解(DP1)「どちらともいえない」、思考判断(DP2)「やや達成された」、態度(DP4)、技能表現(DP5)ともに「やや達成された」とした。 授業内容は、CP, カリキュラムマップ上の位置づけに対応したものであったと考えるが、2年次生のレディネスに沿った事前学習課題の提示、復習のための「おさらいテスト」の準備・公開、フィードバックによる意見の吸い上げ、また、GW成果発表の企画など、学生が主体的・積極的に学ぶための工夫は様々に行ってはみたものの、昨年以上に個々の学生の意欲関心には差があり、授業毎のkaname.netへのアクセス数、閲覧者ともに限定的であった。 ②DP, 行動目標から見ての内容妥当性 シラバスに記載した【知識理解】【思考判断】【関心意欲】【態度】【技能表現】それぞれの行動目標について、授業評価アンケートより、学生は「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.2/4.0)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(4.1/4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」(4.2/4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」(4.2/4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(4.1/4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(4.2/4.0)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(4.3/4.0)と、いずれも中央値を上回る評価であった。全体として、当該科目で「学生が達成すべき行動目標」について、学生は「自分なりの目標を達成した」(4.1/4.0)と自己評価しており、DP, 行動目標から見ての内容妥当性は確保できたと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。	授業はグループワークとその進捗に合わせた講義の組み合わせで行った。例年、事前学習課題への取り組みに図書館を利用する学生は多い(75.8%)が、学術データベース利用者(51.5%)ともに、昨年度を2割程度下回っていた。ただ、インターネットのHP利用者は変わらず多く(70.7%)。信頼性や内容妥当性を保証する情報の取得という点ではやはり課題が残った。 授業の質評価においては、5項目中「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」(4.3/4.0)、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」(4.2/4.0)、及び「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」(4.1/4.0)の評価が中央値よりも高かった。最も評価が低かったのは「説明は理解しやすいものであった」(3.9/4.0)だが、いずれの平均値も昨年度より高く、学生の主体的学習を促す教員側の働きかけに一定の評価は得られたと考えるが、【知識・理解】での目標達成に繋がったかについては課題が残った。 学生の【意欲・関心】という点で、昨年度と同じく個人での看護学科SNS(kaname.net)利用者は限られており、個人差が大きいつと感じた。ただ、今回、個人でなくグループ単位での「学修の振り返り」を求めたところ、それについては全グループが閲覧・反応しており、グループ毎の意見集約や傾向把握には役立った。 2年生全体の【意欲関心】【態度】に関して、学生の自由記載欄には、教員個々の指導内容や指導方法への不満(教員によって授業に対する負担が異なる、言うことが違う、助言やコメントが少なくこのまま進めていいの不安になる、説明が長い)の他、正規の時間外でGWに取り組まなければならないことへの不満(GWばかりさせるので帰りが遅い、空きコマを使用しないといけないためテスト勉強ができず困る、勉強する時間がない)、GWに協力しないメンバーへの不満等が記載されており、2年前期に本格的なGWや課題学習に取り組む中で、グループ内の人間関係に悩み、メンバー役割に取り組む姿勢や責任を問われ、グループ活動として協同して課題に取り組むことの必要性や時間管理の難しさに戸惑いながら授業に臨んでいた学生の状況が理解でき、その【意欲関心】【態度】をどう前向きなものに変えられるか、次年度の課題として考えていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業評価アンケートより、科目履修後の学生は、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(4.3/4.0)、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.2/4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」(4.2/4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」(4.2/4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(4.2/4.0)、「職業倫理や行動規範(守るべきルールなど)について学ぶことができた」(4.2/4.0)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(4.1/4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(4.1/4.0)、「職業選択の参考になった」(4.1/4.0)として「自分なりの目標を達成した」(4.1/4.0)と自己評価していたことから、当該科目で「学生が達成すべき行動目標」としての知識理解は、筆記に課題を残したことから「どちらともいえない」と、思考判断、意欲関心、態度については「やや達成された」とした。技能表現についても、学習成果発表が「概ね達成された」状況であったことと学生の自己評価を勘案し「やや達成された」とした。 授業の質評価においては、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」(4.3)、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」(4.2)、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」(4.1)、「テスト、レポート、提出物など」の評価基準は明らかであった」(4.0)の4項目が4ポイント以上であった。残り1項目は「説明は理解しやすいものであった」(3.9)で、全体的に昨年度より評価は高かった。以上より全体を通しての評価は「やや達成された」とした。自由記載欄の教員への意見・要望については、次年度に活かしたいと考えている。 看護師の思考の基盤となる「看護過程論」に対し、到達度自己評価を「自分なりに目標を達成した」とした学生は、アンケートに回答した99名中99名(100%)であった。その内訳は「かなりそうだと思う」(23.2%)、「わりにそうだと思う」(59.6%)が全体の82.8%、「まあまあそうだと思う」(17.2%)も含めると、回答した99名の学生が当該科目で達成すべき学習目標を「概ね達成できた」と言える。 次年度については、ここまでの振り返りと学生からの意見・要望をもとに、授業全体を見直し質の改善に努めたい。併せて、基礎看護学分野を担当する教員全体の教育力・指導力の向上に努めたい。

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	小野 正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
小児看護学概論	2	前期	必修	いいえ	103

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、看護の必須科目であり受講動機も100%必須科目と解答をしている。また、この科目への関心は12.2%と例年に比べ少し高くなっているが、まずは関心を持てるよう引き続き工夫が必要と思われる。学生の準備性としては、小さい子どもに接する機会があまりなく、イメージが付きにくいため子どもの成長発達なども、具体的な数字や例を挙げ、また出来るだけ視聴覚教材を使って説明した内容と実際が関連づけられるような工夫を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない				
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績は、平均値は78.6点であり昨年より約6点低くなっている。また再試験対象者は昨年は0であったが、今年度は6名と今までになく多くの学生が再試験となった。最終成績の内訳を見ると60点台(可)が8名から14名へ、80点以上は90名から54名(秀:32→19名、優:58→35名)という結果で全体的に成績の下降が見られている。概論は、知識理解に関する修得割合が高く、覚える部分が多くある。これは短期記憶に由来するものも多くあると思われるので、小児を理解する基礎として、繰り返し実際の映像や子どもの状況と結びつけながら確認していくということが必要であると考え。また、受講動機では、関心のあるものが11名であったが、到達度自己評価では、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」が4.1と受講後関心を持つことができていた。また自分の目標については全員が程度の差こそあれ概ね達成できたと評価している。ただ成績と達成感との間に多少ギャップが見られているため、授業の工夫・改善をやっていきたい。試験結果のみから見れば、標準レベルに到達できていない学生が1割超えてしまったというのは、今後授業内容の精選と方法、進め方の工夫が必要となると考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の中の「看護実践の応用・展開」にあたる教科である。「看護を学ぶための基礎」や「看護実践の基本」を踏まえ、対象となる小児に対する看護の基本的な考え方を学ぶための教科となっており、必修科目である。授業に関心を持っていた学生は11名と少なかったが、昨年に比べて低くなったとはいえない一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解は78.6%と目標はおおむね達成されており、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、全体的に3.8から4.0と評価されていた。秀・優の学生数は半数を超えているが、それ以外の学生が更に理解を深めることのできるようわかりやすい授業の工夫や知識の定着に向けての工夫が必要と思われる。また、学生の意見で質問に答える時間が長いとあったが、復習の意味も含めて理解できるよう何人もの学生からの質問については、説明を丁寧に行っている。ただ、時間については配慮が必要であり、今後質問への答え方の工夫が必要である。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	「専門教育科目」のなか「看護実践の応用・展開」で、子どもを対象とした看護の入り口にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成についてはやや達成できた。これらの知識・考え方を概論に続く小児看護方法論へとつないでいくことで、知識理解、思考判断を強化していきたい。また、今回成績結果が例年より悪かった点については、その年々の学生の特徴を早期に捉え、授業の方法を工夫していくことが必要となるため、毎回の知識確認テスト等を含めた改善方法を検討していきたい。 8回の授業では限界があるが、引き続き他の学生との話し合いの時間を適宜盛り込むことで、自分の意見を述べる機会を増やし、他人の意見を聞き討議できる機会を増やしていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	田中 満由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
母性看護学概論	2	前期	必修	いいえ	106

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	限られた時間で教科書1冊の分量であるため、配布資料の工夫をしたり、視聴覚教材の工夫をするなどして、重要なところは特に重要であることを示すようにした。また、学生が興味を持てるように調べる課題を提出した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	平均80.6点であり、55%の学生が80点以上の成績を修めた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP, カリキュラムに記載されている位置づけに沿って講義を行った。国家試験出題基準等も意識し、講義を行った。内容的には妥当である。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業をゆとりをもって実施したいのであるが、教授する分量が多いので、内容的に削れる部分は削るという作業をする必要がある。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	授業中、重要な箇所は重要であると示したり、確認したり、授業初めに前回の授業のポイントを示したりすることで学生の成績は向上しているが、課題としては詰込みの感があるため、不要な部分は削るという作業を行いたい。
------------------------------	---

学科	看護学科
氏名	大嶋 満須美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
成人看護学概論	2	前期	必修	いいえ	103

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	専門科目である成人看護学概論は2年次前期の必須科目であり、本年度より成人・老年看護学概論が成人単独の枠組みとして位置づけられた。ガイダンスでは科目の位置づけを詳しく説明し授業を進めた。看護の対象理解において成人期の発達課題の特徴、成人期の人々に関連する保健・医療・福祉における動向や疾病の特徴、成人期における看護の特徴について解説し、そこにおける課題と活用できる看護理論について教授した。毎回、授業の「ねらい」を伝え、既習の学修が想起できるように発問を繰り返し、また毎回「学びと気づき」を学生の声として確認し、次回、学生にフィードバックしながら授業を進めた。授業ではグループワークや発表の時間を設け、共同学習のスタイルを一部取り入れた。また、理解を深めるために身近な事例を提供し、関連づけながら解説した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	やや達成された			
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均点は65.8点、最高点は91点であった。理想的レベル(80点以上)は14人(13.6%)いた。、再試験対象者は21名で、再試験申請者19名は標準レベルに到達できた。対象理解の基本となる成人看護学概論は、その範囲も広く、内容也多岐にわたる。焦点化できないまま言葉の暗記に頼りがちな学生に「覚えること」から「考えること」へシフトできるようグループワークを取り入れ、評価内容を変更した結果、「知識・理解、思考・判断」68.3%、「関心・意欲」60%と低い達成度であった。またアンケートによる到達度自己評価では「自分なりの目標達成」では98.7%と達成度は高い。グループワークや調べ学習を取り入れることで、図書の利用、情報検索は50.5%と昨年の23.5%をはるかに上回った。一方、授業の予習・復習を全くしない学生が26.2%いることから学生の学習の準備状況を把握しながら、理解が深まるような教授方法や教材の工夫が必要である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は専門教育科目であり、必須科目である。看護の対象である成人期の具体的方法を学ぶための導入科目である。受講動機として「資格取得に必要である」が6人、「関心のある内容である」が3名と少なく、必修科目であること以外の特別な学習動機は把握できない。最終成績評価では標準レベルに到達できたが理想とするレベルが14人(13.6%)あり昨年を大幅に下回る結果であった。これは評価方法の変更も一つの要因と考え、カリキュラムの位置づけとして内容は妥当と考える。 ②DP、行動目標から見ての内容の妥当性 本科目の行動目標として①成人期にある人々の特徴、②環境が健康に及ぼす影響、③健康に関わる保健。医療、福祉システムの概要、④成人期の健康障害の特徴、⑤成人期の健康レベルに対応した看護方法の特徴、⑥成人期に活用できる理論・モデル、等をあげ、これらを述べる事が出来るとしている。これを基に達成度を見たところ「知識理解」「思考判断」は68%であった。再試験対象者は21名あり、申請者は全員合格できたものの実践応用に向け、臨床判断が出来る思考の深まりは今後の課題とする。2年後期科目である成人看護方法論に関連づけ「思考、理解」を深めたい。科目の位置づけから課題は残すものの目標は概ね達成されており妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	成長・発達として成人期がライフサイクルの連続体として考えられるよう、意図的に課題を課しながら進めた。また、成人看護学概論においては毎回気づきや学びをミニレポートで確認しながら進め、学生にフィードバックを行った。また、自主性や主体性の観点から演習を組み入れ授業を展開した。成績評価の達成度は昨年度より低かったものの、図書の利用等は増加している。今後、興味・関心を抱き、意欲の向上に向けた取り組みが必要である。授業の質評価では各項目の平均値が昨年度とほぼ同等である。さらに上方移動する努力が必要である。また、学習量の評価では予習・復習とも(0)と答えた学生が26%程度いる。課題を課す以外にも学習を促すための働きかけが必要と考える。学生には後期の成人急性期看護方法論、成人慢性期看護方法論につながる科目だということを強調し、方向性を示しながら具体的な内容について調整を行い、今後も授業展開を行いたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は専門教育科目の成人看護学の導入科目である。最終的な成績や目標別の到達度とも一定の標準レベルをえた。そして99%の学生が到達度自己評価において肯定的な評価をしている。しかし、「知識」「思考判断」が68.3%程度であり、後期に開講される各論で強化していく必要がある。また概論は抽象的な概念を解説するため、次年度は授業の準備性を高め、学生の理解を確認し、状況に応じた講義が出来るよう内容と進度の検討を行っていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	溝部 昌子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
老年看護学概論	2	前期	必修	いいえ	104

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	今年度より、成人老年看護学概論から老年看護学概論が独立したこと、老年看護学方法論、老年看護学演習と続く。老年看護の特徴について、高齢者を取り巻く状況、知識を第1回、第2回に集中して講義したうえで、高齢者のからだ、こころ、かかわり、暮らし、生きがいについて、広く知り、様々な特徴ある高齢者を想起できるようにした。講義資料は予め、kaname上で閲覧、ダウンロードできるようにし、予習復習に活用できるようにした。事前課題をもちより、クラス内で発表、ディスカッションする機会を合計3回設けた。 授業評価では、30分以上の準備をしたと回答したのは、2、3回が24名、4、5回が12名、6回が1名で、全くしていないのは39名であった。復習についても同様の傾向であった。授業の記録は、配布資料にしたと回答した学生が殆どであった。配布した講義の資料、参考資料、課題、ワークシートなどはファイルに綴じるよう求め、定期試験終了後に提出を求め、学習状況として採点対象とした。かつ抜きプリントについては、全ての学生が書き込みしていた。発展的な学習、資料収集をしている学生が少数ではあるが確認できた。逆に、板書(OHC)で説明した事柄を配布資料に記載されていないものも多かった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	評価の配分は定期試験60%、課題提出30%、ファイル提出10%で、定期試験の30%は記述式、他は選択式であった。全体の評価平均点は76.5点、標準偏差7.3、尖度-0.29、歪度-0.19の正規性の高い分布となった。秀2名、優33名、良49名、可16名で、1名は再試験で合格となった。老年看護は、記憶する必要のある知識と、深く人間やその考えを理解したり、創造性を以て思考する能力が要求されるが、定期試験による知識の確認、高齢者や環境を理解するために資料を収集し、それを基に論述する学習活動を通して、老年看護の基礎的知識や態度を修得できたと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	従来に比べ、老年看護学概論では、アセスメントや看護に直接必要な事柄ではなく、高齢者の豊かな生、生きがい、超高齢者の生き方、サクセスフルエイジング、高齢者の意思決定、高齢者の意思決定、エンドオブライフケア、看護中範囲理論(スピリチュアリティ、レジリエンス、コンフォート、エンパワメント)等から構成し、概論の科目としては妥当で、充実した内容となった。 様々な事例や資料で、これらを提示したが、抽象的な主題で、授業評価項目にある、学生が高齢者を看護するための「力」「技術」「判断する力」を身につけたと解釈することは難しかったと考える。このことが授業評価のなかでも「わりにそうだと思う」「まあまあそうだと思う」の回答が中心で、「かなりそうだと思う」が少なく、平均点が4を下回っている原因だと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	上記のように、老年看護学概論としての内容構成については妥当であり、変更はしない。が、学生がその学びを将来どのように活かせるのかという点での説明を加える、事例を示しながら学習動機を明確にさせるなどの工夫をする。 また、今年度は、毎時授業評価、アンケート、感想などのWeb調査を廃止していたが、学生が意見や感想を書く機会が少なかったので、発表、ディスカッション、アンケート記入などの学習活動を多くする。これによって授業の質評価で、3.3-3.5点であった該当項目を改善できると考える。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	老年看護学概論、老年看護学方法論、老年看護学演習、老年看護学実習I,IIを総合して、高齢者看護について学ぶ体系を考慮しながら科目構成、内容、方法を検討している。構成の整備、資料などの教材の整備は、毎年学生の反応、達成度、臨地実習での成果をモニタリングしながら、全ての科目について老年看護学教育のマップを作成し調整している。部分的に充実や改善が得られてきているので、総合的にも老年看護学教育の充実が進行していると考えられるが、その成果の示し方についても検討していく。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	吉原 悦子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
地域連携協働支援論	2	前期	必修	いいえ	103

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本年度より開講の必修科目である。「地域で生活する人々」をキーワードとし、自らの生活に着眼するところから始めた。 ①自分自身のことと捉えられるように日常生活をイメージするような課題を提供し、講義を行った。 ②講義に集中できるように学生個人での作業とグループワークを取り入れ、発表する機会を設けた。 ③学生の自由な発想を妨げないように行った。 ④講義の中で地域・看護・認知症・高齢者・障害者などのキーワードでのトピックスなどを交えて提供し、幅広い視野を持っているように行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	前期試験の平均点は76.5点であり標準的なレベルに到達していると考えられる。理想レベルに達したものは33%であった。目標別にみると、知・識理解に関しては71%、思考・判断については76%、関心・意欲については76%、であり全体的に講義に対して、真面目に取り組む姿勢がみられた。しかし、この科目は「地域で生活する人々」をキーワードとし、自分自身のことと捉えられるように日常生活をイメージすることを目指していることから見ると、関心意欲は「達成」のレベルを目指す必要がある。 学生の到達度自己評価は3.6-3.8であり、「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた」最も高かった。中央値もすべて4.0であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、看護学科科目のうち「看護の発展」に位置付けられており、必修科目である。専門科目のベースとなり、内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 行動目標については、授業評価アンケートの結果からは、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(3.7)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(3.7)、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」(3.8)「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた。」(3.8)であった。これまでに学んできた知識を生かす、また、今後学んでいく内容とも関連があり、学習意欲への促しにつながったのではないかと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では、全員が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しており、平均値も3.7～3.9であり、概ね評価や質問に対する対応ができていたと考える。 「授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由」として、「必要性を感じなかった」とする意見や予復習や自発的学習に取り組んでいない学生が多かった。シラバスの活用や講義終了時の説明を加えていきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目では、行動目標については概ね達成できたと考える。しかし、個人差もありさらに学生全員の達成状況を上げ、学生自身が主体的学習者として、関心をもつことを目指していきたい。各領域に関連する科目であり、上位学年の学習意欲につながることを目指して授業改善を図っていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	小田 日出子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護キャリア形成論	2	前期	必修	いいえ	103

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	当該科目は2018年度看護学科カリキュラム改正に伴う新設科目であり、総合人間科学「キャリア開発」(必修)を受けて、2年前期の「必修科目」として配置されている。従って、学生の殆どは「必修科目である」(98.9%)ことを受講動機としていたが、一部「関心のある内容」(15.9%)でもあったようである。加えて、少数ではあるが「単位数を確保する」(6.8%)、「資格取得に必要」(4.5%)、「GPAをあげる」(2.3%)、「友達が履修している」(1.1%)を受講動機とした学生もいた。 授業では、キャリアライフプランニングに必要な知識の学修を前提に、まずは①自己理解・職業理解を深めること、②大学4年間さらには卒業後のキャリア形成過程を含めて、自らの看護キャリアデザインをどう描くかについて考える機会とすること、最終的には③看護職としての自らの将来像を明確化できることを目標とした。 よって、多くの時間を学生間のグループディスカッションに充てて授業を展開した。3回目の授業では、本学看護学科の卒業生3名(①東南アジアで看護師教育に携わっている者、②大学院修士課程を修了し、自身の夢であった「がん看護専門看護師」としての道を歩み始めた者、③助産師教育に携わっている者)を外部講師として招き、パネルディスカッションを行った。授業最終日には、学生間で選抜された代表者15名による「私のキャリアプラン」の発表を行い、全8回の授業を通して、学生一人ひとりが看護者としての自らの将来を具体的にイメージし、目標や現状での課題を明確化することにより、今後の学びの意欲・関心の向上に繋げること、または職業アイデンティティの確立を促したいと考えた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された			達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	当該科目の評価は、課題レポート、発表(口頭、プレゼンテーション)及び平常時の授業への取り組み(積極的学習態度、グループワーク参加度/貢献度など)により行った。評価点のクラス平均は81.0±8.16点(最高93点、最低30点)で、成績分布の内訳は、標準レベル以上の学生が97/103名、94.2%、うち理想レベルに達した者は61/103名、59.2%、努力を要する「可」レベルの者は4/103名、3.9%であった。残り2名、1.9%が「不可」となったが、その理由は、長期欠席による受験失格及びレポート等の課題放棄によるものであった。以上の結果より、当該科目における【意欲・関心】【態度】の教育目標は「達成された」と考えた。 学生による授業評価アンケートでは、到達度自己評価について、「自分なりに目標を達成した」を「かなりそうだと思う」が35.4%、「わりにそうだと思う」が51.5%で全体の86.9%を占めており、「まあまあそうだと思う」13.1%を合わせると、回答した学生全員「達成できた」と自己評価していた。成績評価{秀 11名(10.7%)、優 50名(48.5%)、良 36名(35.0%)}とも勘案し、全体を通して、教育目標は「達成された」と判断した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ても内容妥当性 本授業は看護学科がカリキュラムの柱の一つとした「看護キャリア形成と看護実践」に属する科目である。授業では、職業としての「看護」を選択し看護学科で2年目を迎えた学生を対象に、「看護」を職業とする自らの生き方を含めたキャリアライフデザインをどう描くかについて考える機会をもつことで、学生個々の看護キャリア形成に繋げることを目的とした。2年次の学生が主体的・積極的に学ぶための本授業での工夫としては、AL(グループワーク、発表(口頭、プレゼンテーション)、パネルディスカッション等)の活用、教員はファシリテーター役割に徹することを心がけた。結果として、授業評価アンケートの到達度自己評価において、学生は「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(4.3/4.0)、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.4/4.0)及び「職業選択の参考になった」(4.5/5.0)と評価していた。また「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(4.5/5.0)とも評価していた。以上より、授業内容は、CP、カリキュラムマップ上の位置づけに対応した妥当性のある内容であったと考えている。 ②DP、行動目標から見た内容妥当性 シラバスに記載した【関心意欲】【態度】に係る行動目標について、授業評価アンケートでは、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.5/4.0)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(4.2/4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」(4.2/4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」(4.1/4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(4.3/4.0)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(4.5/5.0)と、いずれも高い評価であった。全体として、当該科目で「学生が達成すべき行動目標」についても、学生は「自分なりの目標を達成した」(4.2/4.0)と自己評価しており、DP、行動目標から見た内容妥当性も確保できたと考えている。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。	授業はグループワーク中心に展開した。科目特性として、事前の調べ学習等、課題を課さねばならない内容ではなかったことから、学修のための情報は「この授業を履修する際にシラバスの記載を参考にした」学生が多く(73.7%)、図書館利用(16.2%)、学術データベース利用(9.1%)、インターネットのHP利用(28.2%)は何れも少なかった。そのため、学習量の評価(授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由)に「する必要がない(2)」「他の教科に時間が必要(5)」の記述がある中で、学習量の評価(授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習に内容)には「自分の将来像をイメージし、図書・PCで情報収集」「自分について考えた」「職業について調べ、キャリアを見つめ直した」「他者の話を聴き、自分に足りないことを見つけようとした」「図書館を利用した」「看護師と要教について調べて自分のなりたいものを決めた」「自分を見つめ直す機会が増えた」「予習・復習(3)」と、自主的・主体的に科目に係る調べ学習に取り組んだり、自分を振り返ったり、自分について考えたり...と、学生からのポジティブな意見も多く寄せられており、こうした反応は、看護キャリア形成への【関心・意欲】【態度】の高揚を裏付ける意見として素直に嬉しかった。 授業の質評価では、5項目中「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」(4.7/5.0)が最も高かった。残り4項目も「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らであった」(4.5/5.0)、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」(4.5/5.0)、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」(4.5/5.0)、「説明は理解しやすいものであった」(4.5/5.0)と高い評価を得た。今年度、新たに担当した科目ではあったが、自分なりに、学生個々に看護職としての未来を描かせること、学生個々に自らのキャリアビジョンを語らせること、さらに、各自のキャリアライフプランニングに繋げることの3点を大切と考え、授業を構成・展開してきた。その進め方や方向性は妥当であったと考えている。次年度も、①学生の「自己理解」を促し、②「看護」への興味・関心、職業としての理解を深め、③学生自らの意思決定によって「職業」を選択し、④将来的なキャリアライフプランニングに繋げられるように、できるだけ楽しく面白く、そして積極的に参加したいと思ってもらえるような授業づくりを工夫・実践していきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業評価アンケートより、科目履修後の学生は「職業選択の参考になった」(4.5/4.0)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(4.5/5.0)、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.4/4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(4.3/4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」(4.2/4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」(4.2/4.0)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(4.2/4.0)、「職業倫理や行動規範(守るべきルールなど)について学ぶことができた」(4.1/4.0)として、全体を通して「自分なりの目標を達成した」(4.2/4.0)と自己評価していたことから、当該科目で「学生が達成すべき行動目標」【関心・意欲】【態度】は「達成された」と考えている。また、授業の質評価においても「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」(4.7/5.0)、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」(4.5/5.0)、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」(4.5/5.0)、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」(4.5/5.0)、「説明は理解しやすいものであった」(4.5/5.0)と全て4.5ポイント以上と、高い評価を得た。学生の自由記述にも前向きな意見が多かった。本授業に対し、到達度自己評価を「自分なりに目標を達成した」とした学生について、回答した99名(100%)の内訳は「かなりそうだと思う」(35.4%)、「わりにそうだと思う」(51.5%)が全体の86.9%を占め、「まあまあそうだと思う」(13.1%)を合わせると学生の凡そ9割が当該科目で達成すべき学習目標を「達成できた」としていた。以上の結果をふまえて、全体を通しての評価を「達成された」と判断した。次年度も、ここまでの振り返りを活かしてさらなる改善に努めたい。
-----------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疫学	2	前期	選択	いいえ	67

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は、今年度より2年生後期から2年生前期に配置された選択科目である。保健師課程の学生には必修科目である。開講時期が前期となったため、昨年度の受講者数34名から66名と大幅に増加した。そのため、受講動機では、「単位数を確保する」51.6%と最も多く、「資格取得に必要である」が33.9%となっている。 ②本科目は数的理解および推察・思考・判断を求める内容であるため、受講対象が実習前の2年生であることから、授業計画において、実際の地域課題に即した授業内容を取り入れ、単純から複雑へ考察が深まるように計画した。前年度の学習成果を踏まえ、今年度も基本的展開を同一とし、受講学生の学習進行に合わせて微調整を行う展開とした。 ③アクティブ・ラーニングの授業形態となっている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、79.8点であり、再試対象者は5名いた。標準的レベルに達した学生が92.4%であり、内、理想的レベルに達した学生は、53.1%であった。 目標別にみると、知識理解に関しては83.0%、思考判断に関しては75.0%であった。昨年同様、スタートのモチベーションが低い状況がみられ、数的処理に関して苦手意識が強い傾向にある。科目の学年進行が早い時期に移動し、半数以上を目的の受講動機であったため、特に導入部分の演習について、教材の検討を加えた。講義は、アクティブ・ラーニングの授業形態であり、教材を地域の具体的題材を取り入れることにより、学習意欲が高まり、保健師としての専門的態度を身につける上でも学生の到達度自己評価からも効果的であると判断できる。 「学習量の評価」において、1回30分以上の準備を6回以上したものが、64.6%であり、4.5回以上したものを合わせると、73.8%となっている。「到達度自己評価」では、すべての項目が3.7以上となっている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」の「公衆衛生看護科目」の位置にあり、選択科目である。保健師課程選択希望者が受講するため、受講動機は明確であるが、開講学年が2年生前期であるため、授業内容の専門性の難易度を考慮することが重要である。 最終的な成績評価からは、93.4%が標準的レベルに達し、53.1%が理想的レベルに達成していることから内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみた内容的妥当性 思考判断および態度に位置付けられた科目である。思考判断に関しては74.9%、態度はほとんどの者が達成していることから内容的には妥当であると考ええる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価において、1回30分以上の準備を4回以上行った学生が73.8%である。課題の提供については、毎時実施していたが、まだまだ全員の学生が取り組む状況でなかったことがわかる。一定の成果は出ていると評価できる。数的処理に対し、抵抗がある学生のための授業時間外の細やかな個別指導の成果も見える。 授業の質評価においては、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「説明は理解しやすいものであった」「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに応える機会が作られていた」のいずれの項目においてもそうでないと思う等の否定的意見はみられなかった。いずれの項目も4.0以上となっている。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目の達成状況については、授業成績および授業評価アンケートより計画している状況は概ね達成できていると評価できる。 2019年度からは、2年生後期科目から2年生前期科目と移行するため、さらに授業内容を精選し、受講学生全員の達成状況が理想的レベルに達するよう検討を加えてたが、大幅な受講生増のため、全員の学生が達成することは出来なかったが、学年進行が早まったことによる学習成果の減少するという変化は見られなかった。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護方法論Ⅰ	2	前期	選択	いいえ	61

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	公衆衛生看護関係科目群において、公衆衛生看護の方法と技術を教授する科目である。今年度から、開講時期が早まり、2年後期から前期へと開講時期が変更された科目である。そのため、学生の準備性は、前年度までと異なっている。基礎看護学実習を終えていない時期である。保健師課程を希望して出願につながるように、実践のトピックスを提示し、学生の理解を促すことに留意した。 受講動機をみると「必修科目である」19.0%である。「資格取得に必要である」43.1%、「単位数を確保する」37.9%であった。保健師選択を希望する者は、「必修科目」「資格取得に必要」としての認識をもっていると考えられる。看護師課程学生の選択科目となっているため、「単位数を確保する」という動機が約4割をしめた。一方、「関心のある内容である」6.9%と最も低かった。科目に対する動機づけに関して、保健師課程希望者と単位取得のための受講者とはほぼ同じ割合で含まれるクラスであったことが明らかになった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は71.6点で昨年度より減少。再試対象は7名であった。理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは10名(16.7%)であった。観点別評価の達成度(客観的)に見ると、知識理解及び思考判断に関する評価は、試験、グループ発表及び質疑応答を通して75.3%であった。前年度までの受講生数から2倍近くに増加しており、課題成果の到達状況には学生間でかなり差が開いた。関心意欲及び態度では、日々の授業貢献度に加えて、グループ発表時の質問や発言などの意見交換をみたが、発言者は限られており、達成度は70.0%であった。 学生の「学習到達度の自己評価」では、平均点はすべて4点未満で低い。最も高かった項目は、「自分なりの目標を達成した」平均3.8(中央値4.0)で、他項目はすべて3.6(中央値4.0)であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、公衆衛生看護関係科目群に位置づけられており、看護師課程の各論領域に関する概論を修了あるいは同時開講している時期である。また、公衆衛生看護学概論を履修した後、方法論としての各論が位置づけられている。「学習到達度の自己評価」をみると、上記にも示したように、全項目ともにほぼ達成されている。受講動機では、「資格取得に必要である」ことや「関心のある内容である」の項目への回答がある。以上より、DP、CP、カリキュラムマップにおいて本科目の位置づけは内容的に妥当であると評価できる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方では、新科目であり、受講者数の把握が開講直前であったため、前年度までの旧カリキュラム科目の授業を基盤に進めた。そのため、授業の質評価の平均は、いずれも4未満であった。「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」(平均値3.8 中央値4.0)で最も高かったものの、一方、到達自己評価の項目、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」では平均3.6(中央値4.0)で、十分に反映されているとはいえない。また、「説明は理解しやすいものだった」では平均3.6(中央値4.0)と最も低かった。授業での理解しやすい説明となるよう工夫が必要である。到達度自己評価で高い項目は、「自分なりの目標を達成した」平均3.7(中央値4.0)で他項目は全て3.6であった。 自己学習課題では、図書館での文献検索を必要とする課題を提示していたため、「図書館、インターネット利用」は54.7%の学生が利用していた。新設科目で開講時期も変わったため、前年度との比較はできないが、来年度各評価得点の改善に向けていく。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	保健師課程では必修科目、看護師課程では選択科目に位置づけられる。受講動機は、それらを反映し「資格取得に必要である」と、「単位取得のため」など多様であった。学習到達度は、ほぼ全員が到達した。学生の到達度自己評価及び授業の質評価の平均はいずれも3.6-3.8の間であった。特化して改善すべき項目があるというよりは、全体的に学生の理解度を高めるための説明のあり方や、関心・意欲を高めるような工夫が必要であると考えられる。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ	2	前期	選択	いいえ	44

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は看護学科「看護実践の基盤」として1年次の「公衆衛生看護学概論」既習後に受講する。「公衆衛生看護学関係科目」として主に学校保健と産業保健を学ぶ科目である。この教科は、看護専門科目としては選択科目であるが、保健師国家試験受験資格取得を目指す学生にとっては必修科目である。そのため、保健師国家試験受験資格取得希望者にとって必要な学校保健と産業保健の基礎知識の習得とその理解が求められる。新カリキュラムに移行後、今年度が初めての開講となる。この科目は8コマで構成され、今年度は、2人の教員で受け持った。各4コマの授業について、事前に担当教員で評価を含め相談し授業を実施した。 学生の受講動機は、「資格取得に必要」が60%、ついで「単位数確保」が28%、その次に「関心ある内容」が15%という結果であった。これからみると学生の受講動機は、「関心ある内容」で受講するというより、「資格取得」や「単位数確保」に必要ということで受講している様子が伺える。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	どちらともいえない	達成された	達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値75.4(±7.9)、再試対象は、2名であった。理想的レベル(概ね成績「優」・「秀」レベル)は37%、成績「良」レベルが49%であった。 目標別達成率、DP1は70%、DP2は93%、DP3は93%、DP4は92%であった。学生の到達度自己評価の平均値は3.7～4.0で、全体的なばらつきはみられなかった。 DPの「知識理解」は、定期試験で問うたが、確実な知識理解に結びついていない状況がみられた。他のDPに関しては、グループ発表などを中心とした資料作成や発表などで評価し、学生の到達度は高かった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、先述したように、公衆衛生看護関係科目として、多くの学生は、「資格取得」や「単位数確保」に必要な科目として受講している。授業内容としては、学生の活動場面を増やすなど、一方的な講義にならないような授業を工夫している。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価からみるとDP「知識理解」の達成度はやや低く、他のDP項目は達成している。DP「知識理解」に必要な資料については学生に提示している。学生も98%が「資料に記録した」と回答している。そのため、授業内容は、概ね妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の到達度自己評価の平均値は3.7～4.0で、授業の質評価の平均値3.9～4.1で大きなばらつきはみられなかった。 学生の学習量に対する学生の自己評価は、「30分以上の予習0回」の学生が19.5%、「30分以上の復習0回」の学生が29.4%みられた。 学習のための図書館の利用、学生は、図書39%、データベース34.1%、ホームページ56.1%「利用した」と回答していた。 予習・復習については、それぞれの担当者が課題を提示し、学生が提出しているにもかかわらず予習や復習が0回と回答している学生がいる。そのため、その課題等をどのように実施していたのかについて確認することが必要である。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	看護専門科目の選択科目であるが、保健師国家試験受験資格取得希望者にとっては必修科目でもある。学生は、この科目を「資格取得」に必要という認識で受講し、「関心ある教科」という意味での受講動機は低い傾向がみられた。次年度、資格取得に必要な知識理解の必要性を受講者にもっと理解してもらう必要性を感じる。授業過程を振り返ると、知識理解については、資料を利用しておさえていたつもりであったが、学習の振り返りは学生自身に任せていた。次年度、学生の復習については、学生に任せるだけでなく、各担当で検討したい。
------------------------------	---